



千八百七十八年  
萬國貨幣會議誌

第二





114  
A1423  
2

第三回會議日誌

一千八百七十八年八月十九日(月曜日)

此日茲ニ來會セシ面々即チ左ノ如シ

奧斯太洪葛利百耳義仏蘭西大英國希臘西伊太利阿蘭陀魯細  
亞瑞典那威瑞西及ヒ亞米加合衆國等諸國ノ代議者ニシテ以  
上ニ是レ前回會議ニ臨席サレタル銘々ナリキ

此日午後第一時三十分ヨリ以テ開會シタリ

其時議長セイ氏カ發意ニ依リ衆議皆チ從前ノ如ク每前回會議  
ニ於テ談議シイタル事ヲバ今回會議ニ至リ衆議員ノ目前ニ  
於テ公ケニ之ヲ讀述センヨリハ今後一々之カ記録ヲ各議員  
ノ熟覽ニ供シ就テ其誤違ナキヤ否ヲ糾スヘキノ便宜ナルニ決  
定シタリ

大正十一年四月  
隈侯爵邸

村山三郎譯



此ニ於テゴスチン氏ハ更ニ同氏カ前四會議ノ際英吉利斯及ヒ其殖民地地方ニ行ハル、處ノ貨幣制度ニ涉レル一篇ヲ差出シタルヲ續テミイス氏モ亦其國阿蘭亞國及ヒ其殖民地地方ノ貨幣制度ニ関シタル記録ヲ提挙シタルヲ述タル後若シ餘他諸國ノ代議者モ各々順番ヲ追テ其國ニ屬セル之ト同様ノ書類即チ其國通用正貨ヲ制御スル處ノ法令ノ大畧記ヲ差出タサレタキヲ望ミ且ツ若シ西米利加合衆國代議者中ヨリ彼國現在ノ金銀額量如何計リナルヤヲ陳告サル、フアルニ於テハ之ニ據リ諸國代議者ノ面々各々合衆國政府ニ於テ彌ヨ来ル一月一日ニ至リ且ツ其後チ正貨ヲ以テ實際ノ通用ニ供シ能フヘキ高ノ幾許ナルヘキヤヲ知リ能フカ故ニ大ニ當會議ノタメ有益ナルヘキヲヲ述エラレタリ

右ゴスチン氏カ望ニ任セ。フエントン氏ハ彼ノ國(西米利加合衆

國大藏卿カ書翰ノ拔萃ヲ將テ之ヲ議員ノ面々ニ示サレタリ其書面ニ據レハ

- 金貨 一億六千三百三十四万三千九百十四弗
- 本位弗貨 六百八十八万七千九百四十八弗
- 塊金 六百。九万九千四百三十九弗
- 塊銀 五百八十九万二千二百。一弗
- 總高 一億八千。二十二万二千五百。二弗

此内其半ハ正金交換手形消済ノタメ其半ハ貯蓄金預リ手形ヲ拂ハンカタメ合セテ五千六百七十四万七千五百。二弗ハ準備ニナルヘカラス故ニ之ニ觸ル、能ハス差引一億二千三百四十七万四千八百二十二弗ハ全ク彼ノ通用綠背券引換エノタメ自由ニ之ヲ用井テ可ナリ

當時流通ノ綠背券ハ其高三億四千六百六十一万八千。十



六弗ナリト云ヘリ

當時大蔵省庫藏中副用銀貨現在高ハ七百十三万六千五百二十九弗ナリト云フ

議長セイ氏問テ曰ク然ラハ則チ右金額ハ残ラス之ヲ使用スルニ自由ナルモノカ又ハ紙幣ヲ交換スルノ外別ニ他ノ用ニ供セント欲スル者カ

ホルトン氏答テ曰ク其中一億二千万弗位ハ確カニ之ヲ自由使用ニ供シテ可ナラン然レモ前ニ掲タル額中ニハ曾テ銀行及ヒ私民ノ櫃裏ニ在ル處ノ正金高ヲ算入セサル者ト心得給フヘシゴスチン氏問テ曰ク蓋シ合衆國政府ノ真意ハ弥ヨ紙幣交換ヲ始ムルノ前尚ホ益ス更ニ右用意トシテ正金銀ヲ取込ント欲スルモノナランカ

フエンソン氏答テ曰ク尤モ貯蓄ノ金銀ハ益ス増加スルヲ見ル

而シテ合衆國政府ニ於テハ其紙幣交換ノタメ果シテ若干ノ正金額ヲ要スルヤヲ確定スルヲ能ハスト雖モ到底其交換ヲ始メ且ツ之ヲ維持シ得ル丈ケノ正金ハ現然之ヲ有シ後來尚ホ益ス其多キヲ加フルノ見込アルナリ

グロースベック氏其語尾ヲ續テ曰ク「方今輸出入ノ權衡ハ大ニ合衆國ノタメニ利アリテ常ニ他國ヨリ金貨ヲ取入レルノ勢アリト且ツ此時更ニグロースベック氏カ差出サレタル大蔵卿ノ書翰ニ依レハ當時紙幣交換ノタメニ供セラレタル正金ノ數額ハ全國中ニ流通セル貨幣惣額百分ノ三十五ナリト云ヘリ加フルニ書中高ホ一亭ヲ奉ケテ以テ彌ヨ明年一月一日ニ至レハ必ス正貨ヲ以テ紙幣ヲ交換スルノ難カラサルヘキヲ述タル者アリキ即チ曾テ合衆國政府發行ノ紙幣ハ金ト比較シテ僅カニ百分ノ半ヲ差減スルノミニテ全國ニ通用シテ列ラサル所ナク



人々嘗テ之ヲ忌嫌スル者ナカリキ當時ニ在テハ決シテ弗ヨリ  
テ弗ニ代フルカ如キ所謂ル交換ナル者ノ後來必要トナルヘキ  
ヲ豫知セサリシナリト而シテ此事ニ付テハグロリスベック  
氏自ラ新約克ノ諸銀行高ト商議セシテアリタル由ニテ其言ヒ  
シ處皆ナ大藏卿ノ意見ヲ賛成シテ齊シク交換ノ難カラサルヲ  
保証シタリト云ヘリ

フエントン氏曰ク合衆国政府ハ絶ニス其貯備正貨ノ數額ヲ増  
加セリ即チ一千八百七十七年七月一日ヨリ一千八百七十八年  
七月一日マテ一ケ年ノ間ニ其貯備正貨増加ノ高ハ初メ一千八  
百七十七年七月一日ニ存在セシ全額ノ半数ニ當レリト云フ而  
シテ今後尚ホ此ト一樣ノ割合ヲ以テ益ス増加スルノ見込ミナ  
リ  
ゴスチン氏曰ク固ヨリ余カ以上ノ疑問ヲ垂レタルハ決シテ合

衆國政府ニ於テ紙幣ノ交換ヲ實施スルヲ得ルノカアルヤ否  
ヲ疑フテ之ニ及ヒタルニ非ス唯ハ合衆国政府ニ於テハ世界ノ  
大市場ニ於テ他國ヨリ幾許ノ銀ヲ買入ル、ヲ要スルヤヲ探  
知センカタメナリキ而シテ近<sup>報</sup>乾余カ聞キ得タル所ニ據レハ其  
金ヲ以テ其銀ニ比スレハ殊ニ多額ニシテ今後彼政府ハ頻リニ  
銀ヲ買入レルカ或ハ其金ノ一部ヲ以テ銀ト交換セサルヲ得サ  
ルノ位置ニ居ル由ナリ此事後日ニ至テ銀ノ有様如何カアルヘ  
キヤヲ示スニ足ルヘク又之ニ付テ此回當議會ニ其代議者ヲ出  
シタル諸國ノ大ニ關係ヲ有スルヲアレハナリ  
グロリスベック氏曰ク前回會議ニ於テ發言シタル如ク若シ各  
國ノ際ニ貨幣同盟ヲ起スニ至ラハ我カ合衆国ハ敢テ歐羅巴諸  
國ノタメ帝ニ今年及ヒ明年中合衆国中ニ生産スル處ノ銀ヲハ  
悉ク自用スルノミナラス尚ホ又通シテ日耳曼國ニモ及ヒ其銀



ヲ買求スルニ至ルヘキナリ  
フエントン氏ハ敢テ議員ノ面々カ合衆國政府ニ取テハ其銀ヲ  
ミテ其舊ニ復セシムルヲ以テ必シモ紙幣交換ノタメ欠ク可  
カラサルヲト為サス唯其便宜多キニ由ルノミナルヲ承知サ  
レタキ旨ヲ述ラレタリ  
ブロット氏曰ク若シ現今流通セル小紙幣即チ一弗二弗紙幣其  
外綠背券ノ數額ヲ知ルヲ得ハ唯今ゴスチン氏カ知ラント欲  
セラレタル一事即チ彼ノ銀貨恢復ノ事ニ由テ合衆國ハ畢竟如  
何計リノ銀ヲ要スヘキヤヲ知り得ヘシ  
ホルトン氏曰ク蓋シ右類稱ノ小紙幣ハ現ニ其流通間ニ存在ス  
ル者甚タ多カルヘシ然レモ余不幸ニシテ即時其確實精細ノ數  
ヲ拳クルヲ能ハス可成丈々速ニ之ヲ糺シテ以テ議會ニ供付ス  
ヘシ

云

ゴスチン氏敢テ前回會議ニ於テグロースベック氏カ陳告サレ  
タル事項中ノ一條ニ付キ稍ヤ議員諸氏ノ注意アラントヲ請  
テ曰ク前回會議ニ於テ亞米利加代議者グロースベック氏ハ其  
此所ニ差遣ハサレテ事ヲ議スルニ當リ若シ會議ノ決ヲ得ル  
アレハ唯之ヲ其政府ニ報道シ以テ其報告書中ノ決議ニ基キ其  
議院ニ附シテ敢テ此趣意ヲ採テ法律ト為サンヲ謀リ得ルノ  
ミナリト然ラハ則チ蓋シ合衆國ノ代議者ト必ス當議院ニ決定  
シタル克項ハ其如何ヲ問ハス悉ク之ヲ以テ其國議院ノ評議ニ  
附スヘキノ權利又ハ之ヲ附セサル可ラサルノ義務アル者ナル  
カヅロースベック氏ハ前回會議中曾テ合衆國ノ代議者ハ斯ル  
廣大ニ且ツ確定サレタル權利ヲ有スルヲナシ然レモ同氏カ信  
スル處ニ依レハ合衆國政府ハ若シ當會議ヲ以テ決定シタル事  
柄ノ能ク初メ當會議ヲ開キタルノ趣意ニ協フヲ見ハ必ス異議



ナク右決議ヲ批准スヘキノ旨ヲ述ラレタリ是レ大ニ我カ政府  
ノ意トスル處即チ余カ即今居ル處ノ位置ニ違ヘル者ニシテ恐  
クハ他國ノ代議者モ其合衆議者ト同一ノ位置ニ居ラル、者多  
カラサル可シト信セラル余カ思フ處ニ依レハ各國ノ代議者ハ  
多クハ余ト同一ノ譯合ヲ以テ到底其國政府ヨリ吩咐サレタル  
命令ノタメニ約束サレ自巳ノ意ヲ以テ決シテ一モ專斷ノ處置  
ヲ為スヲ能ハサルモノナルヘシ然リ而シテ今余カ此度ニ注意  
スルヲ以テ敢テ有用ナルモノト為ス所以ハ即チ前會ニ於テヒ  
ルメツ氏カ云ハレタル如ク此回亞米利加合衆國政府ノ企ヲ以  
テ議案トナシ當議會ニ附セラレタル論旨ハ其實暗ニ各國齊シ  
ク兩立本位ノ制度ヲ脩ムルニ決スヘキヲ勸ムル者ナルヲ了  
了知スレハナリ惟フニ當席ノ代議者中何レモ一立金貸本位ノ  
制度ヲ左右スヘキ議案ヲ賛成スルヲ能ハサルノ面々多カルヘ

シ即チ那威政府ノ代議者ハ此自由ヲ有スルヲナク英國ノ代議  
者モ亦之ヲ有セス而シテ彼羅甸貨幣同盟諸國ノ代議者ニ至テ  
ハ即チ相互ニ其間ニ結約セル處アルヲ以テ現然妄リニ其成立  
スル處ノ金銀割合相場ヲ變更シ若クハ銀貨鑄造自由ヲ許スカ  
如キ議案ヲ賛成スルノ理ナカルヘシ故ニ其帰着スル處ヲ要言  
スレハ合衆國政府ハ代議者ノ諸氏ニ勸メテ以テ或ハ其自國政  
府ヨリ決シテ成スヘカラサルノ命令アル度柄ヲ賛成セシメン  
トヲ務ムルニ當ルヘシ然レモ今其理由ヲ述スレテ初メヨリ右  
議案ヲ拒却スルノ舉アルニ於テハ世人動モスレハ之ヲ拒ミタ  
ルノ趣意ヲ謬解シ或ハ全ク銀ヲ以テ貨幣ト為スヘシノ議案ヲ  
破却スル者ト認ムルヲアルモ計リ難シ事情若シ斯ノ如クンハ  
之カタメ後來一般ノ影響ヲ銀價上ニ起シ其決果ニ至テハ或ハ  
曾テ之ヲ拒却シタル多數議員ノ意表ニ出ル者ナキヲ保シ難シ



夫レ然リ焉ッ夫レ然ラン今回合衆国ヨリ當議會ニ附セラレタ  
ル議案中ニハ當會議員ノ諸君及ヒ余ト雖モ自ラ我カ政府ノ意  
見如何ヲ論セサルトキハ別テ何處マテモ之ヲ賛成スヘキノ箇  
條ナキニ非ス即チ銀ヲシテ世界中全ク貨幣タルヲ罷メシム  
ヘキヲ欲セサル者は是レナリ要スルニ亞米利加政府カ提起シ  
タル議案ハ語辭其適宜明細ヲ得タル者ト稱ス可ラス即チ固ヨ  
リ歐羅巴ノ或ル諸邦中ニモ銀貨本位ヲ採用シテ可ナリト為ス  
者亦多カルヘシ又至當ノ理ト謂ハサル可ラス然レモ歐羅巴各  
國殘ラス一齊ニ右制度ヲ採用スヘシト云フハ大ニ不當ナルト  
ニテ恐クハ是レ合衆国代議者カ口頭ノ誤謬ニテ其實其欲スル  
處ヲ踰エ之カタメ曾テ其免ルヘキノ非難ヲ免レス無用ノ反對  
論者ヲ喚起シタルヲアルヘシ今斯ル言語ノ間違ヒヨリシテ或  
ハ其云ハシト欲スル處ヲ踰エテ之ヲ云ヒ又譬エハ銀ノ如キ實

際亞米利加政府ノ意ハ左ニアラサルヘキヲ明カナリト雖モ  
少或ハ之ヲ擯斥スルノ情アルカ如ク聞ユルカタメ當議案ノ悉  
ク排却サル、ニ遇エハ是レ又遺憾ト云フヘキナリ然レモ現ニ  
英吉利斯ハ其金貨本位ノ制度ヲ動サ、ルヘキヲ主張シ那威  
モ亦之ニ同シ日耳曼モ亦違フ所ナク彼羅甸貨幣同盟諸国ノ如  
キモ現ニ其約束サル、処ノ一ト十五半ノ割合相場ヲ離ル、ト  
ヲ肯セサルヘシ左スレハ既ニ諸国多クハ今日其自国政策ノ在  
ル處ニ自決シテ些シモ動カサルヘキヲ以テ殆ニト當會議ノ夕  
メニ殘ス処ノ者稀ナリト云フヘシ又墺斯太利伊太利及ヒ魯細  
亞ハ理論上右動議ヲ賛成スルヤモ計リ難シト雖モ實際ニ於テ  
ハ彼ノ諸国ノ如キ自ラ抑制流通ノ制ヲ有ツカ故ニ決シテ右議  
案ヲ維持スルノ念ナカルヘシ故ニ徒ラニ兩立貨幣制度ノ空理  
ヲ論シ若クハ一立貨幣ノ利害ヲ妄説スルハ余カ見ル處ニ依レ



ハ唯情ムヘキ光陰ヲ消滅スルニ過キス即チ豫メ其地ニ成功  
ナキトノ定マリタル議論ニ盡カシ之ヨリシテ嘗テ之ニ從フ者  
ナキトノ知ラレタル條理ヲ引キ出ストモ其實功ノアル處空シ  
カルヘシ然レモ今若シ而立貨幣制度ノ議題ヲ差措キ又之ニ代  
テ研究シ必ス其實際ニ功用アルヘキ一事アリ即チ先ツ仮リニ  
今回西米利加政府ヨリ提起シタル議案ハ當會議ノタメニ容レ  
ラレサル者ナリト認メ畢竟後來銀ノ景況ハ如何カアルヘキヤ  
又實施ノ及フヘキ處各國齊シク其標賽トシテ進ムヘキ所ノ者  
ハ果シテ何レニアルカノ疑問ナリ然リ而シテ余カ説ニ依レハ  
其万国齊シク目的ト為スヘキ處ノ者ハ其地ニ行ヒ得ヘキ限  
リハ世界諸方一齊ニ銀ヲ以テ金ノ補助者トナシ之ヲ維持セン  
トニ勤ムヘキ者即チ是レナリ蓋シ一國ノ貨幣制度ハ偏ニ一立  
金貨ナルニモセヨ敢テ銀ニ對シテ駁撃ヲ試ミルハ大ニ危ウキ

事ナリトス即チ英國ノ如キモ所謂ル一立金貨本位ノ制度ヲ保  
存スト雖モ同シク通貨トシテ銀ヲ存立スルニ務メリ且ツ英國  
ハ自ラ之ヲ絶隔スルノ意ナクシテ却テ其印度地方ニ於テ銀價  
下落ノ損害ヲ被リタルヲアレハ元來此回ノ議案ヲ討論スルニ  
當テハ曾テ餘他諸國ニ比スレハ大ニ際限狭キ位置ニ居リ他ノ  
能ク之ヲ左右スヘキニ非サルナリ蓋シ英吉利斯ハ餘他諸國ニ  
比シテ最モ銀ヲ維持セントニ盡カシタル國ナリ彼羅甸貨幣同  
盟諸國ノ如キハ現ニ銀ヲ遮絶スルノ証跡ヲ示シ阿蘭陀ノ如キ  
モ亦半ハ之ヲ遮絶スルノ勢アリキ然リ而シテ如斯ク以上諸國  
ノ如キハ銀價ノ後來ニ下落セントヲ恐レテ断然制限ヲ立若ク  
ハ之ヲ遮絶スルノ手段ヲ施行シタリト雖モ獨リ英吉利斯ハ其  
自然赴ク處ニ任セ先後五ヶ年カ間凡テ之ヨリ來ル處ノ損耗ヲ  
自擔シタリ今一方ニ於テ印度政府モ亦之カタメ重大ナル損害



ヲ負、其高賈ノ如キモ其價ノ變動ヨリ限リナキ損耗ヲ受ケ公  
立諸會社ニ於テモ亦其下落ヨリ失フ處多カリキ然レモ英吉利  
斯政府ハ尚ホ依然トシテ自ラ動クナクシテ銀價ノ再ヒ其舊  
ニ復スルヲナキヤヲ望ミ居タリ若シ亦曾テ印度政府ニ於テ他  
國ノ政府カ舉動ニ習ヒ或ハ銀貨鑄造ノ量額ヲ制限シ又ハ勤メ  
テ金貨ヲ取込ム等ノヲ為シタルヲアラハ恐クハ銀貨ハ其實  
際ニアルヨリハ尚ホ一割若クハ一割半多キ下落ヲ生シタルナ  
ルヘシ故ニ蓋シ印度政府ニ於テ此際放在政策ヲ執行シタルハ  
銀價維持ノ方途ニ於テハ何ヨリノ強手援應家ナリト稱ヒテ可  
ナラン然リト雖モ若シ真實万国一統ニ銀貨ヲ廢弛センヲ相  
謀リ共ニ通牒スルニ於テハ印度政府ト雖モ亦獨リ之ヲ傍觀ス  
ルヲ得スシテ必ス万国ノ共謀ニ與ミスルノ勢ニ立至ルヲアル  
ヘシ而シテ若シ實際箇様ナル共謀ノ行ハレタル者アリセハ實

ニ銀價非常ノ下落ヲ起シ隨テ古來高業上ニ發見シタル中最モ  
過大ナル貿易ノ狂搖ヲ來タシタルナラン尤モ世界中或ル兩三  
ヶ國ノ其銀貨ヲ廢止スルカタメニハ左程ノ弊害ヲ招カサルヲ  
得ヘシト雖モ若シ天下一統之ヲ廢弛スルノ日ニ至ラハ誰アツ  
テ銀ヲ買込ム者ナク之カタメ其價ノ下落センヲ實ニ莫大ナル  
ヘキト固ヨリ論ヲ俟タサルヘシ如斯ク万国奉テ各々幾分カノ  
關係ヲ銀ニ有セサル者ナシ余ハ敢テ此時ニ當テ佛蘭西國ノ情  
態如何ニ至ルヘキ歟ヲ論究セサルヘシト雖モ爰ニ若シ白耳義  
國ノ例如何ヲ察スレハ彼國ノ如キ曩キニ莫大ノ五フランク銀貨  
ヲ鑄造シタルカ故ニ今若シ彼羅甸同盟ナル者ノ一旦破解スル  
ヲアルニ遇ヘガ必ス以上ノ貨幣ハ悉ク白耳義國ニ歸復スヘク  
而シテ之カタメ大ニ彼國ノ厄難ヲ來タスヘキト又思フヘキナ  
リ今若シ仮リニ万国齊シク一立金貨ノ制度ヲ遵奉センヲ相



約スル者アリトセハ必ス到底天下能ク何等ノ不都合モナク之  
ニ應スヘキ丈々ノ金アルヤ否ノ疑問ヲ起シ来タスヘシ而シテ  
一方ニ於テ銀價下落ノ恐レアルヘク又他方ニ於テ金價ノ騰貴  
随テ諸物代價ノ下落ヲ来タスヘキノ憂ヒアルヘシ之ニ加フ  
ルニ尚ホ一條ノ殊ニ關係多キ議題アリ即チ早晚伊太利魯細亞  
及ヒ埃斯太利ニ於テ紙幣交換ヲ實行スルノ日アリトセハ必ス  
之カタメ彼ノ諸国ニ於テ正金ヲ要スルヲ甚ク大ナルヘシ然リ  
而シテ若シ万國齊シク一立金貨ノ制度ヲ採用スルヲニ約決セ  
ル者トセハ此等諸国モ亦同シク金貨ニテ之ヲ交換セサル可カ  
ラサルノ勢ニ立チ至ルヘシ是レ實ニ困難ノ位置ト稱スヘキナ  
リ故ニ此点ヨリ之ヲ論スルトキハ銀貨存立ノ一ツ大ニ此等  
諸国ヲシテ其交換ヲ執行スルニ便ナラシメ且ツ大ニ之ヲ促カ  
スノ功アルヘシ如斯ク余ハ既ニ亞米利加政府カ今回當會議ニ

附シタル議案ヲ目シテ空理(譯者註シテ曰ク「ユトールピヤトハト  
ウマス、ウイクリイフ氏ナル英吉利斯一大名家ノ曾テ著述サレ  
タル書目ノ表題ニシテ書中「ユトールピヤ」社會ナル者ヲ想画シ此  
社會ノ人ハ凡テ理ニ於テ有ルヘキヲノミテ行フ者ト為シタル  
空論ニシテ成ル程理ニ於テハ一々左モ有ルヘキコナカラ實際  
皆ナ行ハレ難キヲノミテ拳タリ故ニ後世空理ヲ指シテ「ユトウ  
ピヤ」ト稱スルナリ」ナリト謂ヒタレ今又天下普ネク一立金貨  
ノ制度ニ歸決セシメント欲スルモ同シク空理ニシテ寧口虛理  
ニ近カシト謂テ可ナリ如斯ク當議會ニ於テハ到底亞米利加政  
府ノ發議ヲ採用セサル可シト雖モ又或ル国ニ於テハ他ノ至當  
ナル方法ヲ以テ彼ノ日耳曼国存在ノ銀高千五百万封度ノタメ  
不時ニ困メラルル處ノ厄害ヲ避クルヘキ方策ヲ豫圖シテ可ナ  
ラン蓋シ今日ニ於テハ事情實ニ因果對當ト稱スヘシ何トナレ



ハ各西皆ナ銀ノ下落センヲ恐レテ之ヲ用井ルヲ嫌フナリ  
又之ヲ用井ルヲ嫌フカ故ニ其下落ヲ免ル、丁能ハサルナリ  
到底右千五百万封度ノ銀尚ホ市場ニ殘レル限リハ各国自ラ狐  
疑猶豫ノ位置ヲ蹈ムヘキヲ免レス然レモ抑モ銀價ヲシテ如斯  
ク非常ノ下落ヲ受ケシメタルハ其根源必シモ千五百万封度ノ  
銀々世ニ存在スルニアラサルナリ其故ハ今若シ右銀ヲシテ現  
ニ其處ニアル處ノ同額ノ金ニ代リテ合衆國ノ庫中ニアル者ト  
為ストキハ實地世ニ存在セル銀ノ高ハ彼レ是レ相異ナルヲナ  
シト雖モ決シテ如何ニ下落ヲ銀價上ニ來タスヲナカリシナラ  
依之觀是レハ方今銀ニ付テ關係ヲ有スルノ諸國ハ凡テ理ニ  
ノミ涉レル議論ヲ捨テ寧ロ其方向ヲ斯ル實地上ニ取ルコソ必  
ス至當ナリト思ハル

ウオニ、ヘンゲルミルラル氏曰ク我カ塹斯太洪葛利政府ハ其代  
議者ヲシテ何チリニ當會議ニ於テ決議スル者ニ付キ決シテ同  
政府カタメニ義務ヲ負ハシムル様ノ承引ヲ為スヘキヲ許サ  
、リキ固ヨリ我カ政府ハ銀貨下落ノヲ憂ヒ可相成ハ自國利  
益ノタメニ之ヲ拒カニテ求メリ其故ハ我カ國政府モ亦理論  
上ニテハ兩立貨幣ノ制度ヲ取ル者ナレハナリ依ニ又理論上之  
ヲ謂フトキハ必ス亜米利加政府ノ發議ヲ賛成スルノ外別ニ為  
スヘキヲナキノ位置ニ在ルナリ然レモ不幸ニシテ所謂レ兩立  
貨幣ノ制度ナル者ハ天下舉テ皆ナ此制ヲ用井ルニ非レハ到底  
其利益ヲ奏スルヲ能ハサルヘシ然リ而シテ當時ノ景況即チ當  
會議上ノ体裁ニ依テ之ヲ察スルトキハ到底天下齊シク之ヲ採  
用スルノ一事ハ之ヲ今日ニ得難キヲナリ故ニ我カ塹斯太洪葛  
利政府ハ不得已狐疑猶豫ノ色ヲ改ムルヲ能ハサルナリ然リト  
雖モ今一方ニ於テ強テ初メヨリ米國政府ノ發議ヲ拒ムトキハ



人或ハ其意ヲ誤解シテ實際銀價ノ下落ヲ醫療スルカタメ施行  
スヘキノ方法ナキ者ト認ムルトアルモ計リ難シ故ニ若シ此憂  
ヲ除カンガ為メ敢テ當會議ニ於テ一々議員ノ意見ヲ聞テ以テ其  
全体ノ見込竟ニ歸向スル處如何ヲ表示セシト欲スルノ舉アル  
ニ於テハ余ハ敢テ我カ政府ノ意見ヲ奉戴シ即チ兩立貨幣ノ贊  
成者トナルヘシ

ミイス氏曰ク余ハ曾テ我カ阿蘭陀政府ヨリ今回亞米利加政府  
ノ發議ヲ贊成スヘキ命令ヲ受ケタルトナシ今我カ政府ノ意見  
ヲ謂ハニ畢竟英吉利斯及ヒ日耳曼國ニ於テ其一立金貨ノ制  
度ヲ改メサル上ハ獨リ阿蘭陀ニ於テ其一立金貨制度ヲ變シテ  
他ノ制度ニ移ルト能ハサルナリ而シテ此事ニ付テハ我カ政府  
帝ニ國際上ノ束縛ヲ受クルト肯セサルノミナラス又自國一  
個ノ分ニ取テモ其從來ノ制度ヲ離ル、トヲ好マサルナリ以上

即チ余カ我カ政府ノ代議者トシテ當會議ニ臨ミ明言スルノ自  
由ヲ得タル限リニシテ此外曾テ之ヲ言フノ權カナシ然レモ余  
ハ曾テ我カ政府ヨリ當會議案ニ涉リ余カ私ノ意見ヲ吐露シテ  
不可ナルヘキトヲ吩咐サレタルトナキカ故ニ余ハ爰ニ微シク  
自家ノ意見ヲ謂ハシト欲ス抑モ許多ノ國々皆ナニ様ニ兩立銀  
貨ノ制度ヲ採用スルニ至ルハ實ニ是レ人間公衆ノタメ望マシ  
キトナリ固ヨリ初メテ亞米利加政府ヲシテ今回ノ議案ヲ起ス  
ニ至ランメタル處ノ原因ハ恐クハ此等ノ邊ニ在テ實ニ嘉ニス  
可クアリタルナラン然レモ奈何セン實地ニ就テ之ヲ論スルト  
キハ方今右議案ハ歐羅巴ニ於テ行フ可ラスト謂ハサルヲ得ス  
其故ハ今日歐羅巴各國中現ニ一立金貨ノ制度ヲ採用セサルノ  
國ト雖モ尚ホ銀貨鑄造ノ自由ヲ認許シタル國アルヲ見ス今若  
シ一々指ヲ屈シテ之ヲ數フルトキハ當時合衆國ノ發議ヲ贊成



シ能ク処ノ諸國ハ僅ニ流通紙幣ヲ有スル者ノミナルヘシ然リ  
而シテ余ヲ以テ之ヲ謂フトキハ右ノ如ク流通紙幣ヲ有スルノ  
國コソ實際當議案ニ處スルノ意見如何ヲ以テ毫モ一般貨幣上  
ノ景氣ヲ左右スルニ力足ラサルノ國ナリ之ニ依テ之ヲ論スレ  
ハ今果シテ合衆國政府ニ勸メテ全ク其當會議ニ附シタル意見  
ヲ拋棄セシムルヲ以テ至當ト為ス乎曰ク否ラス若シ到底歐羅  
巴洲ニ於テ此回ノ事ニ付キ合衆國政府ニ同意スル國ナキモ或  
ハ他方ニ於テ譬ヘハ中部若クハ南部亞米利加亞細亞洲ニ於テ  
ハ日本國支那國動モスレハ英領若クハ蘭領印度ニ如キニ至テ  
之ニ荷擔スル者ナシト為ス可ラス蓋シ此等ノ諸國ニ取テハ敢  
テ一立金貨ノ制度ヲ遵守スルヲ以テ必シモ其高法上ノ利益ニ  
協フ者ト為サス又其人民ノ習俗ニ適スル者トセス既ニ近來蘭  
領印度殖民地地方ニ於テ經驗ヲ一立金貨制度上ニ施コシ夫レ是

レ事情ノ如何ニテ察シタルニ決シテ永久右制度ニ固着スヘキ  
者ニ非サルヲ知リタリ又事宜ニ依テハ其本國ニ行ハル、處ノ  
貨幣制度ヲ離レテ敢テ一種別段ノ制度ヲ右地方ニ創ムルモ全  
ク不適當ナルトナカルヘキヲ証定シタリ故ニ余カ見ル處ニ依  
レハ此等ノ地方コソ即チ合衆國政府ノタメニ其同意者ヲ求ム  
ヘキノ箇處ニシテ一旦此等ノ辺ニ就テ右貨幣同盟ヲ立テ爾後  
又好手段ヲ施コシテ歐羅巴ノ諸國現ニ紙幣ノ羈絆ヲ受クル者  
ヲ誘引シテ同盟社内ニ加入スルノ舉アルニ於テハ其社内亦廣  
シト云ハサル可ラス此ニ於テカ金銀兩貨幣ノ間ニ確立一定ノ  
割合相場ヲ起シ以テ時々兩者カ相場ノ間ニ生来スヘキ搖動ヲ  
制鎮セント欲スルノ策自ラ其達スル處大ナルヲ見ルヘシ如斯  
ク論シ來テ余カ尚ホ一言セント欲スル處ノ者ハ若シ天下普通  
ノ兩立貨幣制度ヲ創メンコトヲ以テ空理論ト為ストキハ亦世界



一般銀貨廢止ノ發アラシクテ謀ルモ是レ空理論ナリ而シテ以  
上共ニ強ヒテ之ヲ實行スルニ當リ艱難危險ノ大ナルヲ計リ難  
キ者ト云フヘキナリ譬ヘハ銀貨廢止ノ如キ若シ一般ニ之ヲ行  
フニ於テハ其結果實ニ恐ルヘキノ甚シキ者ニシテ忽チ之ニ續  
クニ該貨相場ノ下落ヲ以テシ經濟上ノ点ニ於テ無類ノ危難ヲ  
惹キ起シヘシ故ニ要スルニ一般人種ノタメ當テ有益無害ト為  
ス所ノ者ハ獨リ金銀相ヒ互ニ保立シテ曩キニゴスチン氏カ云  
ハレタル如ク互ニ相援應輔翼スル者アルノミナリ

伊太利ノ代議士バラリス氏ハ大ニ合衆國政府ヨリ當會議ニ附  
タル議案ノ有益肝要ナルヲ且ツ深ク之ヲ論シ密ニ之ヲ議シ  
テ以テ必ス得ル所アルヘキヲ主張シテ曰ク抑モ今回合衆國政  
府ヨリ發議シタル論旨ハ之ヲ評議シテ縱ニ或ハ全ク同政府カ  
掲クル所ノ箇條ト毫モ違反セサル決議ヲ得ルヲ能ハサルモ尚

ホ必ス之ニ類似シタル盟約ノ能ク天下公衆ノタメニ利益アル  
ヘキ者ニ議著スルヲ得ヘシ譬ヘハ新タニ一種ノ貨幣ヲ鑄造  
シテ萬國齊シク之ヲ通用センヲ取定ムルカ如キハ實ニ人間  
一般ノタメニ有益ナルヲニシテ之ヲ取テ以テ人間開化進達ノ  
歩ヲ速カニセンヲ亦疑フ可ラス蓋シ合衆國政府ノ發議ノ論旨  
モ其實甚シキ抵拒ヲ受ケタル者ニ非ス即チ當會代議者ノ面々  
モ多クハ交易上銀ノ関涉スルヲ至テ大ナルヲ認メ就中其金  
貨一立ノ貨幣制度ヲ遵守スル諸國ノ代議者ト雖モ亦之ヲ許シ  
タルナリ依之觀是到底當會議ニ於テ幾分カ議定決着スル處ア  
リ難キヲナシ或ハ口ヲ銀貨ノ金貨ヨリモ重キニ藉リ以テ銀貨  
ノ廢止ヲ唱フル者アレハ是レ固ヨリ其一ヲ知テ其ニヲ知ラサ  
ルノ論ニシテ果レテ之ヲ以テ銀貨ヲ廢スルノ真因ト為スニ足  
ルヘキ者トセハ却テ金貨ハ紙幣ヨリモ一層重キヲ以テ必ス紙



幣ヲ以テ金貨ニ代ハラシムヘキノ論ヲ起サ、ルヲ得ス固ヨリ  
銀貨ノ金貨ヨリモ重キハ是レ衆人ノ知ル所ニシテ即チ那威ノ  
代議者カ能ク之ヲ云ハレタル如ク其巨サモ亦金ニ比シテ三十  
有餘倍ナレハ實ニ之ヲ運搬スルノ難キ不便ノ多キ金ト同日ノ  
論ニ非サルナリ然レモ此支ヲ以テ果シテ真ニ公衆ノ一部ニ向  
ヒ海外通商ノ一方ニ向テ便益ナル者トセハ亦銀ノ果シテ他ノ一部  
一方ニ向テ金ニ優ル所アルヘシ譬ヘハ僻陋ノ地方ニ於ル如キ  
或ハ金價狂搖ノ期ニ際シテ其跡ヲ埋ム等ノヲアルモ銀ハ常ニ  
依然トシテ流通間ニ殘ルノ便益アリ故ニ余ヲ以テ之ヲ云ハシ  
ノハ今銀貨ヲ廢止スルノ議論ハ大ニ社會ノタメ損害危險多キ  
トニテ妄リニ合衆國政府ノ意見ヲ排斥シ其代議者ニ勸メテ強  
チ亞細亞等ノ如キ遠隔ナル地方ニ就テ其同意者ヲ求メシムル  
等ノヲハ其實初メヨリ銀ヲ擯却スルニ當ルヘシ故ニ余ハ却テ

二六

當議會ニ於テ何トカ同盟ノ一基礎ヲ建ルノ方案ヲ定ムルハ到  
底行ヒ難カラサルコト、信スルナリ

議長セイ氏ハ既ニゴスチン氏カ為シタル處ニ擬フテ當會議ノ  
ノメ自國即チ佛蘭西國ニ於テ近年其貨幣上ニ関シ為シ來タル  
政策ノ真意如何ヲ説クハ甚タ有用ナルヘキヲ曉リ從テ之ヲ説  
テ曰ク蓋シ英吉利斯代議者カ云ハレタル如ク我カ國ニ於テ既  
ニ從來以テ其私民ニ許シタル彼ノ造幣司ニ於テ自由ニ銀貨ヲ  
鑄造シ得ヘキ特權ヲハ悉ク剝奪シタル以上ハ其所謂ル兩立貨  
幣制度ナル者ハ唯是レ名義上ノ論ニシテ餘他貨幣同盟諸邦ニ  
取テモ亦之ト同一ノ實行アルヲ見ルナリ即チ曾テ佛蘭西ノ内  
閣ニ於テ銀貨鑄造廢止ノ議ヲ起シタルトキ其議案ノ真意如何  
且ツ之ヲ實行シテ其結果如何ニ付テ種々ノ紛議區々ノ異論ヲ  
惹キ出シタルトアリ即チ或ハ其真意ヲ詰ツテ果シテ固是ヲシ



テ一立金貨ノ制度ニ向ハシメント欲スルカタメ歟又ハ唯一時  
返リニ之ニ及ヒタル者ニシテ畢竟機會ヲ俟テ其原来ノ兩立貨  
幣制度ヲ恢復センコトヲ期スル者ナルヤヲ糾シタル者アリキ然  
リ而シテ我カ政府ハ明カニ之ニ答フルニ「決シテ政府ノ所存ハ  
其國是ヲシテ一立金貨ノ制度ニ向ハシメント謀ルニ非ス唯  
臨時如斯クシテ其後來ノ景況ヲ見合ハスノミコトニテ早晚必  
ス兩立貨幣制度ノ自ラ恢復スル日アラシコトヲ期シ一変ヲ以  
テシタリ故ニ彼ノ一千八百六十五年ノ盟約ノ如キハ之レカタメ  
種々ノ解釋ヲ下シ得ヘキ者ニテ實際我カ同盟中ト雖モ其全ク  
相調和協合スル者尠ナク都テ各邦其赴向セント欲スル處ヲ異  
ニセリ要スルニ我カ貨幣同盟ヲ結立スルノ諸國中或ル一点ニ  
於テハ皆ナ齊シク其趣意ヲ同フスル所アレモ亦他ノ点ニ於テ  
ハ之ヲ異ニスル者アルナリ茲ニ仏蘭西國ハ右同盟ノ中央ニ位

シ既ニ大量ノ銀ヲ藏メ現今分ニテハ其銀行内ニ在ル所ノ銀  
ハ凡ソ九億フランク又銀行外ニ在ル處ノモノ十五億フランク  
ナリ之ヲ合スレハ即チ二十五億フランク計リニ至ルヘシ之ヲ  
以テ流通ニ供スルトキハ全国内銀貨通用ニ足ルヘシ故ニ我  
カ國政府ハ斯ル大量ノ銀ヲシテ全ク通用貨幣タルノ効カヲ失  
ハシメ空シク尋常一般ノ貨物トシテ市場ニ賣買サルノ景情  
ニ陥ラシムルコトヲ欲セサルヤ明カナリ依之觀是レハ所謂ル銀  
貨廢止論ノ如キハ嘗テ仏蘭西ノ容レサル所ナル亦瞭然ク今  
移テ既ニ銀貨ヲシテ通用貨幣タルノ効カヲ失ハシメタルノ諸  
國ニ向ヒ我カ仏蘭西國ヨリ敢テ一言ノ忠告ヲ附シ以テ銀貨恢  
復ノ日アラシメント務ムルハ果シテ好ミスヘキコトナルヤ否  
ノ一点ニ付テハ嘗テ我カ仏蘭西國ノ関リ知ラサルコトニテ今斯  
ル忠告ヲ與フルニ必ス其効驗アルヘキヤ否ヲ保シ難ク且ツ彼



レ我カ勸メニ應スルニ我ニ於テ之ニ酬ユヘキ手段ナキカ故ニ  
假リニ忠告ヲ與フルニモセヨ強ヒテ之カタメ彼ヲ束縛スルノ  
權カナキヲ以テ余ハ到底之ヲ是トスル能ハサルナリ又現今仏  
蘭西政府カ其銀ニ接スルノ位置如何ニ涉テハ余既ニ第一回會  
議ニ於テ之ヲ陳述シタル如ク寧ロ仏蘭西ノ之ニ接スル猶豫未  
決拱手傍觀ノ姿ナリト云ハカル可ラス而シテ後來其跡ノア  
ル處ニ從テ果シテ銀貸下落ノ抑モ何レノ点マテニ達シ至ルヘ  
キヤヲ知り就中日耳曼國ニ於テ現ニ所持セル彼ノ大額ノ銀ヲ  
賣却シタルノ后ニ至ラカレハ進テ其方向ヲ定ムルヲ能ハサル  
ナリ而シテゴスチン氏カ計算ニ依レハ右日耳曼在銀ノ高ハ英  
貸ニ宛テ、千五百万封度ナリト云ヒ餘他ノ諸氏ハ千七百万封  
度ナリト稱セリ其實何レヲ以テ當レリトスルヤヲ問ハス斯ル  
大量ノ銀現ニ日耳曼國ニ存在スル以上ハ銀貸市場ノ變動ハ須

更モ其ナキヲ保シ難ク實ニ定マリナキ有様ナリト云ハカルヲ  
得ス蓋シ右様ノ銀額實際一國ノ庫藏内ニ現存スルト尚ホ未タ  
地下ニ埋マレテ多年ノ勞力幾分ノ金額ヲ費ヤスニ非カレハ之  
ヲ取出スヲ能ハカルト大ニ其實地上ニ直及スヘキ危險變動ノ  
多寡ヲ異ニスヘシ即チ語ヲ換テ之ヲ云ヒ商業上ノ点ヨリ之ヲ  
論スルトキハ一ハ既ニ貨幣ノ姿ヲ占メ人カノ之ヲ制御管主シ  
何時ナリト如何計リナリト其欲スル所ニ從テ之ヲ市場ニ流出  
シ或ハ之ヲ取戻スヘキノ自由ヲ備フル者ナリ又一ハ未タ地中  
ヲ出テスシテ實際之ヲ市場ニ流出セシニハ多年ノ経過ヲ要ス  
ヘクシテ尚ホ一時小量ヲ出スニ過キカルノ不充備者ナリ故ニ  
是レ彼レ相比較シ實際ニ感應スルノ点ヨリ之ヲ視レハ固ヨリ  
同日ノ論ニ非ナルヘシ即チ余カ現ニ日耳曼國ニ存在セル銀ノ  
悉ク市場ニ出盡シタル后チニ非レハ銀貸市場ノ勢景ハ之ヲ見



定ノ難シト稱スルハ此点ニ出ツル者ナリ按スルニ今後西三年  
ヲ出スシテ必ス右銀貨ノ市場ニ出盡スルヘシト雖モ未タ  
實際之ニ及ハサル上ハ復情都テ曖昧迷夢ノ際ニアリテ固ヨリ  
仏蘭西国政府ハ暗ニ乘シテ其公衆ノ大莫ヲ謀ルヲ好マサル  
ナリ故ニ余カ見ル處ニ依レハ此回合衆国政府ヨリ當會議ニ提  
出シタル議旨ハ之ヲ論スルニ尚ホ早キモノト思ハル蓋シ余輩  
ハ現ニ右議案ヲ賛成シ隨テ之ヲ実行スルノ方ニ赴クノ途アル  
ヲ知ラス然レモ唯断然茲ニ明言シ得ル處ノ者ハ我カ国政府ハ  
勿論ナリ餘他其代議者ヲ當會議ニ派遣シタル諸國ニ於テモ全  
ク右議案ニ依テ企テラレタル貨幣制度ヲ非難スル者トナスヘ  
キニ非ス然リト雖モ亦他方ニ於テ又齊一ニ之ヲ賛成シ若クハ  
半数以上ノ此カ是ヲ唱フルヲ聽カサルカ故ニ彼レ是レ相折中  
スルトキハ則チ右議案ノ數ヶ條ニ涉テハ即今確然ノ答應ヲ為

シ得サル者ト認メテ可ナラン要スルニ偏ニ余カ當會議ノ結果  
トシテ諸國ニ望ム所ハ一方ニ於テ萬國齊シク凡ソ銀ハ之ヲ貨  
幣ト爲スニ適シタル鑛屬ナルノ公意ニ戻ラス又他方ニ於テ互  
ニ相勸勵シ以テ一國々内ノ法例ヲ以テ凡テ銀價ノ下落ヲ促カ  
スニ類セル處業ナキ様ニ企テラレタシ且ツ願クハ臨席ノ諸君  
ヲシテ前ニ余カ考按シタル折中論ノ真意如何ニ又余ヲシテ斯  
ル論ヲ奉クルニ赴カシメタルノ原因如何ニヲ曉ルヲアラシメ  
タキ者是ナリ抑モ銀ハ真ニ金ト併立相翼ケテ以テ交易ノ機關  
ト成リ動作スヘキ至當ノ鑛屬ニシテ加フルニ殆ント全世界ノ  
過半ハ一ニ銀ヲ以テ其交易ノ媒介トナスヲ見ル蓋シ余輩ハ彼  
ノ印度及ヒ餘他東洋諸國ノ中ニ於テ獨リ能ク其高業ヲ制御ス  
ル處ノ貨幣忽然其効カヲ失フニ至ルヲアルヲ信シ難キナリ之  
ニ及シ凡テ東洋通商ノ益ス隆盛ニ赴クニ從ヒ日ヲ追フテ愈ヨ



銀貨ノ通用ハ其廣大ヲ加フヘシト思ハル以上ノ如キ理由アリ  
ナラシメ今全ク合衆国政府ノ發議ヲ實施セシムル所ヲ拒ムニ際シテ  
ハ敢テ之ヲ拒ムノ所以ヲ述ヘサル可ラス即チ其第一章ニ於ル  
當會議ノ協意ハ決シテ全ク歐羅巴及ヒ亞米利加合衆国ニ於テ  
銀貨自由鑄造ノヲ禁スルニアラサルナリ固ヨリ即今實際ニ  
右貨幣ノ自由鑄造ヲ恢復スル能ハス及ヒ又如何ナル術策ニ依  
リ如何ナル理由ヲ以テ後日之ニ違シ得ヘキヤラ今日ニ豫言ス  
ル能ハスト雖モ決シテ會議ノ趣意ハ右恢復ノ復ヲ拒ム者ニ非  
ルナリト知ル可シ其第二章ニ至テハ全ク以上ニ及シ當會議ノ  
協意ハ寧ろ銀貨鑄造上ニ制局ナキヲ欲シ貨幣トシテ之ヲ用  
井法律上通貨トシテ其量額上ニ定限ナキヲ望ミ且ツ之ヲ實施  
シ能ハシ限リハ其幣レタルヲ起サンヲ希フニ在リ即チ余輩  
カ見込ニ依レハ現ニ銀貨ヲシテ其通用貨幣タルノ効カラ有タ

シムルノ諸国ニ於テハ尚ホ之ヲ全クセシメサル可ラス然レモ  
余輩ハ現ニ斯ル効カラ附子セサルノ国ニ於テハ更ニ之ヲ附與  
スヘキヲ勸奨スル能ハサルナリ同議案第二段ニ涉テハ即チ  
金貨銀貨兩ナカラ制限ナキ通用貨幣トシテ之ヲ採用スルニ難  
カラサル可シ而シテ其方法ニ至テハ以下ニ條アリ

第一國際ノ盟約ニ依リ双者ノ間ニ一樣ノ割合ヲ定メ以テ其  
平均ヲ保存スヘキヲ

第二右割合ヲ一定シタル上ハ決シテ是レ彼レノ差別ヲ為サ  
スニテ雙方ニ許スニ等シキ鑄造ノ規則成例ヲ以ラスヘ  
キヲ

然リト雖モ固ヨリ余輩ハ豫メ後來ニ至リ其鑛山ヨリ出  
ル處ノ兩鑛屬量額及ヒ其後來ニ至リ東洋諸国通商ノタ  
メ之ヲ要求スヘキ量額ハ能ク其比較ヲ失ハスニテ以テ



右割合ヲ永久ニ保存シ得ヘキヤ否ヲ明言シ難キナリ殊  
ニ彼ノ日耳曼國ノ如キ何時ナリト如何計リナリト其欲  
スル所ニ任セ其現在所有セル多量ノ銀ヲハ之ヲ市場ニ  
放チ得ヘキヲ思惟スレハ一層之ヲ保証シ難キヲ知リ  
得ルナリ故ニ之ヲ今日ニ明言シ得ル慮ハ唯以下ノ一途  
ニ限ルヘシ曰ク現今ノ景勢ニ依レハ銀貨ノ流通ハ決シ  
テ平穩ナル常派ヲ形ツクルヲ得スレテ寧ろ危険非常ノ位  
置ヲ出ルヲ能ハサルナリ語ヲ換テ之ヲ言フトキハ循環  
ノ順序ヲ失フヨリシテ其病ヲ得未ク平脈ニ復シ難キ有  
様ナリ然ラハ則チ何レノ日ヲ期シテ斯ル病根ヲ絶チ得  
ヘキヤ是レ實ニ余輩カ知リ能ハサル所ニシテ我カ政府  
カ一ニ其意見ニ依リ且ツ内閣協議ヲ得テ方今先ツ唯拱  
手傍觀スルニ利アリト決シタルノ理由ハ亦此處ニアル

ナリ

以上余カ説ク所ヲ要言スレハ殆ニト昨一百年間即チ一千七百  
八十六年以降仏蘭西國ニ於テ採用シ來タル法律上一ト十五半  
ノ割合ハ概ネ此國銀價ノ在ル處ヲ示シタルナリ然リ而シテ今  
日ニ至リ俄カニ右割合上ニ變動ヲ生シタルハ再ヒ免カル、  
能ハサルノ理由ニ根セルヤ否ハ未タ之ヲ確知セサルカ故ニ余  
ハ必シモ頑然全ク亞米利加政府カ發議ヲ拒ムニ當ラサルナリ  
依テ右政府ノタメ我カ同意ヲ今日ニ表告スル能ハスト雖モ又  
他日之ニ至ルヘキノ機會アルヤモ計リ難シトス  
テレヤン子ノ氏之ニ續テ曰ク抑モ余カ此所ニ來テ以テ其意見  
ヲ代表セント欲スル我カ希臘西國政府モ唯今當會議長セイ氏  
カ露ヲレタル趣意ニ彷彿セリ尤モ我カ政府ハ嘗テ一千八百  
六十五年ノ同盟依リ仏蘭西國ト聯和ヲ通シタリ故ニ我カ政



府ヨリ曩キニ余ニ吩咐シタル主意ハ即チ唯今議長カ精細明白  
ニ告示サレタル如ク現今専ラ其依着スル處ノ傍觀固是ヲ過ル  
ニ至ルヘキヲラハ當會議ニ於テ發言スヘカラスノ一変ニ止マ  
リタリ

フエルヘルツツグ氏曰ク「先刻ヨリ諸大國ノ代議者カ種々陳述  
サレタル高論ハ余皆ナ耳ヲ頌<sup>傾</sup>テ之ヲ聽問シタリ就中ゴスチ  
シ氏及ヒミイス氏カ如キ敢テ一般公衆ノ利益上ヨリ説下シ然  
カモ濶大ニシテ深密ナル論旨ノ辨解ハ一層精神ヲ凝ラシテ之  
ヲ聞キ居タリ今願クハ議員諸君ノ幸ニ狭小我カ國ノ如キ代議  
者カ斯ル天下公衆ノ一大事ヲ議セント欲スル盛會ニ於テ微シ  
ク云ハント欲スル處アルヲ拒ミ給ハスンハ幸亦甚タシ抑モ余  
カ見ル所ニ依レハ所謂ル貨幣變動ノ泉源ナルハ決シテ日耳曼  
國ニアラカルナリ語ヲ換テ之ヲ云ハ、果シテ銀貨ノ下落ヲ来

タシ隨テ其金ニ接スルノ割合平均ヲ狂ハシメタル者ハ同國ニ  
於テ許多ノ銀ヲ蓄有シ何時タリ成之ヲ市場ニ放チ得ルノ自由  
アルニ根スルト至テ少ナシ此ヲ以テ余ハ大ニ他ノ議員諸君カ  
認ムル處ヲ以テ誤謬トナシ真ニ右變動ノ中央ハ印度國ニアリ  
トス蓋シ凡テ貨幣市場ノ局面如何ハ全ク印度通商ノ景況如何  
ニ關スルナリ譬ヘハ昨年ノ如キ其歐羅巴ヨリ蘓士海峡ヲ出テ  
印度國ニ流入セシ銀ハ英貨ニ宛テ千六百万乃至千七百万封度  
及ヒ一千八百七十六年ニハ千百万封度ナリキ然ルニ其前一千  
八百六十六年ヨリ一千八百七十五年マテノ間ハ年々僅カニ數  
百万封度ニ過キスレテ却テ一千八百六十年ヨリ一千八百六十  
六年マテノ間ハ一ケ年平均千二百万封度ノ輸出アルニ遇エリ  
之於テ實ニ年々印度通商景況ノ變遷ハ其力能ク一般貨幣市  
場ノ面目ヲ変更スルニ足ルヘキヲ見ルニ非スヤ固ヨリ貨幣相



場上ノ變革ヲ媒主スルノ多少ニ関シテハ彼日耳曼國所有銀ノ如ク之ヲ印度交商ニ比スレハ恰モ塵芥ニ等シキ者タリ蓋シ右變動ヲ促カスノ大小ニ付テ順序ヲ立ルトキハ則チ印度通商ヲ以テ第一トナシ年々地中ヨリ産出スル處ノ鑛物量額及ヒ其明年ニ産出スル高如何ノ見込ヲ以テ獨リ之ニ次ク者トナス可シ右ニ付テハ余カ見ル處大ニ他ニ異ナル所アリテ余ハ一千八百七十六年及ヒ一千八百七十七年ノ産銀高ヲハ四億四千万ヨリ四億五千万フランクノ間ト見定メタリ此數即チヘイ氏カ見込マレタル高即チ彼ノ下院銀貨委員カ算定シタル高ヨリ大ナリ然レト斯ル差違ノ因テ起ルノ源由タルヘキ者ナキニ非ス即チヘイ氏ハ帝ニ其輸出高ノミヲ取テ曾テ其産銀國ニ滞在スル處ノ残留高ヲ勘定中ニ加エサリシカ故ナリ然リ而シテ先刻ヨリ議員ノ面々ハ大ニ辨舌ヲ費ヤシテ以テ彼日耳曼國貨幣制度ノ

變革ヲハ重モニ銀貨下落ノ源因ナリト稱セラレタレト右ハ左マテノ關係ナキト僅カニ以下一例ヲ以テ証スルニ足レリ試ミニ見ヨ彼日耳曼國ニ於テ銀貨廢止ノ舉アリシハ實ニ數年前ノトニシテ昨年十二月三十一日マテニ數年ヲ經テ漸ク五十七億九百万フランクノ銀貨ヲ市場ニ放流シタルニ過キヤリキ之ニ依テ後來其派出スヘキ高ト雖モ概ネ又推シテ知ル可キナリ曩キニ彼國議會員デルブリツク氏カ其官省ニ現在スル處ノ準備銀額ノ多少ニ基ヒテ右派出スヘキ高ヲ計算シタルヲアリ而シテ其得タル所ハ寧ロ小額ナリキ其後チ廟堂外ノ紳士尚ホ能ク物情ニ通シタルソートビール氏バムベルゲル氏及ヒミセレス氏カ如キ諸大家ノ之ヲ計算シタルヲアリテ其得タル處稍ヤ以上テルブリツク氏カ得タル所ニ比スレハ多大ナルヲ見タリ要スルニ其高概ネ二億二千五百万マルクヨリ四億四千万マルク



ノ間ヲ出テサルヘシ其故ハ若シ日耳曼國ニ於テ曾テ鑄造シタル銀貨幣ノ尙ホ未タ之ヲ交換シ了ラサル全額ヲ取テ其中三分ノ一ハ紛失高再鑄造損耗及ヒ外國ニ輸出シタル高ナリトシテ之ヲ引去ルトキハ即チ以上三億二千五百万マルクノ全額ヲ残スヘク又若シ其中僅カニ紛失等ニ属スル者四分一ナリト見做シテ之ヲ引去ルトキハ即チ以下四億四十万マルクノ全額ヲ生スヘシ今其何レニ致セ右全額ハ曾テシセルス氏カ計算シテ得タル所ノ額數ニ違フテ斯ナレ即チ同氏カ得タル所ハ四億二千四百万マルクニシテ之ヲ略算スレハ先ツ四億「マルク」即チ五億「フランクト」ミテ可ナラン然リ而シテ若シ右數ノ中ヨリ小貨幣鑄造ノタメ入用ノ高ト及ヒ斯ル鑄造事業ノ際耗失シテ終ニ再ヒ其跡ヲ見ルニ至ラサルヘキ高ト合セテ右數三分ノ一ヲ減ツスルトキハ則チ曩キニゴスチン氏カ云ハレタル千五百万ヨリ

千六百万英貨封度ノ間ニ減及スヘキヲ見ル故ニゴスチン氏カ計算ハ隨分信憑シテ可ナリトス今若シ右全額ヲ以テ地中ヨリ産出スル處ノ量額ニ比スレハ殆ント僅カニ其一ケ年分ト匹敵スヘクシテ決シテ之ニ過クルヲ能ハサルヘシ然ルニ奇ナル哉他ノ論者ハ僅カニ其一年分ニノミ過キサル右全額ヲ見ルテ其貨幣市場ニ景應スルノ多少ニ至テハ凡テ後來地中ヨリ鑿出スヘキ量額ニ比シテ尙ホ恐ルヘク且ツ重大ナルヘシトセリ其故ハ右全額ハ何時タリテ不意ニ之ヲ市場ニ投派スルヲ得レハナリト余ハ固ヨリ斯ル論ヲ容ル、能ハス余カ察スル處ニ依レハ蓋シ日耳曼國政府ハ右ニ関セル一事ニ付テハ必ス之ヲ大切鄭重ニ處置スヘキカ故ニ決シテ自ラ自家ノ銀價ヲ下落セシムル如キ一時ニ其全額ヲ市場ニ投派スルノ所行ナク却テ時々其好機會ヲ見テ少々ツ、最モ利潤ノ多キ方ニ依テ之ヲ賣出ス



ノ見込ナラント信ス現ニ此マテ彼ノ政府カ為シ来タル行跡ヲ  
見レニ唯漸々之ヲ賣却シタルノミナルヲ以テ今後俄カニ其方  
術ヲ改メ及ツテ銀價ヲ下落セシメ以テ自ラ損害ヲ招クニ類セ  
ル峯動アルヘキヲ信スル能ハカルナリ實ニ日耳曼國政府カ利  
益ノ関スル處如斯クナルヲ以テ余ハ決シテ現今銀貨相場上ニ  
行ハル、處ノ困難ハ必シモ彼ノ國カ所有セル銀ニ根スル者ト  
為ス能ハカルナリ恐クハ他ノ論者カ言フ處其當ヲ得サル者ト  
思ハル而シテ斯ル妄論ヲ聞テ或ハ妄信ニ陷ル者アルハ大ニ  
余カ嘆スル所ナリ之ニ依テ是ヲ觀レハ漸々右所有銀ヲ賣出ス  
トヨリシテ自ラ銀貨市場上ニ波及スヘキ影響ト絶ヘス印度通  
高ノタメ需用ナル、量額ノ多寡ニ依テ生スル處ノ影響ト比  
較スレハ恰モ小河ノ大洋ニ於ルカ如シ即チ彼ノ印度通商ニ於  
テハ一時或ハ官費ノ太土木事業ヲ起サンカタメ或ハ饑饉ノ夕

× 歐羅巴ヨリ銀貨ヲ輸出スルノ要多キヲ譬エハ彼ノ一千八百  
七十七年ノ如キ僅カ一年ノ間ニ其出ス所現ニ日耳曼國貯蓄ノ  
金額ニ等シキヲ見タルナリ故ニ以上兩者ハ固ヨリ日ヲ同フシ  
テ論スヘキニ非ス夫レ然リ故ニ余ハ元來銀貨相場割合上ノ變  
動ヲ起スニ當リ最モ其為ス所ノ大ナルハ印度通商ヲ以テ第一  
トナシ地中ヨリ鑿リ出ス所ノ銀額多寡如何ヲ以テ第二トナシ  
右所有銀ノ關係ハ抑モ下ツテ第三ニ位スト稱スナリ  
如斯ク説キ畢ツテ瑞西代議者ハ再ヒ新議問ヲ起シ来リ敢テ已  
レト同意ノ一立金貨制度論カ主トシテ論述スヘキ旨意ヲ明白  
ナラシメンカタメ論シテ曰ク「曾テゴスチン氏ハ畢竟天下齊シ  
ク兩立貨幣ノ制度ヲ採用セシメント欲スルハ是レ空論ニシテ  
亦齊シク一立金貨ノ制度ヲ行ハシメント欲スルモ空論ナリト  
余ニ於テモ固ヨリ一立金貨ノ制度ヲハ世界普通ニ適行セシム



ルヲ以テ余輩ノ目的ト為サス人若シ或ハ余輩カ如キ一立金貨  
論者ナルモノカ主張スル所ハ果シテ銀ヲハ通流社間ヨリ除却  
シ獨リ金ノ外貨幣ノ効力ヲ有スル者ナキニ至ラシメント欲ス  
ルノ一更ニアリト認ルアラハ是レ實ニ大ナル誤謬ナリ嘗テ余  
輩同論者ノ間ニ於テ必ス全ク銀貨ヲ廢止シ唯金貨ノミヲシテ  
流通ノ獨權ヲ握ラシムヘキヲ唱エタル者ナシ余輩ハ常ニ全  
ク銀貨ナクシテ更ヲ行ハント欲スルノ意ナキナリ然レモ唯余  
輩ノ希フ處ハ銀ヲシテ其至當ナル位置ヲ占メ得サセ之ヲ踰エ  
テ其權ヲ濫用スルヲナカラシムルニアリ若シ之アルニ於テハ  
其弊害實ニ恐ル可キカ故ナリ如斯ク余輩ノ共意ハ凡テ銀ヲシ  
テ跡ヲ流通間ニ絶タシメサルヲ欲スルニアリ然リ而シテ今何  
ヲ以テカ其至當ナル位置ト為スヘキヤハ余既ニ前回會議ノ際  
之ヲ述タル如ク到底全世界ヲ二分シ一方ニ於テ開化進達シタ

ル国ノタメニハ金ヲ置クヘク野蠻若クハ姑息ノ国ニハ銀ヲ留  
ムヘキ者是ナリ議長ヤイ氏ハ嘗テ仏蘭西国政府ハ畢竟兩立貨  
幣ヲ採用スルニ便宜ナルヘキ機會ニ遇ハンコヲ望ノリト云ハ  
レタリ之ニ及シ我カ瑞西及ヒ白耳義ニ於テハ一立金貨ノ制度  
ヲ以テ其目標ト為シ居ルナリ如此ク雙方間理論上各其趣キヲ  
異ニスト雖モ到底一千八百六十五年ノ盟約ニ遵ヒ實地上互ニ  
度ヲ謀ルニ當リテ更ニ差碍ル處ナシ余ハ寧ロ或ハ後來ニ至リ  
到底金ハ制限ナキ通用貨幣タルノ獨權ヲ握リ銀ハ僅カニ其副  
用ヲナスノミニ及フヘキコアルモ計リ難シト信セリ其所以ハ  
元來銀ナル者ハ金ニ比シテ下等ニ位シ其開明社會ノ使用ニ適  
スルコト少ナク又私民使用ノタメニ輕便ナラス唯姑息ノ国ニ取  
テ適用スルノミナリ蓋シ銀ノ價ハ昨四百年間絶エス下落ノ色  
アリテ苟モ開明國ニ於テ之ヲ其國通用貨幣トシテ用井ルノ舉



アルニ於テハ必ス紙幣ノ發現スルヲ免カレサレシノ例アリ固  
ヨリ右今諸國ニ於テ銀貨通用ノ常ニ其宜シキヲ得タルアラハ  
必ス其國紙幣發兌高ノ多キヲ見サリシナラン即チ白耳義及ヒ  
瑞西ノ如キ能ク之ヲ例証スルニ足ルヘシ如斯ク銀貨アルカ故  
ニ紙幣ノ密カニ其背後ニ在テ殘害ヲ恣マ、ニスルノ憂ヒアリ  
故ニ余輩カ假リニモ一立金貨ノ制度ヲ尊ニテ銀貨ヲ擯斥スル  
ヲアレハ其然ル所以ハ他ナシ必ス此点ニ由ルナリ又諸國政府  
ヲシテ此ニ自警スル處アラシメ若クハ進テ一立金貨ノ制度ヲ  
採用スルニ至ラシメタル者ハ獨リ彼ノ銀價ノ絶ヘス下落ニ赴  
クノ實跡アル者はナリ故ニ銀ハ今日ノ勢ニ依リ日ヲ追テ益ス  
下落スル兆驗アルノ鑛屬ニシテ今若シ加フルニ年々産銀ノ多  
キヲ以テシ又之カ通貨タルノ効力ヲ剥奪スルノ舉アルヲ以テ  
セハ更ニ一層ノ下落ヲ來スヘキト是レ自然ノ理ナリ然リ而

シテ獨リ能ク之カ價ヲ維持スルノ望アルハ唯印度通商ノ存ス  
ルノミ要スルニ一方ニ於テ佛蘭西國ハ畢竟兩立貨幣制度恢復  
ノ日アラシトテ希望スルノ姿アルモ斷然他方ニ於テ瑞西及ヒ  
白耳義ノ兩國ハ暫ク銀ニ假スニ嚴ニ其制限ヲ立タル上法律上  
ノ通貨タルノ効力ヲ以テシ到底其下ツテ終ニ僅カニ金貨ノ副  
用物トナルヘキヲ期スル者ナリ

此時議長メイ氏ハ不得已復故アリテ此所ニ滞留スルヲ得ス則  
チフエントン氏ヲ招シテ同氏ニ代ツテ議長ノ席ニ就カンヲ  
請ハレフエントン氏依テ之ニ應セラレタリ

フエルヘルワツグ氏以上演說ノ語尾ヲ續テ曰ク故ニ余輩瑞西  
代議者ハ嘗テ其政府ヨリ唯當會議ニ於テ一般ノ公論ニ參リ目  
前ノ疑問ニ付テ僅カニ其所見ヲ吐露スヘキノミノ權カヲ得タ  
ル者ニシテ未タ嘗テ我カ政府ヲシテ其自國制度ヲ離レテ妄リ



ニ金一銀十六ノ割合若クハ餘他何ナリ其國是ニ違エル割合  
ニ就カシムヘキ取引ヲ為シ得ルノ權カヲ受ケタルヲナシ又何  
ヲ以テ合衆國政府ニ勸ムヘキノ吩咐ヲモ受ケサリシナリ  
カウニト、ラスコニト氏曰ク當會議ノ面々一人タリ其世界一般  
ニ銀ヲシテ貨幣タルノ効カヲ失ハシメンコトヲ欲スル者ナキコ  
ト明カナリ又種々論旨ノ歸著スル處ヲ見レハ銘々銀ナル者ハ性  
來貨幣トシテ之ヲ用井テ便宜アルヘキコトヲ認ムル者ノ如シ故  
ニ今余輩カ偏ニ論ヲ向ルヘキ一点ハ即チ直チニ合衆國政府ノ問題  
ニ答フル如何ニアリテ之ヲ譯言スレハ兩貨幣ノ間ニ一定ノ相  
場ヲ立ント欲スルノ一議是レナリ今此点ニ付テ論究スルハ實  
ニ肝要ナル事ニシテ若シ之ヲ為サ、ルトキハ抑モ當會議ニ於  
テ為シ得タルノ結果ヲ見サルニ至ルヘシ然リ而シテ果シテ斯  
ル一定ノ割合相場ヲ立ルハ到底今日貨幣相場變搖ノ景勢上ニ

於テ之ヲ為シ得ヘキ者トスルヤ否又一旦之ヲ定ムルモ永ク之  
ヲ維持シ得ヘキヤ否ノ二議論ニ付テハ余輩伊太利代議者ハ心  
ス之ヲ行ヒ得ヘク又之ヲ保存シ得ヘキ者ト信ス蓋シ如斯キ割  
合相場ヲ定ムルノ難キコト曾テ四コト以テ方ナラシメニコトヲ試ミ  
ルカ如キノ類ニ非サルヘシ必ス夫レ之レヲ為スノ方策アルヘ  
キナリ夫レ鑛屬ハ一物タリ貨幣ハ他物タリ造化能ク鑛屬ヲ生  
シ法律獨リ貨幣ヲ製ス尤モ貨幣ニ鑄造セサル鑛屬ハ是レ尋常  
ノ賣買物貨ニシテ固ヨリ尋常需用支給ノ規則ニ依テ時々市場  
ノ有様ニ從ヒ種々ノ變動ヲ受ク可キハ勿論ナレ其一夕ニ鑄  
造サレタル上ハ最早ヤ尋常ノ賣買物貨ト一樣ナラス現然法律  
ノ之ニ附與セル貨幣タルノ効カヲ備エ確乎之ニ印刻セル價ヲ  
有シテ此シモ物界ノ風波ニ觸レテ之ヲ變動スルコトナシ即チ貨  
幣ヲ鑄造スルニハ或ハ難セ物ノ規則アリ印刻容形大小度量ノ



制條アリテ之カタヲ法律ハ其貨幣ニ効カヲ移シ妄リニ之ヲ動  
カサ、ルナリ而シテ如斯ク移リ来タル法律ノ効カハ即チ貨幣  
固有ノ德ニシテ之カタメ能ク負債上ノ義務ヲ償済スルヲ得  
是レ貨幣ノ餘他尋常一般ノ賣買物貨ト違エル所以ニシテ他ノ  
賣買物貨ノ能ク之ニ敵スルヲ得サル所ナリ故ニ銀ハ市場ノ  
景況ニ依テ其價ヲ變スト云ツテ可ナリト雖モ苟モ法律ノ存在  
シテ万物ヲ支配制御スルノ因ニ於テハ貨幣其價ヲ變スト云フ  
ハ不可ナリ若シ果シテ我カ國一千八百七十三年ヲ以テ鑄造發  
兌シタル彼ノ五フランク銀貨ハ曩キニ巴利斯造幣局長兼賞牌  
局長カ當會議ニ附与サレタル表面ニ見ユルカ如キ相場高低ノ  
跡ヲ遺シタル者ナリト云ハ、我カ國人或ハ之ヲ貯銀會社ニ預  
ケ若クハ自家庫櫃内ニ蓄藏シ置タル者ノ之ヲ聞クニ於テハ必  
ス非常ノ驚駭ヲ起シ數條ノ疑團ヲ懷クヘシ蓋シ鑛物ノ其價ヲ

變動スルハ是レ至當クトシレ苟モ一國法律ノ依然トシテ其  
形ヲ改メス其支配制御カヲ失ハサル上ハ貨幣決シテ其表面ニ  
印刻サル、所ノ價ヲ變スルヲナカルヘシ故ニ若シ當會議ニ於  
テ互ニ相盟約シ右盟約ノカヲ以テ貨幣間ノ相場ヲ一定シ得又  
之ヲ維持スルヲ得ルアラハ之カタメ亦世界太平ノ一保護者  
ヲ得タルニ當ルヘシ  
ブロッチ氏曰ク余ハ決シテ曩キニ當今紙幣ノ制御ヲ受ル諸國  
ニ於テ一時右紙幣ノ通貨タル効カヲ剝奪センカタメ必ス入用  
ト為ス所ノ金高如何ニ付テ他ノ論者カ云ハレタル所ニ同意ス  
ル能ハス既ニ此等ノ諸國ニ於テハ各幾分カ正貨通用ノ舊ニ復  
セシカタメ且ツ特ニ正金交換手形ヲ拂ヒ渡サンカタメ現ニ豫  
メ用意スル處ノ金アリテ尚ホ此上更ニ加フヘキ高ノ非常ニ多  
大ナルヲ信スル能ハス又之ヲ為サンニハ其金ヲ要スルノ高ヨ



リ寧口銀ヲ要スルノ高甚々大ナルヘシ其故ハ若シ此等諸国ニ於テ一旦其為替手形若クハ其国手形ヲ交換セント試ミルニ於テハ必ス小紙幣トモニ之ヲ引換エルノ策ナカル可ラス而シテ之ヲ為スハ必ス又小銀貨ノ巨額ヲ要スヘシ如何ナレハ都テ金ニハ十フランク五フランクニローブル若クハ二弗以下ノ小貨幣ナキカ故ニ是非トモ銀ニテ之ヲ拂ヒ渡サ、ル可ラス然リ而シテ縱ヒ小銀貨幣ヲ以テ悉ク其小紙幣ヲ交換スルニモ尚ホ餘他ノ大紙幣ハ都テ金ニテ之ヲ交換スルヲ保シ難ク必ス幾分カ銀ノ之ニ交ル者アルヲ疑ヒナケレハナリ惟フニ蓋シ此等諸国ハ到底強ヒテ紙幣ニ類セル一種ノ証券ヲ用ヰテ以テ貨幣間ノ權衡ヲ謀ルノ策ヲ罷メサルヘシ如何トナレハ此等諸国ニ於テ所謂紙幣交換ノ名義ノ下ニ為サント欲スル處ノ者ハ唯其不換手形ヲ以テ悉ク金ニテ交換スヘキ手形ト引換エンコトヲ企ル

ノミナレハナリ然ルニ余ナ知ル所ニ據レハ此等諸国ニ於テ既ニ其外国通高ノタメ入用ナル文々ノ正金高ハ之ヲ預貯セリ而シテ右金ハ凡テ其平定相場ヲ踰ユルヲ幾分ナルヲ以テ紙幣ニテ之ヲ換エンコト欲スルトキハ則チ幾分ノ増シ割高ヲ拂ハサル可ラス故ニ彼レ敢テ金ヲ所有セサルニ非ス故ニ唯其困ム所ハ金ノ乏シキニ非スレテ却テ紙幣ノ冗多ナルニアルナリ之ニ依テ是ヲ觀レハ今此等諸国ニ於テ紙幣ノ餘レル分丈ケヲ流通間ヨリ引キ去ント欲スルニハ僅カニ金貨相場ノ紙幣相場ニ越ル増割高ヲ拂フニ足ルノ金アラハ是ニテ復足ルノ理ナリ譬ヘハ右増割ヲシテ假リニ一割ト定ムレハ其金ヲ要スルノ高ハ現ニ流通間ニ在ル處ノ為換手形ノ内其小銀貨ヲ以テ交換スヘキ高ヲ引去リ其残り高ノ一割ニ對スル丈ケノ金ト別ニ幾分カ後來準備ノタメニ要スヘキ金高ヲ以テ足レリト為スヘシ故ニ今縱



ト現ニ不換紙幣ノ制御ヲ受クルノ諸國齊シク同時ニ正貨通用ノ舊位ニ復センコトヲ謀ルモ之カタメ要ムヘキ所ノ金ハ至テ些少ニ過キスシテ余ヲ以テ之ヲ見レハ其或ハ十年間ニ鑿リ出スルノ金ハ惣高ヲ以テ之ヲ迎フルモ尚ホ充分ト為サ、ルヘシノ論ハ大ニ過キタル者ト思ハル即チ瑞典及ヒ那威二國ノ如キニ於テハ實際金ノ人民間ニ流通スル者至テ些少ナリ其故ハ人民寧ク為替手形ヲ通行スルコトヲ好ミ右為換手形ハ悉ク正金ニテ之ヲ交換スヘキ者ナレハナリ故ニ金ハ唯國立銀行及ヒ私立銀行内ニ在テ絶エテ社會ニ流通スルコト少ナシ之ニ依テ今紙幣制御ノ下ニ窘ム處ノ諸國ハ到底金ニ乏シキカタメ斯ル困難ヲ受ルニ非スシテ却テ其金ノ常ニ紙幣ヲ交換スルニ適シタル相當ノ場所即チ國庫若クハ國立銀行ノ櫃内ニ準備シテ何時タリト差支ナク之ヲ紙幣交換コトヲ用井得ルノ便ヲ欠キ却テ銀行

高賈ノ店頭ニ在テ心ス幾分ノ増割高ヲ以テ之ヲ賣却センカタメニ濫用サル、ニ由ルナリ故ニ到底議論ノ歸スル處ハ貨幣論ニ非スシテ一國會計論若クハ銀行方法論ナリ蓋シ方今歐羅巴ニ於テ其最モ乏シトナス者ハ其所有スル金ノ足ラサルニ非ス又貨幣ノ充分ナラサルニ非ス唯一ノ信用ヲ欠ク所アルアレハナリ即チ方今困難ヲ商業上ニ起セル又危險ヲ製作上ニ踏ム皆ナ此信用ニ乏シキ一点ヨリ来タレルナリ尤モ歐羅巴ニ於テ一旦之ヲ為スヘキノ源由アルニ依テ其從來ノ貨幣制度ヲ悉ク廢止シタリ然レモ未タ嘗テ之ヲ代リニ確立不動ノ制ヲ立テ以テ一般ノ信用ヲ博取スルニ足ルヘキ者ヲ得ス固ヨリ確立不動ノ代不朽ノ制度ハ唯平和ヲ萬代ニ保有スルノ望ミアルノミヲ以テ之ヲ維持シ得ヘキ者ナレハ人々之ニ望ム所ナクシテ毎リニ信用ヲ置ク者ナシ到底只今ノ有様ニテハ人々歐羅巴諸國現行



ノ法度及ヒ國邦ノ界域ト雖モ久シク恃ムニ足ル可ラサルヲ  
知レリ然ルニ余及ヒ余カ同僚ワリン氏カ茲ニ代表スル所ノ我  
カ那威及ヒ瑞典國ハ幸ニ此等一般争乱ノ為メニ悩マサル、所  
ナカリキ蓋シ我カ二國ハ六十餘年ノ久シキ凡テ内外兵乱ノタ  
メニ犯サル、慮ナク依然トシテ平和ヲ謠ヒタルハ世ニ比類ナ  
キノ國ニシテ自ラ傲ルニ足ルヘキナリ凡テ此際曾テ我カ自國  
境内ニ於テ一ノ砲發ヲ試ムルノ要ナク又カヲ同盟國ニ併サン  
カタメ一タヒタリモ干戈ヲ動カスノ要ナカリキ故ニ此際久シ  
ク我國ハ其従前ニ準シタル速度ヲ以テ絶ヘス進歩シ居タル者  
ナレハ之ヲ以テ餘他戦争等ノタメニ擾乱サレタル諸國ニ比ス  
レハ大ニ優リタル所アリタルナリ然ルニ却テ我國ト雖モ亦餘  
他諸國ト雖モ今日頻リニ商業上及ヒ製作上ノ不景氣ナルヲ覺  
ユルハ是レ即チ自然勢ノ已ム可ラサル所ニシテ所謂近隣憂

ヲ同フスルノ箴言ヲ免カレサルヨリシテ如斯ク自國ノ失策ヲ  
以テ自ラ招クヘキノ憂害ハ悉ク之ヲ免カレナカラ唯身ヲ以テ  
天下ニ約束スルカタメ是ヲ彼ノ時ニ得テ又是ヲ此時ニ失フニ  
至リタルナリ蓋シ亦時勢ナル哉然ルニ今眼ヲ轉シテ亞米利加  
合衆國ノ形勢ヲ顧ミレハ大ニ歐羅巴國ニ異ナル所アリ即チ彼  
國人民ハ現ニ後來ノ平和ヲ窺フノ要ナク又其政度ノ變革ヲ憂  
ヒスシテ可ナリ其國産如何ニ就テモ亦些シク意ヲ措ク可キ所  
ナキナリ既ニ彼國ノ如キハ實ニ慘情限リナキ其内國争乱ノ憂  
ヲ脱シ來テ大ニ天下ニ示スニ其國民カ精神ノ堅キト膽量ノ大  
ナルト及ヒ確乎不拔ノ氣カヲ備フルトヲ以テシタリ即チ彼内  
國戦争最モ激烈ナル時ニ際シテハ其門閥如何ニ問ハス富貧如  
何ヲ論セス唯其屍ヲ戰野ニ横エンカタメ父兄争テ其子弟ヲ兵  
士トナシ曾テ其大祖父カ創起シタル協和ノ大事業ヲ維持シ之



ヲ萬世ニ保存セント欲シテ合衆國ノ士民ハ敢テ莫大無慮ノ負  
債ヲ自擔スルヲ恐レシテ又天下ニ示スニ悉ク殘ス所ナク  
之ニ加ハル所ノ利子ヲ拂ヒ終リタルノミナラズ尚ホ又毫モ猶  
豫スル所ナク自ラ重大ノ租稅ヲ負フテ其元金ヲ償濟セント  
熟心スルノ誠情ヲ以テシタリ固ヨリ如斯クシテ土地風波相同  
シカラサル所アルヲ以テ或ハ其異見ヲ余輩ト同フセサル所ア  
ルヘキハ勿論ナレ其國資ノ大ナル又其國民ノ氣力強大ナル  
ニ依テ之ヲ用フルノ方法最モ其宜キヲ得タルハ實ニ余輩カ感  
嘆スル所ナリ之ニ依テ之ヲ推ストキハ則チ曩キニグロリスベ  
ック氏カ云ハレタル如ク其明年ニ至ラ必ス正貨通用ヲ恢復ス  
ルノ美譽アルヘキハ更ニ疑フ容レスシテ可ナラン而シテ彼國  
紙幣ノ交換ハ之ヲ彼國今日ニ實行セル貨幣制度ノ有様ニ照ラ  
シテ之ヲ見ルキハ必シモ公ニ以テセサル可ラス又彼國ニ於テ

愛テタクモ制限ヲ其銀貨鑄造上ニ附シタル上ハ其之ヲ維持  
シ得ル限リハ其新タニ鑄造スル所ノ銀貨ヲシテ金貨ト平等  
ノ位置ヲ占メ得カラシムルヲ得ヘシ又同シク其内國通商  
ノタメニ多量ノ銀貨ヲ需ムルヲアルヘシ然レモ惟フニ若シ  
合衆國ニ於テ尚ホ此後銀貨鑄造ノ業ヲ罷メサレハ到底之ヲ  
為シ得ル能ハカルヘシ然ルヲ況ニヤ若シ金一銀十六即チ細密  
ニ之レヲ云フトキハ金一銀十五九八ノ割合ヲ保存シテ銀貨鑄  
造ニ許スニ自由ヲ以ストキハ焉クシテ能ク之ヲ為シ得ヘケ  
ニヤ其故ハ合衆國一ヶ國ノ力ハ勿謂ニ歐羅巴各國皆ナ其力  
ヲ併ストモ到底國際通商ノ權衡ヲ變動スルニ足ラス就中金銀  
貨幣間ノ割合相場ヲ左右スルニ足ラサルヘシ既ニ端西ノ代議  
者カ能ク之ヲ論セシ如ク歐羅巴ト東洋トノ通商權衡ニ變動ノ  
大ナルハ能ク年々出產スル銀高ノ相差違スルカ如キノ類ニ非



サレハナリ蓋シ東洋諸国ノ如キ其産物ノ代リニ受取ル者ハ唯  
一ニ銀アルノミナルカ故ニ今金銀間割合ノ如何ヲ定ムルハ實  
ニ年々出産セル銀高ノ多少ニ根スル少クシテ右通商ノ景勢如  
何ニ関スルモノ最モ大ナリ又之ヲ總論スルトキハ凡ソ人間理  
財上ノ有様ヲ變革スルハ其政府若クハ法律ノ如何ニ出テニヨ  
リ寧ロ其国通商ノ有様如何ニ出ル者遠カニ大ナリト云テ可ナ  
リ余ハ以テ之ヲ見レハ若シ或ハ合衆國政府カ議案ノ全ク歐羅  
巴各国ノタメニ容レラル、フアルモ決シテ合衆國政府カ真ニ  
思想シタル結局ニ到着スルヲ得サルヘシ惟フニ兩種貨幣ノ同  
時自由ニ併行スルハ到底保シ難キナリ余カ説ニ依レハ寧ロ  
一立金貨制度ヲ遵奉スルノ諸国及ヒ兩立貨幣制度ヲ採行スル  
ノ国ハ舉テ共ニ一種ノ共同金貨幣ヲ用井之ニ許スニ自曰鑄造  
ヲ以テシ互ニ其平等ナル相場ヲ守ラン<sub>フ</sub>ヲ約シ又一方ニ於テ

一立銀貨制度ヲ遵奉スルノ諸国及ヒ兩立貨幣制度ヲ採用スル  
ノ国ニ於テハ同様ノ條々ヲ以テ一種ノ銀貨ヲ通用セニ<sub>フ</sub>ヲ約  
スルコソ却テ之ニ優ル所アルヘシ如斯クスレハ以上二種ノ貨  
幣ハ各其通用スルノ界域ヲ廣フシ各々世界ノ一半ニ於テ法律  
上通貨ノ効力ヲ備エ得ヘク而シテ唯兩者間ノ關係ヲ制定スル  
ハ一ニ高業ノ景況アルノミニ至ルヘシ以上之ヲ見ル如<sub>ハ</sub>余ハ  
稍ヤ其方法如何ニ於テ合衆國政府カ意見ニ異ナル所アリト  
雖モ要スルニ此回彼政府カ發意ニ依テ當會議ヲ興スノ美譽  
アリシハ實ニ就テ謝スヘキ一変ニレテ之カタメ凡テ開明諸国  
ヲ結約セル共同利益ノアル所ヲ示シ縱ヒ若シ毫モ當會議ノ結  
局ニ至テ得ル處ナカルヘキモ之カタメ尚ホ一國邪偏ノ意見ヲ  
破リ他國哀憫ノ情ヲ助クルニ至ルノ功アルヘシ

此日午後第四時四十五分解會



第四回會議

一千八百七十八年八月二十二日(木曜日)

此日茲ニ來田<sup>會</sup>スル面々ハ、奧斯太利、洪葛利、白耳義、佛蘭西、大英國、希臘、伊太利、阿蘭陀、魯細亞、瑞典、及ヒ、挪威、及ヒ、亞米利加合衆國等ノ代議者ニシテ以上皆ナ前會ニ於テ臨席サレタル同人位テリキ  
此外新々ニ奧斯太利、洪葛利ヨリ其代議者カウント、ガオン、キフス  
タイン氏ヲ加遣シタリ

其時議長セイ氏ハカウント、ガオン、キフス、タイン氏カ新々ニ臨席サレタルヲ喜ビ且ツ當會議ニ於テ將ニ同氏カ助力ヲ請ハント欲スルノ時ニ際セルヲ陳ヘラレタリカウント、ガオン、キフス、タイン氏亦之ニ答フルニ唯今議長ノ同氏ニ接スル叮嚀<sup>ル</sup>禮辭ニ對スルノ謝言ヲ以テシ且ク抑斯ク諸國ヨリ各經濟學及ヒ理財學ノ智識ニ富メル諸君子ヲ派遣シテ以テ成立シタル處ノ當會議第初回ヨリ残ラス其高尚実着ナル計議論ヲ聞クノ



好機會ヲ失セタルノ遺憾ヲ述ヘ其上此度其政府ヨリ同氏ニ課  
スルニ斯ル盛會ニ於テ起ルルノ議論ヲ聞キ以テ貴重ナル教訓  
ヲ受ケ且ツ有用ナル智識ヲ得ルヘキノ義務ヲ以テサレタル僥  
倖ヲ喜フノ情ヲ示レ敢テ自國政府ヨリ愈ヨ同氏ヲ以テ此ニ來  
ラシメタル所以ヲ説カント欲レテ之ヲ休メテ曰ク抑モ我カ政  
府ヨリ其代議者ヲ當會議ニ遣出スル所以ノ者如何ニ付テハ既  
ニ余カ同僚 ヴォン、ヘンゲルミルタル氏カ之ヲ述ヘタル所ア  
ルヲ以テ更ニ余カ此處ニ喋ラスルヲ要セサルヘシ故ニ余ニ於  
テ唯云ハント欲スルル者ハ畢竟當會議ノ結果トシテ如何ニ  
モ銀貨下落ヲ停止スルノ方法ニ議着シ且ツ成ル可クハ彼國際  
盟約ニ決着シ然ラサレハ少クモ到底之ニ達スヘキノ方途ヲ修  
ムルニ至ルヘキヲ懇望スルノ情ヲ表スルノ外ナシ  
當回會議ニ於テ諸氏ヨリ交附サレタル憑書類ハ即チ左ノ如シ

第一 ヴォン、ヘンゲルミルタル氏ヨリ奧斯太、洪葛利ノ貨幣制度

ニ涉レル記事一篇(第四回會議憑書類第一號)

第二 ドナル氏ヨリ魯細亞貨幣成規ニ涉レル記事一篇(第四

回會議憑書類第二號)

第三 プロツナ氏ヨリ瑞典及セ那威諸邦通用ノ貨幣ニ涉レル記

事一篇(第四回會議憑書類第三號)

第四 ホルトン氏ヨリ亞米利加合衆國貨幣制度ニ涉レル記事一

篇(第四回會議憑書類第四號)

議長セイ氏曰ク曾テ議員ノ面々同意スルル處アルニヨリ余輩ハ  
日耳曼政府ニ贈ルニ第二回會議日誌ノ板萃ヲ以テシ俟セテ同  
國政府ニ就テ其代議者ヲ當會議ニ遣ハサレタキ旨ヲ以テシタ  
リ然ルニ當時巴利斯府駐留ノ日耳曼公使プリンズ、ホヘンロヘ  
氏ヨリ唯今此書翰ヲ落手シタリ(書翰ノ文言茲ニ略ス然レ同氏



之ヲ朗讀シタリト知ルヘシ如斯ク其意ヲ概舉スハ實ニ其招  
待ヲ受タルハ謝スルニ堪ユ可シト虽氏憾ラクハ我カ政府ニ於  
テ之ニ應シ難シト云フニ當レリ余依テ之ヲ諸君ニ報ス  
ゴスチン氏曰ク余カ前回會議ニ於テ掲タル処ノニ論旨アリ人  
若シ其意ヲ誤解スルヲアランヲ恐レ敢テ此回之ニ注解ヲ加  
附センヲ希フ余前回ニ於テ現今日耳曼ニ於テ何時タリモ其  
欲スル所ニ任セ賣却シテ可ナル処ノ銀凡ソ千五百萬封度(英吉  
利斯正貨ニ宛テ)アルヘシト云ヒタリ是レ固ヨリ余カ真ニ斯  
ル大額ノ現在スルヲ確知スルヨリ出タル者ニ非スレテ凡テ  
右ニ類セル事項ヲ評論センニハ必ス準ルヘキ基礎ナカル可ラ  
サルヲ察シテ當ニ斯ル基礎ヲ設ケンカタメ之ヲ舉タルノミナ  
リ故ニ右數額ハ唯仮リニ之ヲ推定シタル者ニテ決シテ充分ノ  
探索ヲ遂ケタル上之ヲ得タル者ニ非ルナリト知り給ハリタシ

蓋シ實際右銀額ノ果シテ如何カ程ナル乎ハ實ニ曖昧ニ屬シテ  
人能ク之ヲ知り能ハサルナリ又第二ニハ前回會議中余ノ語辭  
用方ノ粗鹵ナルヨリ或ハ誤解ヲ生シタル者アルカモ計リ難シ  
顛クハ暫ク之ヲ云ハン余曩キニ當時銀價下落ノ時ニ際シテ傍  
觀政畧ノ利害ヲ説クニ當リ曾テ既ニ仮リニ豫防方法ヲ用ヒテ  
銀貨ノ尚益ニ備ヘタル諸國ト唯其赴カント欲スル自然ノ勢ニ  
任セテ些シモ備フル処ナキ諸國トノ間ニ恐クハ區別ヲ設ケサ  
リシナラン固ヨリ以下ノ諸國即チ銀貨ニ許スニ自由ノ鑄造ヲ  
以テシ能ク其下落ヨリ生スル処ノ損耗ヲ受クルヲニ甘シ堪  
ニ來タル國ニ取テハ到底其性質如何ニテ問ハス右ニ関セル盟  
約ニハ加入レ難キ者ナリ之ヲ以テ既ニ豫防方拵ニ着手シタル  
諸國ニ以スレハ大ニ其位置ヲ異ニシ其ノ彼レニ適行スヘキ方  
策ト虽氏或ハ之ニ適セサルノ例アルヘシ故ニ右區別ハ又注意



アリタキ者ナリ

ギツブス氏曰ク余敢テ前回會議ニ於テフエルヘルソツグ氏カ  
説カレタル箇條ニ付テ云ハント欲スル者アリ固ヨリ其要領ニ  
於テハ余全ク同氏カ意見ニ同スヘシ即チ同氏ハ一立金貨制度  
ノ賛成者ニシテ余モ亦然リ而メ同氏ハ曾テ銀貨ヲ拒ミ到底全  
世界中ニ其踪跡ヲ絶タシメンテ欲スルノ徒ニ非スレテ余モ  
亦之ヲ欲セサルナリ然レ茲ニ一ノ余カ同氏ノ説ニ伏シ難キ点  
アリ即チ現今日耳曼蓄在ノ銀ハ其貨幣市場ニ感觸ヲ起スノ多  
少如何ノ一議是ナリフエルヘルソツグ氏現ニ之ヲ論究サレタ  
リ而メ同氏ハ銀ノ下落ヲ以テ畢竟漸々開化ノ進歩スルニ根ス  
ル者ト為サレタリ即チ開化ノ進歩スルニ從テ各國各人必ス銀  
ヲ取ラニヨリ寧ロ最貴最便ノ金ヲ擇ムニ至ルヘキカ故ニ自ラ  
銀價ノ下落ヲ来タス者ナリト余ハ同氏カ説ニ違ヒテ抑モ方今盛

ニ銀價ノ下落スルニ過ラハ其實種々ノ偶然ナル原因ノ相ヒ  
助ケルアツテ先ツ第一年々地中ヨリ銀ヲ生スルノ其度ヲ過  
タルアリ又彼ノ羅甸貨幣同盟諸國ニ於テ銀貨鑄造ヲ停止シタ  
ルアリ及ヒ殊ニ日耳曼國ニ於テ其銀貨ノ以來通貨タルヘキ  
ヲ罷メタルノ改革アリテ右改革ノ効タル其實夫レ大ケノ銀ヲ  
ハ新タニ地中ヨリ鑿出シタルト同一ニシテ之カタメ日耳曼國  
ハ右改革ニ依テ更ニ産銀者トナリタルニ當レリト云ハント欲  
ス又斯ル理由ヲ以テ産スル所ノ銀ハ其年々地中ヨリ鑿出サル  
ハ處ノ銀ト大ニ其性質ヲ異ニスル處アリテ即チ日耳曼蓄在ノ  
銀ハ彼年々地中ヨリ鑿出タス處ノ銀ノ如ク多量ノ労カト過分  
ノ費用トヲ要セスレテ現ニ賣者ノ掌裏ニアツテ何侍タリ凡其  
欲スル處ニ任セ之ヲ以テ市場ヲ浸溢スルヲ得ル者ナリ既ニ日  
耳曼國ニ於テ一旦貨幣タルノ効力ヲ失ヒタルノ銀ハ忽チ其性



質ヲ變シテ尋常一般ノ賣買品トナリタレハ其價ノ如キハ曾テ  
衆人カ知ル如ク他ノ百般物貨若クハ賣買品ニ於ケルカ如ク決  
シテ其種屬如何ニテ問ハス同品ニ市場ニ充満スルモ又ハ欠乏  
スルカニ依テ其高低ヲ定ムルカ故ニ彼日耳曼國ニ於テ其貨幣  
タリシ銀ヲ以テ俄カニ尋常一般ノ賣買品ト為シタルノ日ヨリ  
一般ノ銀貨ハ自ラ下落ヲ醸シタル亦疑フ可ラス實際夫レ丈ノ  
銀ハ現ニ年々地中ヨリ産出スル処ノ銀高ニ加ハリタル者ニシ  
テ畢竟其市場ニ感應スル如何ノ点ニ至テハ此マテ成リ来タル  
支給需用ノ權衡ヲ顛動シタル者ナルカ故ニ今日耳曼國ニ於テ  
一時不意ニ之ヲ市場ニ持出シタルカ否ノ疑問ハ毫モ此ニ關係  
スル所ナク唯右高ノ銀ハ日耳曼ニ存在シ且ツ其存在スル所ノ  
世ニ知ラレタル上ハ決シテ其感觸上ニ差異ヲ生スル所ナシ今  
世人ノ能ク記憶スル所ニ依テ之ヲ例スレハ曾テチリイ國ニ於

テ一時其常ニ産出スル定額外ニ多量ノ銅ヲ所有シタル所アリ  
テ之カタメ大ニ銅價ノ下落ヲ惹キ出シタリ固ヨリ右理條ニ涉  
テハ曾テ銀銅ノ間ニ差別ヲ有スル所ナカルヘシ即チ之レ彼レ  
相同シク賣買品タリ而シテ右理條ノ達スル処餘他百般ノ物貨  
モ亦同一ノ制御ヲ抑クヘキ者ナリ之ニ依テ今何物ニセヨ其未  
製品ナルカ或ハ製造品ナルカヲ問ハス若シ其産出スル高ノ俄  
カニ以前ニ倍スル所アレハ之カタメ其價ヲ下落スヘキハ必然  
ナリ之ヲ推ス片ハ曾テ日耳曼ニ於テ俄カニ其貨幣制度ヲ改革  
シタルノ日ヨリ現ニ多量ノ賣買銀額ヲ増加シナカラ同シク其  
價ヲ下落セシメタル所ナシトスルハ抑モ理ニ於テ容レ難キ説  
ナリ然ルニフエルヘルゾツク氏ハ右蓄在銀額ハ其數僅カニ英  
吉利斯正貨ニテ千五百萬封度ヨリ千六百萬封度ノ間ニアルヲ  
以テ他方ニ於テ年々産出スル處ノ銀高千八百萬封度ニ比スレ



ハ其一ケ年分ニモ及ハサルヲ以テ之カタメ貨幣市場ニ感觸ヲ  
生シタルト甚タ大ナリト為ス可ラスノ説ヲ唱ヘテレタレモ今  
現ニ貨幣市場ニ感觸ヲ起スヘキノ銀ハ其世界中ニ産出スル處  
ノ惣銀高ニ非スレテ各國皆ナ各其自用ノタメ入用ノ分丈ケテ  
引去タル殘額ノ大小ノミニ係ハルナリ故ニ彼日耳曼國ニ蓄在  
セル銀額ヲ以テ各國能ク之ヲ賣ルニ足ルヘキノ右殘額ニ比ス  
レハ甚タ其踰ユル處ノ大ナルヲ見ヘク又一步ヲ進メテ實際日  
耳曼貨幣改革ノタメニ市場ノ變動ヲ釀シタルト如何計リナル  
カラ測定センニハ帝ニ現今彼國ニ存在シテ今後賣却スルニ當  
レル彼千六百萬封度ノミヲ以テ勘定ノ起票ト為ス可ラス加フ  
ルニ右改革以來既ニ彼國ヨリ賣出シタル分ヲモ併セ用ヒサル  
可ラス固ヨリ既ニ賣却シタル分ト虽モ同レク銀貨下落ヲ促カ  
スニ助カシタレ者ニシテ其効ハ尚ホ今日ニ之ヲ覺ユルナリ故

ニ勘定ノ起票ハ僅カニ千六百萬封度ニ止マラシテ既ニ賣却シ  
タル分ト今後賣却スヘキ分トヲ併セテ共ニ四千萬封度ニ至ル  
ヘシ蓋シ其既ニ日耳曼ヲ去テ市場ニ出タル分ハ所謂ル限アル  
隱密ノ効驗ヲ今日ノ市場ニ有スル者ニシテ其止ツテ他日賣却  
サレント欲スル分ハ即チ他日其限ヲ定ムヘキ實加ノ効驗ヲ現  
備スル者ナリ然レ其畢竟帰着スル處ヲ見レハ一ハ銀ノ需用ヲ  
減少シタル者ニシテ他ハ其支給ヲ増加セント欲スル者ナルカ  
故ニ共ニ銀價下落ヲ媒ムスルニ當リテハ些シモ相ヒ異ナル處  
ナキナリ又曾テフエルヘルヅツク氏ハ印度通商ノ實跡ヲ引テ  
其一ケ年間ニ銀ヲ歐羅巴ヨリ取込ムトノ多キ彼日耳曼國ニ於  
テ數年ヲ經テ漸ク賣出シ得ヘキ千六百萬封度ニ匹敵シタルノ  
例アリト云ハレタリ是レ即チ一千八百七十七年ノ事ナリキ今  
若シ之ヲレテ真ナラシメハ同氏カ同時ニ云ハレル其前數年間



ノ統計モ亦之ヲ真ナリトセサル可ラス即チ同氏ハ一千八百七十五年ヨリ一千八百七十六年ノ間一ケ年ニハ其高僅カニ三百五十萬封度ニ達セス一千八百七十六年ヨリ一千八百七十七年ノ間一ケ年ニハ僅カニ千萬封度ニ過キス一千八百六十五年ヨリ一千八百六十六年ノ間一ケ年及ヒ一千八百七十五年ヨリ一千八百七十六年ノ間一ケ年ニハ各六百萬封度ヲ踰ヘサリキト云ハレタルニ非スヤ今若シ以上数年間ノ平均割合ヲ取ルキハ現ニ日耳曼國蓄在ノ銀ハ正ニ通商ノタメ歐羅巴ヨリ印度ニ向テ輸出スル銀高ニケ年分ニ歎スヘクシテ一ケ年分ニ非サルヲ明カナリ故ニ今此議ニ関シ曩キニ議長セイヤ氏カ採用サレタル論旨ニ基テ之ヲ説クキハ則チ日耳曼國ニ現在セル銀額ハ直チニ之ヲ市場ニ持出タスカタメ充備シタル物貨ニシテ一人タリニ其出ル期日ヲ前知スル能ハス又如様ナル方法及ヒ有様ニテ

之カ市場ニ出テ来ルヤヲ豫言スルヲ能ハサル者ナルカ故ニ之ヲ以テ年々規順ヲ追ヒ自然ニ從ヒ漸々絶エス鑛山ヨリ出テ来ルル者ニ比スレハ其市場ノ景況ヲ變動スルノ点ニ至テハ固ヨリ同日ノ論ニ非サルヤ知ルヘシ蓋シ鑛山持主ナル者ハ漸々其出ルニ從テ其鑛物ヲ賣却セサル可ラサルノ勢アルヲ人能ク之ヲ知レリ且ツ之ヲ引渡ストモ速カニシテ綴ヒ或ハ稍々其産出ノ高ヲ不明ニ置クモ必ス當時ノ相場ニ依テ之ヲ賣拂フヘキヲ明カナリ故ニ其鑛山ヨリ出ルル者ハ入豫メ之ヲ計リ得且ツ前見スヘキ事柄ナリ之ニ反シ既ニ鑛物ノ容ヲ備工現ニ賣却ノタメ用意サレタル者ハ唯其政府カ隨意ニ依テ其出沒ヲ定ムルカ故ニ入豫メ其实际如何ニテ窺フ能ハス要スルニ年々産出ノ銀ハ元来市場ニ隨属スル者ニシテ貨幣制度變革ノ効力ハ市場ヲ壓倒スル者ナリ二者相ヒ異ナルヲ如斯キヲ以テ余ハフエ



ルヘルゾツクガ意見ニ同スル能ハス偏ニ日耳曼蓄在ノ銀ヲハ  
正シク貨幣相場変動ノ最冠源由トナシ右銀ノ悉ク賣却サレ了  
ラサルマテハ市場ノ勢情其奮ニ復スル能ハス銀價實ニ不定ノ  
姿ヲ具ヘテ益ス下落ニ赴クノ兆アルヘシ然レモ固ヨリ本議案  
ノ要領点ニ於テハ余輩ニゴスチン氏カ説ニ同意スルカ故ニ更  
ニ加フル処ナシ  
ウオーカル氏以下ノ演説ヲ為シテ曰ク「曩キニ博學多識ナル彼  
瑞西代議者ハ今回合衆國政府ヨリ當會議ニ附シタルニ條議案  
ハ其真相ト同シキ者ニシテ共ニ一ニ歸シ即チ第一議案ヲ論究  
スルキハ必ス第二議案一立貨幣制度將タ兩立貨幣制度ノ議論  
ヲ惹キ起スヘキコトヲ論述サレタリ今斯ル處見ヲ駁セシニハ唯  
以下ノ一事ヲ以テ莫足ルヘシ即チ昨十年間貨幣上ノ履歴ヲ暫  
フルニ實ニ今日ノ弊害ヲ起シタル根源即チ尚ホ後來ノ警防ヲ

凡ニ

要セシムルノ根源即チ今回合衆國政府ヲシテ當會議ヲ發意セ  
シメタルノ根源ハ彼日耳曼國ニ於テ兩立貨幣制度ヲ變シテ一  
立貨幣制度ト為ラシメタルニ非ス又兩立貨幣制度ヲ變シテ兩  
立貨幣制度ト為ラシメタルニ非ス偏ニ一立銀貨制度ヲ變シテ  
一立金貨制度ト為ラシメタルカタメナリ故ニ當會議ノ問題ニ  
依リテ敢テ衆眞ニ就テ抑モ銀ヲシテ到底貨幣タルコトヲ罷メシ  
メ悉ク歐羅巴諸國及ヒ亞米利加ニ於テ銀貨ヲシテ帝ニ副用貨  
幣ニ過キサル者ト為ラシメ其殘ル處ハ之ヲ東洋諸國ニ致シテ  
野蠻飾具トナラシムルノ舉アルハ好ミス可キコトナルヤ否ヲ實ス  
ルハ必スシモ兩立貨幣制度將タ一立貨幣制度ノ疑問ヲ垂ル、  
ト一様ナラサル可シ以上ノ簡答能クフエルヘルゾツク氏カ難  
評ヲ破ルニ足ル可レト虽モ余ハ帝ニ之ヲ以テ満足スルニ非ス  
元來議真カ第一番ノ評議ヲ要スルノ疑問ハ實ニ明瞭ニシテ毫



モ混雜スル處ナキ實地上ノ一論題ニシテ之ヲ議スルハ歐羅巴  
各國ノタメ亞米利加全洲ノタメ且ツ人間一般ノタメ利益甚々  
大ナルヲ述ヘント欲ス即チ茲ニ現然經過シ来タル一實跡ト  
及ヒ其餘勢ノ後來ニ及ハントスルノ有様ヲ舉テ今其餘勢ヲシテ  
充分其達スル處ニ達セシムルヲ以テ可トスルカ將々之ヲ遮止  
スルヲ以テ可トスルカ若クハ其勢ヲ反向セシムルヲ以テ上策  
ト為スカノ疑問是レナリ然ラハ則チ何ヲ以テ其既ニ經過シテ  
實跡ヲ殘シタル者ト為スカ及ヒ尚ホ其勢ヲ後來ニ示ス者トナ  
スカ即チ抑モ銀ハ遠ク人間史乘ノ派ル處太古ノ久レキヨリ曾  
テ加利弗尔尼亞及ヒ豪洲金山ノ發見サレタル后ニ至ルマテ尚  
ホ殆ント富强諸國ノ唯一貨幣タル位置ヲ占メタルノ鑛物ナリ  
レノ昨五六ケ年カ間ニ俄カニ且ツ強ヒテ貨幣タルノ効力ヲ剝  
奪サルニ及ヒタリ蓋シ産生者ト費用者ノ間ハ相互ノ思意ニ

依ル處ノ變革ハ是レ經濟上ノ真理ニ出ル者ニシテ即チ自然ノ  
勢ナリト云フ可ケレモ今銀ヲシテ貨幣タルノ効力ヲ失フニ至  
ラシメタルハ決シテ此ニアラサルヲ奈何セン即チ右變革ノ速  
カナルト大ニ之ニ加ハル處ノ強壓力アリタルトヲ以テ其此ニ  
アラサルヲ證スルニ足ルヘシ實ニ銀ノ其貨幣タル効力ヲ失フ  
ニ至タル者ハ現然一派ノ政術上ノ干涉ヨリ起タルナリ試ニ見  
ヨ曾テ一千八百六十七年ノ會議ハ其性質稍々當會議ニ類セル  
者ニシテ右會議ノ贊成ヲ得テ當時頗リニ或ル經濟學黨ノ間ニ  
之ヲ唱フル者アルニ依リ終ニ明瞭判然タル政府ノ布告即チ法  
律ノ力ヲ以テ之ヲ執行シタル者ニ非スヤ故ニ今當會議ニ附ス  
ルニ如斯ク此チ發生シタル勢力ヲ拒ミ若クハ之ヲ反向スルノ  
利如何ニノ疑問ヲ以テスルモ曾テ之ヲ目シテ自然ノ勢ニ反戾  
スル者ト稱ス可ラス既ニ斯ル勢力ノ下ニ為シ来タルノ實跡ハ



是レ全ク人間ノ思考ニ出タル所謂ル人エナリ其日耳曼ニ於テ  
一千八百七十一年ヲ以テ執行シタル改革ハ曾テ商業上工作上  
理財上若クハ經濟上已ムヲ得サル事情ノ存スルアツテ之ニ及  
ビタルニ非ス唯其政府カ隨意ニ出タル者ニシテ又瑞典及ヒ那  
威及ヒ彼ノ羅甸貨幣同盟諸國ノ貨幣制度上ニ貴重ナル更改ヲ  
生シタルハ抑モ余輩カ知り得ル処ニ依レハ寧ロ事物ノ真理ヲ  
誤解シ凡ソ銀ノ開明交商ニ接スル關係如何ニテ過誤ツテ之ニ  
及ヒタル者ナリ茲ニ其大意ヲ舉レハ單ニ世界中貨幣ノ支給ヲ  
減殺スルカタメ其富ヲ興スニ際シテ關係スル処如何ニノ点ニ  
注目スルヲナキヨリシテ起リタルカ如シ又彼一千八百六十七  
年ノ會議ニ於テハ議論偏ニ國際鑄貨ノ一事ニ涉リ之カタメ疑  
ヒモナク銀貨通用ヲ廢止スルノ舉ヲ勵マシタル者ナレモ嘗一  
千八百七十八年ノ會議ニ於テハ却テ思考ヲ實着ニ寧ロ議論ヲ

人間公衆ノ共同利益ニ關係アル廣大ナル点ニ及ホシ現ニ昨數  
年間ニ被リタル所ノ難厄危險ニ依テ自ラ精神ヲ勵マシ進テ既  
ニ商業上及ヒ一般興富上ニ斯ル患厄ヲ来タル銀貨通用廢  
止ノ舉ヲ排ケサル可ラサル所以ヲ評議セント欲スルナリ固ヨ  
リ一千八百六十七年ノ會議ハ余前ニ之カ弊害ヲ鳴ラシタレモ  
其議旨ノ國際鑄貨ノ一事ニ涉リタルカ故ニ必スシモ其弊害ア  
リタリト為シタルニ非ス蓋シ國際鑄造ノ事ノ如キ世界一様ノ  
貨幣制度ヲ創ムルニ至ラハ其効驗立トコロニ顯ハレ實際直ニ  
其利益ヲ受ル能ハサルヘシト虽モ畢竟其効驗如何ハ豫シメ之  
ヲ量知シ得ヘキ者ニシテ又自ラ思想上ノ關係ヲ有スル者ナリ  
故ニ或ハ之カタメ一國固有益ノ幾分ヲ殺ロシ鑄造改正等ノ  
タメニ若干ノ金ヲ費ヤシ臨時之カタメ稍々一般商業上ノ不順  
ヲ来シ以テ或ハ損害ヲ負フアルモ亦之ヲ負フヘキノ理由即



チ畢竟之ヲ償フニ足ルヘキノ利益ナキニ非ルヘシト虽其事タ  
ル到底人間公衆生命ノ関スル一大利益ヲ取テ悉ク之カ犠牲ト  
為スニ足ルヘキ者ニ非ス而メ現ニ一十八百六十七年ノ會議ハ  
誤テ國際鑄造ヲ興サンカタメ銀ヲ以テ擧テ此カ犠牲ト為シタ  
ル者ニシテ其因テ起リ来ル所ノ弊害未タ全ク尽キ了ハラサル  
者ナリ余前ニ日耳曼ノ舉動ハ或ル一派ノ經濟論者ノタメニ教  
唆サレ大ニ今日銀ノ闡明社會間ノ交商ニ關係スル實際如何ヲ  
誤テ之ニ及ヒタル者ナルヲ述<sup>エ</sup>タリ此点ニ付テハ經濟上實  
際実着ノ方ヨリ之ヲ論スルニ余決シテ博學ナル瑞西代議者カ  
説ヲ容ル、能ハサルナリ曩キニフエルヘルヅツグ氏ハ後來直  
チニ全世界ノ兩分シテ開化諸國ハ其通貨トシテ單ニ金ヲ用ヒ  
野蠻種屬ハ一ニ銀ヲ取ルヲ見ルニ至ルヘキヲ説カレタリ然レ  
今翻テ實際上ノ点ヨリ之ヲ見レハ全世界中真ニ經濟上ノ條理

ニ基ヒテ一立金貨ノ制度ヲ脩ムルノ國ハ僅カニ三ナルノミ彼  
ノ日耳曼國ノ如キハ其近年ノ舉動ニ就テ之ヲ窺エハ亦右制度  
ヲ遵奉スルノ國ト為ス可ラス今一國內ニ通用スル貨幣ヲシテ  
充分ニ其實價ヲ張ラシメサル可ラサルヲハ齊シク經濟學者カ  
容ル、処ニシテ小貨幣ノ行ハル、ヘキヲモ同レク之ヲ許ス者  
ナレモ唯副用貨幣タルニ過キサルノ見ヲ下セリ然レ其用ノ大  
ナル点ニ至テハ曾テ碩學コパアルニカス氏カ之ヲ説キタル如  
ク凡ソ一國小貨幣ノ便ヲ欠ク片ハ其弊害ノ大ナル内乱若クハ  
饑饉ニ過ルヘシト若シ誤テ一國貨幣ヲシテ悉ク大貨幣ナラシ  
ムル片ハ之カタメ大ニ私民ノ便宜ヲ欠ク可キヲ曾テレヴァアリ  
エー氏カ言ヲ俟タサルヘシ<sup>レ</sup>シヴァアリエー氏カ語ニ曰ク若シ法  
律ノ小銅貨等ニ許スニ能ク其國民ノ便宜習慣ニ協フカ如キ効  
カヲ以テセサル片ハ國民中貧窮ナル者ハ其食ヲ買ハンカクメ



其肉ヲ得シカタメ及ヒ其薪炭ヲ求メンカタメ非常ノ不便ヲ覺  
エヘシト然レ一旦貨幣ヲ定メル上ハ決シテ之カ金位ヲ貶トス  
ヘカラサルヲ亦齊シク經濟論者カ主張スル処ニシテ彼コバア  
ルニカス氏カ所謂ル死位ナル者ニシテ其社會ニ殘毒ヲ流ス  
亦以上ノ類ニ非ルナリ蓋シ貶位ノ貨幣ハ其害アルヲ曾テ下落  
シタル紙幣ノ如キニ非ス其故ハ一ハ人民ノ覺悟ヲ起シ一ハ之  
ヲ冥々ノ間ニ害ナエハナリ言フ換ヘテ之ヲ謂フ片ハ抑モ紙幣  
ノ其位ヲ貶スハ自ラ之ヲ首告スル者ニシテ之ヲ以テ他人ノ告  
発ヲ俟テ始テ之ヲ知ル処ノ貶位貨幣ニ比スレハ其罪大ニ輕口  
シト云ハサル可ラス又紙幣ニ際シテハ人々夙ク之ニ注意スル  
処アルヲ以テ自ラ之カ弊害ヲ免ル者アルナリ之ニ依テ今彼  
代議者中ニ行ハル、処ノ歐羅巴全洲一立金貨制度ヲ興スノ議  
案ハ之ヲ要スルニ唯歐羅巴ノ諸銀行ヲシテ其乏レキ処ノ金ヲ

將テ僅カニ國際ノ義務ヲ拂フニ足ルヘキ丈ケノ金貨ヲ鑄サレ  
メ餘他内國使用悉ク其本位ヲ貶シタル副用銀貨ヲ以テセシメ  
ント欲スルニ過キサルヘシ幸ニシテ英吉利斯國ノ如キハ其「レ  
ルリング」貨ニ接スルノ嚴ナルヨリ其「プロリン」貨及ヒ半「クラウ  
ン」貨ヲシテ正ニ副用貨幣ノ名義ニ負カサレムルヲ保シ又  
「サヴァリン」貨及ヒ半「サヴァリン」貨ノ通用甚タ廣大ニシテ且ツ  
入之ヲ嫌フヲナキヲ以テ愛テタクモ其通用貨幣ノ大部ハ其本  
位ヲ全フスルヲ得サシメタリト雖レ餘他歐羅巴諸國ニ於テ  
今英國ノ如キ富饒ヲ積ミ給料及ヒ物價ノ高貴ナルヲ得以テ其  
國現用ノ貨幣ヲシテ其実價ヲ保存スルニ足ル丈ケノ金ヲ有シ  
又之ヲ融通スルノ速カナル者果シテ幾莫アリトスルヤ特ニ近  
來ノ如キハ益ス鑛山ヨリ突出スル処ノ金年ヲ追テ減少スルニ  
於テハ實ニ其多カラサルヲ見ルヘシ故ニ若シ論者カ主張スル







ノ舉動ヨリレテ國際交易上ニ及ヒ来タル困難患厄如何ヲ知ル  
ノ深キ他ノ能ク及ハサル所ナルヘシ然リ而メ右困難如キハ  
其勢ヲ今日ニ遮止スルニ非レハ必ス日ヲ追テ其幣害ヲ増シ益  
ス永久ニ及フヘキナリゴスチン氏カ月曜日ノ演説ニ銀本來ノ  
價ナル語ヲ舉ラレタリ余惟フニ同氏カ所謂ル本來ノ價ナル者  
ハ即チ銀一「オン」ニ付キ英貨ニテ六十一「ペン」先後ヲ指ス者  
ナラン其故ハ一千八百七十三年ニ至ルマテ凡テ右ヲ以テ本来  
ノ銀價ト為シ遠ク之ヲ出入スルヲナカリセハナリ之ニ依テ又  
ゴスチン氏カ彼一千八百三年癸克ノ佛蘭西法律ノ徳ヲ讚稱セ  
ルヲ知リ得ヘシ即チ右法律ノ徳ニ付テハ同レク英國博學者  
ノ之ヲ讚稱セシ者尠カラス就中クプロフェスソル、ケートン、ス、氏  
スタンレー、ゼヴォン、氏及ヒバゼオット、氏ノ齊シク之ヲ稱讚シ  
テ今ゼヴォン、氏カ語ヲ仮ルニ「蓋シ右佛蘭西法律ノ用ハ元來其

性質上ヨリ互ニ需用ト支給ノ權衡ニ依テ其割合ヲ相ヒ共ニセ  
サル所ノ金銀兩貨幣泉源間ニ通スル所ノ管路ナリ」又バゼオツ  
ト、氏カ語ヲ仮ルルハ右法律ハ凡テ兩立貨幣制度ヲ遵奉セル國  
ノタメ曾テ其騰貴スル處ノ一方ヲ取テ以テ之ヲ賣却シ又其下  
落スル處ノ一方ヲ取テ以テ之ヲ保藏シ以テ兩者間ノ輕重ヲ平  
等ナラシムル處ノ一種ノ權衡ナリト如斯ク銀ヲレテ苟モ其元  
來ノ價ヲ脩メシメ又金貨通用國ト銀貨通用國トノ間ニ絶ヘス  
其平等權衡ヲ兩昏上ニ維持セシムハ古今獨リ右法律ノ存在ス  
ル者アルノミナリ然ラハ則チ到底如斯キ平等權衡ハ之ヲ維持  
スルヲ以テ可トスヘキヤ將タ不可トスヘキヤ古今如斯キ權衡  
ニ依テ其利益ヲ得タル者幾莫ソヤ又或ハ試ミニ問ハン之カタ  
メニ損害ヲ被ムリタルノ國曾テ世ニアリトナスヤ蓋シ英吉利  
斯ノ如キハ右權衡ノタメ始終得ル處アツテ失フ處ナキハ諸君



ノ齊シク孰知サルヘキ処ニシテ印度支那及ヒ餘他銀貨專用ノ  
國ニ於テモ大ニ利益スル処アリレハ亦諸君ノ疑ハサル処ナリ  
ト信ス今又兩立貨幣國ノ之ニ待ツ如何ヲ誓フルニ固ヨリ此等  
諸國ハ敢テ自ラ右權衡ヲ立タル發起者ニテアリナカラ焉ソ凡  
テ自國ニ得ル処ナクシテ妄リニ他國ニ利益センカタメ此制ヲ  
創メタルノ理アランヤ今若シ茲ニ英吉利斯及ヒ印度カ此制ノ  
タメニ利益シタルカ故ニ必シモ佛蘭西及ヒ之ニ同盟セル諸國  
ニ於テハ之ニ及シタル丈ケノ損耗ヲ被タルヘレノ説ヲ唱フ  
ル者アレハ是レ所謂ル<sup>二</sup>商賈説<sup>一</sup>ニ據ル者ニシテ其邪妄遠ク真理  
ニ離レタルトハ曾テアダムスミス氏カ明然之ヲ論示セルヲ以  
テ終ニ入々此ヲ容ルル者ナキニ至レリ故ニ今更ニ余カ弁舌ヲ  
費ヤスヲ要セサルヘシ今若シ試ミニ曾テ佛蘭西國自ラ利スル  
トナクシテ唯他國ヲ利センカタメ之ヲ執行シタル者トナシ決

レテ以上舉ルカ如キ理由ノ之ヲ勵マシタル者ナレトセハ又別  
ニ由ルヘキ處ノ者アリト為スカ蓋シ佛國理財家參政家及ヒ直  
チニ其國民ノ英敏ニシテ且ツ先見力ニ富メルヨリレテ曾テ其  
改命時代ノ法律ヲ七十餘年カ末ニ傳ヘ来リ一旦己ムヲ得サル  
ノ事情ヨリ日耳曼國ノ壓制ヲ受テ其法律ヲ停止スルニ至ルト  
虽ヒ畢竟議長セイ氏カ云ハル、如ク再ヒ後來ニ至テ其<sup>舊</sup>舊制ヲ  
恢復スルノ望ヲ懷テ以テ之ニ及ヒタル者ナルヤモ計リ難シ固  
ヨリ今日ノ患厄其跡ヲ絶ツニ及ハ、或ハ此事アルヘキナリ以  
上即テ議長セイ氏カ其佛蘭西國政府ノ舉動ハ果シテ何レノ處  
ニ根スルヤヲ解明サレタル論旨ナリ然レモ余ヲ以テ之ヲ見レ  
ハ佛蘭西政府ニ於テ固ヨリ数多他國ノ共ニカヲ俟セテ其難澁  
ヲ分ツヘキヲ望ミタルハ勿論ナルヘシト虽ヒ或ハ佛蘭西國一  
己ノタメニモ寧ロ全ク之ヲ為ス者ナカラシヨリハ自分一國ニ



テモ之ヲ為スノ利益アルヘキヲ曉リタル者ト信セラル今若シ  
敢テ議長セイ氏カ云ハル、処ヲ以テ真ナリトセハ其恢復ノ日  
ニ過フヲ能ハサルニ於テハ佛蘭西政府果シテ如何ナル手段ヲ  
行ハント欲スルカ即チ瑞西代議者カ云ハル、如ク畢竟全世界  
ヲ二分シ各々其欲スル処ニ依テ金若クハ銀ヲ拂フニ至ラハ其  
結果以テ如何ト為スヘキソ又如斯クシテ金世界ト銀世界トノ  
間ニ存在スヘキ平等ノ權衡ヲ設クルヲナキニ至ラハ其國際通  
商上ニ感觸ヲ生スヘキ果シテ如何計ナルヘキソ惟フニ以上兩  
世界間ノ通商ハ曾テ正貨通用國ト紙幣通用國トノ間ニ行ハル  
、通商上ニ加ハリタル困難ニ毫モ変ル処ナキ者ノタメニ悩マ  
サレサル可ラス以上ノ困難ハ實ニ大ナルヘシト虽モ尚ホ茲ニ  
一種ノ之ニ勝ル者アリ即チ余ノ第二條ノ思想ニシテ畢竟銀貨  
通用廢止ノタメ大ニ歐羅巴及ヒ亞米利加貨幣支給ノ高ヲ減殺

レ後テ過キレ頃且ツ後來ニ至テ恐クハ富饒ヲ興コスノ途ニ於  
テ障碍ヲ生スヘキ者是レナリ即チ茲ニ其慘情ヲ畧描スレハ第  
一之カタメ狡猾點商ヲシテ其利ヲ恣マ、ニセシメ隨テ近來習  
慣ノアル処ニ後テ前ニ得タル処ノ利潤ヲハ悉ク生産製造ノ途  
ニ漏ラシ終ニ却テ大ナル負債若クハ費用ヲ官私若クハ會社ノ  
上ニ墮チ來ラシムヘシ而シテ一方ニ於テハ實際ニ乏シキヲ以  
テ今之ヲ拂ヒ尽ス能ハス要スルニ今日ノ製造入費及ヒ負債ハ  
到底後日ノ製造品ヲ取テ之ヲ拂フノ抵当トナスニ至ルヘシ故  
ニ恐ラクハ貨幣支給ヲ減殺スルノ一事ハ人間災厄中ノ最モ大  
ナル者ト稱シテ可ナラン頭ヲ回ラセハ曾テ貴重鑛屬ノ尽キ果  
テタルカ若クハ野蠻征役若クハ内國爭乱ノタメ歐羅巴ヲシテ  
其鑿鑿事業ヲ罷メシメ以テ之ヲ水火ノ中ニ陷ラシメタル者兩  
度ナリキ然ルニ計ラサリキ今又或ル經濟論黨ノ舌頭ニ掛テ敢



テ政府ノ實斷ヲ以テ再ヒ此慘情ヲ見ルニ至ラシムルヲアルニ  
過<sup>ハ</sup>憂念<sup>ニ</sup>絶エサルヲナリ蓋シ一千八百七十一年ヲ以テ関  
手シタル一大活斷ノ勢ニ依テ竟ニ歐羅巴及ヒ亞米利加ノ貨幣  
支給ハ愈ヨ減シテ其百分ノ三十ニ至ルカ又ハ二十ニ達スルカ  
ハ之ヲ豫言シ得可ラスト虽モ其何ニマレ實ニ容易ナラサルヲ  
ナリ嗚呼貨幣ノ支給ヲ減殺スルハ竟ニ製作會社ヲレテ水火ノ  
中ニ踰泣セシメ荆棗ノ間ニ困マレメン<sup>ト</sup>ヲ欲スル者ナリト称  
スルモ曾テ過キタリト為ス可ラサルナリ嗚呼數千年ノ久シキ  
共ニ貨幣トナリ来タル兩屬貨幣ノ共ニ減少スルニ至<sup>ント</sup>スル  
ノ期ニ際シ又其一ヲシテ到底貨幣タルノ効カラ失フテ終ニ東  
洋諸國ニ到テ其跡ヲ野蠻飾具ノ間ニ埋マシメ若クハ帝ニ副用  
貨幣タルノミノ効カラ以テ之ニ附シ其三千年以降積蓄シタル  
處ノ大額ヲ市場ヨリ引去<sup>ント</sup>スルノ慘情ハ夫レ之ヲ今日ニ目

撃セサルヲ得サ<sup>レ</sup>元ヘキ者トナスカ以上ニ類セル人間開化ノ妨  
害トナルヘキ所業ヲ防<sup>ニ</sup>カタメ人間公衆ノ代議者トナツテ亞  
米利加合衆國代議者ハ茲ニ教言ヲ費ヤシタルナリ是レ即チ銀  
貨疑問ニ付テ余輩カ真正利益ノ係ル處ナリ是レ即チ余輩ヲシ  
テ此處ニ集會セシメタル者ナリ現今我カ合衆國ハ産銀者タル  
一事ノ如キハ實ニ些細ノ事ニシテ以上廣大利益ノ関スル處ニ  
照準スル片ハ其至小ナルヲ現ニ余輩カ久シク之ヲ忘却シ居タ  
ル程ノヲナリ抑モ發銀ノ業タル僅カニ百工中ノ一ニ過キス而  
メ他ノ百工皆ナ各々合衆國ノ資本ヲ舉ケ其勞カラ尽クシテ之  
ニ施コスモ曾テ其足レルヲ知ラサルナク我國四方ハ殘ラス自  
然ノ富饒ヲ積ミ未タ人カラ此間ニ加ハサル者一々枚舉スルニ  
遑アラス故ニ今僅クニ那波陀ノ銀鑛山ニ人夫ヲ加フニ數千ノ  
多キヲ以テスルト為サルトノ如キ小疑問ハ決シテ余輩カ思慮



ヲ要スルニ足ラサル者ナリ又他方ニ於テ抑モ此回余輩ヲレテ  
此處ニ来ラシメ頻リニ銀貨疑問ヲ痛論セシムル者ハ決シテ我  
カ國ニ蓄藏セル幾莫銀額ノ下落センコトヲ恐ルカタメニ非ス  
我國民ハ近頃ニ至リ漸ク曾内乱ノタメ久シク隔タル欠乏坑間  
ヲ脱出シタル者ニシテ貴重鑛屬ノ支給ハ未タ足レリトナスニ  
至ラサルナリ就中ク現今所有セル鑛屬ハ其大部ハ是レ金ニシ  
テ銀ハ漸ク數月前ニ至リ初メテ其原價ニ復シタル者ナリ若シ  
我カ國ニ於テ或ハ佛蘭西若クハ印度ニ匹敵セル銀額ヲ蓄藏ス  
ルコトアルニ於テモ唯貨幣支給ノ我カ商業上若クハ富饒上ニ関  
渉スル一方ヨリ之ヲ見レハ概子其價一「オンス」毎ニ四十五乃至  
三十「ペンス」位マテニ下落センコトヲ期シテ右ハ唯一且定限アル  
損耗高ニレテ夫レ丈ケ我カ富饒ヲ減少シタル者ニ過キス又後  
来他ノ工業製作ニ依テ之ヲ償フコトアルヘキヲ念ヒ寧ロ之ニ堪

ユルコトアルヘシト虽氏今若シ斯ル例ノ諸方ニ行ハレ其幣害當  
ニ我カ國一箇國ニ及ハスレテ廣ク世界ニ及ヒ僅カニ此一時ニ  
止マラスレテ永ク萬世ニ傳ハルコトアルニ過エハ余輩ハ固ヨリ  
之ヲ黙然ニ附スル能ハサルナリ

フエルヘルゾグ氏第一ギツズス氏カ彼ノ日耳曼蓄在ノ銀額  
カ曾テ貨幣市場ニ咸觸ヲ生シタルコト幾莫ナルヤニ付テ云ハレ  
タル議論ニ答テ曰ク蓋シ右ノ点ニ付キ余カギツズス氏ノ説ニ  
違フ所以ノ者ハ他ナレ即チギツズス氏ハ帝ニ龍動市場ノ景勢  
ニ付テ其論ヲ建テ偏ニ右市場ニ入り来ル處及ヒ之ヨリ出テ行  
ク處ニノミ涉テ議評シタルカ故ニ其餘他諸方ノ景況ヲ測ラサ  
ル恰モ木綿ノ景氣ヲ論スルニ當リ一ニリバプールの市場ノミノ  
景氣ニ基ヒテ之ヲ云フ者ニ等シ此点ヨリ之ヲ見レハ元來龍動  
市場ハ彼日耳曼蓄在銀ノアル處ニ近接セルヲ以テ其効跡實ニ



龍動市場ニ著シキ是レ特別ノ事ナリ之ニ反シ余ハ全世界ニ産  
出スル銀額及ヒ全世界ニ費耗スル銀額ニ基ヒテ議論ヲ起シタ  
ル者ナレハ即チ余カ云フ処ニ依リ全世界ニ産出セル銀額ハ四  
億四千萬「フランク」ニシテ其内ニ億「フランク」ハ之ヲ亞米利加合  
衆國ニ仰クナリ然ルニギツブス氏カ據ル処ハ帝ニ龍動市場ノ  
ミナルヲ以テ其亞米利加ヨリ到来スル數額ハ僅カニ五千萬「フ  
ランク」ニ過キストス要スルニギツブス氏カ據ル処ハ甚々狭少  
ニシテ其日耳曼蓄在銀ヲ見ル之ヲ余自ラ見ル処ニ比スレハ寧  
ロ小ナルヲ免レサルナリ即チ余カ見ル処ニ依レハ其第一ヶ年  
間ニ産出スル銀額ニ髣髴スル者ニシテ或ハ印度通商ノタメ一  
ヶ年間ニ要スル処ノ者ニ匹敵スルニ過キサルヘシ如斯ク彼レ  
余レノ間ニ畢竟異議ノ起ル所以ハ偏ニ互ニ其據ル處ヲ異ニス  
ルノ一事ニアレハ其帰着スル處ハ固ト同一ナルヘシト信ス今

又別ニ余カ論述スヘキ一点アリ先刻一論者アリテ凡ソ羅甸同  
盟諸邦ニ於テ銀貨鑄造ヲ制限シタル一事ハ多少銀價ヲシテ下  
落セシメタル一原因ナルヘシノ語ヲ出タシタリ余ヲ以テ之ヲ  
見レハ是レ必ス誤謬ナルヘシト思ハル即チ曾テ羅甸同盟諸邦  
ノ中央ト称スヘキ巴利斯造幣局ノ報告書ヲ見ルニ一千八百五  
十七年ヨリ一千八百六十五年ノ間ニ同造幣局ニ於テ五「フラン  
ク」貨幣ヲ鑄造シタルトナシ然レモ之カタメ曾テ銀價ノ騰貴ス  
ルヲ速リタルヲアルヲ聞カス故ニ當時ノ實見ニ就テ之ヲ論ス  
レハ凡ソ銀貨ノ鑄造ヲ禁シ若クハ之ヲ停止スルノ舉ハ必スレ  
モ銀價ノ下落ヲ醸成スル者ニ非ス實ニ彼ノ羅甸同盟諸邦ニ於  
テ五「フランク」貨ノ鑄造ヲ制限シタルハ漸ク下ツテ一千八百七  
十三年ニ至リ兩貨幣ノ割合ハ一ト十六ニ及ヒタルトキニ當リ  
始テ之ヲ實施シタルナリ如斯ク實際銀價ノ下落ハ其鑄造制限



ノ日ニ先シテ却テ其下落ヨリ斯ル制限ヲ立ルノ要ヲ起レタ  
ルナリ以上即チ余カ英吉利斯代議者ノ論ト其細微ナル点ニ於  
テ違フ処ニシテ餘他綱領ニ於テハ余全ク同氏カ説ヲ容ルナ  
リ又亞米利加代議者ゼ子ラル、ウオーカル氏カ説ニ就テハ余充  
分之ニ答フル能ハサルヲ憾メリ固ヨリ同經濟學者カ云ハレ  
タル議論ノ如キハ實ニ之ヲ鄭重視セサルヲ得ス又充分ノ用意  
ナクシテ之ヲ評論スルハ到底其當ヲ得サル者ナルハシ然レ余  
敢テ茲ニ其最モ要領トスル点ニ就テ些シク答フル処アラント  
ス曾テゼ子ラル、ウオーカル氏ハ昨數百年間金貨通用ノ畧傳ヲ  
掲ラレタリ然レ余ヲ以テ之ヲ見レハ全ク其細密ナルヲ認ムル  
能ハス抑モ一千七百年代以降實ニ金ハ英吉利斯唯一ノ通貨タ  
ル権力ヲ握リタリ曾テ彼ノ國碩學ソル、アイザック、ニウトル氏  
カ二十一志ヲ以テ「ギニイ」ト定ムル擧アリレ以降金ハ正ニ彼

國交易ノ唯一器具トナリタリ又佛蘭西ニ於テ繼ヒ一千八百十  
五年以降通用貨幣ハ多ク銀ナリタルヲアレレ又一千八百五十  
年以降ニ至テハ更ニ金トナリタルナリ故ニ昨二百年カ間ハ歐  
羅巴國多ク銀貨通用ニ熟シ居タルノ一事ハ余之ヲ容レ難シ茲  
ニ其實情如何ヲ擧グルニ歐羅巴ニ於テモ此際亞米利加ト同シ  
ク金貨並ニ銀貨ノ通用ヲ仰キタル者ナリ然レレ銀ノ通用ヲ盛  
ンニ行ヒタルノ國ハ固ト其商業盛ニナラス又其製作事業ノ大  
ナラサル國ノミニ限リテ餘他富強諸國ハ皆ナ偏ニ銀貨ヲ通用  
セシナリ要スルニ余ヲ以テ之ヲ見ルニゼ子ラル、ウオーカル氏  
カ昔日銀貨ノ勢權位置ナリトシテ述ラレタル所ノ者ハ大ニ其  
實ニ過キタル者ト思ハル又同合衆國代議者ハ曾テ一千八百六  
十七年ノ會議ヨリ釀成シタル勢力ヲ評スルニ當時同シク大ニ  
其實ヲ誤マル者アリト信ス即チ同會議ニハ合衆國政府モ同シ



ク參與シタルコトニテ當時頻リニ同政府カ一立金貨制度ヲ賛成  
シタルヲ見ルニ非スヤ然ルニ今日ニ至テ初テ全ク其主義ヲ正  
反シ真ニ銀貨ノ維持ニ助カスルハ抑モ如何ナル故ソ余カ見ル  
處ニ依レハ彼一千八百六十七年ノ會議ハ其自ラ辨解シ能ハサ  
ルノ疑問ヲ設ケ自ラ之ヲ実施スル権力ナキナカ<sup>ラ</sup>妄リニ數條  
ノ方案ヲ建タリノ廉ヲ以テ之ヲ責ムヘキニ當ラス蓋シ彼會議  
ハ凡テ其力ノ及ハン限リハ悉ク之ヲ為シ又以テ之ニ附セラレ  
タル疑問ヲ辨解スルニ當リ其為シタル處尠シトセス即チ之ヲ  
日記スレハ彼一千八百六十七年ノ會議ニ於テ建議シタル一事  
ハ正シク余カ前回會議ニ於テ之ヲ主張シタル如ク全世界ヲ二  
分シテ其富饒強大活達文明ノ諸國ニハ金ヲ用ユヘク又稍々開  
化進歩ニ後レタルノ國ニシテ寧ロ之ヲ拒ヒ若クハ之ヲ嫌ハサ  
ル國ニハ銀ヲ用フヘク又今日ノ形勢ニ依テ其何レニ屬スルヤ

ヲ定メ難キ國ノタメニハ先ツ仮リニ兩立貨幣制度ヲ以テスヘ  
キ若是レナリキ以上一千八百六十七年會議ノ大主意ナリシト  
虽モ又併セテ金貨鑄造ノ事即チ當會議ニ於テ頻リニ痛論サル  
、處ノ國際鑄造ノ事ヲ論シタリ蓋シ右議問ハ之ヲ一千八百七  
十八年ニ論スルヨリ曾テ彼ノ一千八百六十七年ニ論シタル處  
寧ロ切激ナリシト虽モ憾ラノハ當時實地上ニ於テ其決ヲ取ル  
ト能ハサリキ要スルニ一千八百六十七年ノ會議ハ其ノ之ヲ當  
時ニ為シタルヨリハ寧ロ深ク經濟学中貴重ナル種ヲ施コシタ  
ル者ニシテ必ス貨幣上ノ難ヲ<sup>危今日、此ニ非ルハ好氣候ニ際シ後來必ス其弊</sup>祭スルコトアルヘシ又畢竟其好結  
慕ヲ納ムルニ及フヘキト疑ヒナシ余今進テ曾テゼ子ラルウオ  
トカル氏カ一立貨幣制度ニ對シテ試ミラレタル襲撃ヲ防カン  
ト欲ス抑モ世界中冠首タル彼ノ三大強國ノ貨幣史衆ヲ按スル  
ニ其帰向スル處凡テ貨幣上ノ困厄及ヒ艱難ハ其実多クハ兩立



貨幣制度ノ幣害ヨリ来リタルヲ見ル即チ英吉利斯國ハ其初メ  
一立銀貨制度ヲ遵守シ降ツテゼイムス第一世及ビチャールス  
第二世ノ御宇ニ至リ大ニ金ヲ増加シタリ然レモ如何ナル理由  
ナルニ依テカ且ツ政府ノ術策ハ果シテ如何カアリシヤヲ知ラ  
スト虽モ其苟モ金銀兩貨幣間ノ割合ヲ立ント欲スルノ際ニハ  
必ス貨幣上ノ困厄ヲ出シタルヲ見ル即チ一時悉ク銀貨ノ其跡  
ヲ隱クスアリテ他時又金貨ノ其影ヲタモ現ハサ、ル者アリキ  
之ニ於テウヰリヤム第三世ノ御宇ニ至リ已マテ得ス衆人ノ知  
ル如ク巨大ノ費用ヲ擲テ改正鑄造ヲ執行スルノ擧アリキ一千  
七百十七年ニ至リ彼ノ一ギニイラハ二十一志ナリト定タルノ  
擧アリシ后其實英國ハ一立金貨ノ制ニ移リタルナリ然リ而モ  
抑モ彼國貨幣史衆ヲ閱スルニ其貨幣上平定ノ形ヲ備フルニ至  
リタルハ此時ニ始マリタルナリ而シテ其後或ハ戦争等ノタメ

七

稍ハ担擲サルハ処アリシモ久シク變動ノ色ナカリキ然レモ此日  
ニ在テハ唯是レ實際上ノ貨幣平衡ニシテ其後一千八百十六年  
ニ至テ初テ法律ノ之ヲ認ムルニ過フタリ要スルニ法律ハ唯自  
然ノ勢ニ依テ成リタル所ノ者ニ許スニ現ニ法律ノ効カヲ以テ  
シタルノミニテ其實際ハ既ニ久シク其成ヲ奏シ居タルナリ移  
テ亞米利加合衆國ノ史衆ヲ見レハ曾テ一千七百九十二年ニ於  
テアレキサンドル、ハミルトン氏金ト銀ノ間ニ一ト十五ノ割合  
ヲ立テ以テ合衆國通貨ノ制律ヲ興コシタリ蓋シ同氏カ意ニ依  
テ右割合上大ニ銀ニ待スルノ過キタルヲ知リタリト虽モ畢竟  
一ノ國立銀行ヲ起シテ以テ大ニ紙幣ヲ發行スルノ見込ナリケ  
レハ斯ル紙幣ノ融通ヲ助ケンニハ重量ナル正貨ノ側ヲニ通用  
スルヲ以テ利アリト為セルカ故ニ終ニ之ニ決シタルナリ如斯  
ク當時合衆國貨幣ノ制度ハ大ニ金ノタメニ害アルニモ関ラス

七



レ、ポイヤヲ經テ西班牙領西印度ト通商ノタメ合衆國中許多ノ外  
國金貨幣殊ニ西班牙金貨「デウデロ」ノ流通スルヲ見タリ然リト  
虽氏一千八百十二年ニ至テ物情全ク之ニ及レ一般ニ合衆國ハ  
銀國トナリ降テ一千八百三十四年及ヒ一千八百三十七年ニ及  
ヒ政府更ラニ法律ヲ製シテ金銀兩貨間ノ割合ヲ一ト十六ニ定  
タルノ日マテ全ク銀國タルノ情態ヲ備エタリ然氏此時ニ至リ  
其定タル処ノ割合ハ甚タ金ノタメニ過キタルヲ以テ大ニ銀ノ  
拂底ヲ主シ一千八百五十三年及ヒ一千八百五十四年ノ如キニ  
至テハ之カタメ悉ク内國通商ニ用ユヘキ小貨幣ヲ又キ己ヨヲ  
得ス政府令ヲ發シテ彼英國ニ於テ用ユル処ノ副用貨幣ニ等シ  
キ實價ヲ備ヘタル小銀貨ノ鑄造ヲ創メシメタリ事情如此クナ  
ルヲ以テ合衆國ハ其名義上ニ於テハ彼一千八百三十七年ノ法  
律ニ依リ兩立貨幣制度ヲ遵奉スルノ國ナルモ其實全ク金ヲ以

テ成ル処ノ通貨ヲ使用スル國トナリタルナリ以上能ク亜米利  
加合衆國ノ貨幣政度ノ變遷如何ニヲ示スニ足レリ即チ合衆國  
ヲ以テ兩立貨幣制度ヲ遵奉シタルノ國ト稱スルハ唯法律上ノ  
名義ノミニテ其實際ハ兩貨幣ノ中一時一立他時他立ノ姿ニテ  
固ヨリ斯ル實情ヲ起スヘキヲ獨リ合衆國ノミナラス萬國皆ナ  
ズレ然ルナリ今佛蘭西國ノ貨幣史兼ヲ窺フニ彼ノ國幸ニシテ  
夙ニ此点ニ注意スル処アリテ既ニ一千七百八十五年ヲ以テ金  
一、銀十五半ノ制ヲ創メ其後一千七百八十五年ヲ以テ右制度ニ  
法律ノカヲ與エ即チ從來ノ慣習ヲ批准シタリ而シテ當時俄カ  
ニ全國內ニ通用スル金貨幣ノ高八億(アレンク手)ニ上リタルヲ  
見タリ然氏漸々其減少スルニ遇フテ降テ一千八百二十年ニ至  
リ佛蘭西ハ却テ一ノ銀國トナリタリ而シテ爾來暫ク其容ヲ改  
メサリキ之ニ依テ是ヲ觀レハ當時佛蘭西ノ如キ其實法律上ニ



テハ兩立貨幣ノ制度ヲ脩ムル者ナリト雖モ又別ニ法律ヲ離レ  
タル所謂ル自然ノ勢ニ依テ一立銀貨ヲ採ルニ至リタリ嗚呼自  
然ノ勢法律ノ力ニ勝ツ又見ルヘキナリ然ルニ計ラサリキ一千  
八百五十年ニ至テ忽テ物情ノ轉動スルニ遇ヒ俄カニ金貨ノ銀  
貨ノ位置ヲ奪フヲ見タリ蓋シ加利弗ル尼亞及ヒ豪洲金鑛ノ突  
見サレタルヨリ忽チ金ノ流入ヲ加ヘ之カタメ大ニ銀價ヲ騰貴  
セシメ從テ本位金貨ノ佛蘭西國內ニ專行スルヲ見ルニ至タル  
ナランカ其原因何レニアルニセヨ實ニ其國民ノ驚駭ヲ起シタ  
ルト又思フヘキナリ是レ亦所謂ル自然ノ勢ナリ然ルニ近年ニ  
至リ俄忽之ニ劣ラス驚駭亦之ニ讓ラサル處ノ新變革ヲ起シ來  
ルニ遇ヒテ即チ近年益ス金ノ產出ヲ減少スルノ際俄カニ亞米  
利加銀山ノ產出甚タ過大ヲ加ヘタルヨリ元來佛蘭西國ハ諸國  
交商ノ中央ニシテ其通商上ノ權衡常ニ他國ヨリ貨幣ヲ輸入ス

ルノ位置ニ居ルヲ以テ必ス一貨幣ノ其價ヲ下落スルノ機ニ際  
シテハ同貨幣ノ此國ニ墮チ來ルノ勢アルカ故ニ今回亦莫大ノ  
銀貨此國ニ輻輳スルトトナリ之カタメ不得已政府ヨリ令ヲ發  
シテ彼ノ五フランクノ貨幣ノ鑄造ヲ制限スルニ至ラシメタリ固  
ヨリ羅甸貨幣同盟諸國政府カ斯ル制限ヲ布キタルカタメ漸ク  
自國ノ成立ヲ今日ニ全フレタル者ト云ハサル可ラス故ニ斯ル  
制限ヲ施コスハ是レ自警自禦ノ最上策ニシテ且ツ公衆一般ノ  
保護トモ成リ凡テ兩立貨幣制度ノ配下ニ出ル國ニ取テハ之ヲ  
捨テ、又別ニ今回ノ危險ヲ免ル、ヘキ術策ナカリシナリ蓋シレ  
一國兩立貨幣ノ制度ヲ脩ムル片ハ必ス其我カ手ニ來ル處ノ一  
方ノ貨幣ヲ拒ムヲ得サルノ勢アリ又凡ソ兩立貨幣アル片ハ必  
ス其一ハ其他ニ踰エテ幾分ノ増シ割相場ヲ占ムル者ニシテ其  
右制度ヲ遵奉スルノ國ニ墮チ來ル處ノ者ハ常ニ市場ニ於テ其



勢弱キ者ノミニ限ルノ理ナリ曩キニ英國ニ於テ百方手ヲ尽シテ探偵シ得タル処ノ彼銀貨調査委員ノ報告ニ依レハ曾テ一千八百七十三年ヨリ一千八百七十六年ニ至ルマテノ間ニ印度通商ノタメ至大ノ銀額ヲ要求スルヲアルノ前ハ凡テ萬國ニ於テ鑄造サレタル銀貨幣ハ其一旦通用貨トシテ社會ニ用ヒラレタルヤ否ヲ論セス悉ク佛蘭西國ニ注入シタリト云ヘリ如斯キ者常ニ兩幣貨幣制度ノ弊害ニシテ古今右制度ヲ採用シタル者ハ必ス其自國人民ノ康安ヲ犠牲トシテ之ヲ採用セサル國民ノ腹ヲ肥ヤシタルノ例絶ユルヲナレ故ニ彼合衆國代議者ハ深ク經濟學ノ理條ヲ飾リ雄辯堂々右制度ノ得益ヲ今日ニ贊成サルト虽氏余ハ曾テ之ニ同意スルヲ能ハサルナリ又別ニ曾テゼ子ラル、ウオーカール氏カ云ハレタル論點ノ余カ默然ニ附スル能ハサル者アリ即テ同氏曩キニ云ハスヤ凡ソ金貨一立ノ制度ハ必

ス金貨流通上ニ制限ヲ起シ或ハ副用銀貨若クハ紙幣ノ来テ之ヲ助クル者ナカル可テサルノ景勢ニ立至ル者ナリト余カ見ル処全ク之ニ反シ既ニ余カ之ヲ前回會議ニ論述シタル如ク銀貨一立ノ制度コソ彼ノ紙幣若クハ信憑券ノ世ニ出テ其殘毒ヲ流スノ憂ヲ惹キ起ス者ナリ現ニ銀ハ之ヲ金ニ比スレハ其形醜ノシテ又其目方重ク甚々不便ヲ究ムルノ鑛屬ニシテ之ニ反シ金ハ少量タリモ其價甚々大ナルカ故ニ運搬ノ便隨テ多ク以テ畢竟紙幣ヲシテ其要少ナキニ至ラシムルノ徳ヲ備ヘタル貴重鑛屬ナリ故ニ之ヲ以テ銀ニ比スレハ性來鑛屬貨幣ノ基礎トシテ用フルニ適スル處多シト云テ可ナリ且ツ銀ヲ以テ其基礎トシタル貨幣制度ハ必ス稍々輕便ナル處アリト虽氏竟ニ弊害多キ紙幣ヲ誘導スルノ憂ヒアリ今以上余カ謂フ処ヲ要略スルニ彼ゼ子ラル、ウオーカール氏カ堂々辯舌サレタル空理論



ハ實地効驗ノタメニ自ラ破フル、処アリテ余ヲ以テ之ヲ謂フ  
片ハ則チ所謂ル國際ノ盟約ニ依テ兩礦屬ノ相場間ニ一定ノ割  
合ヲ立ルノ一事ハ必ス年々産鑛高ノ多少ト國際通商ノ有様ト  
ニ依テ變革スルヲ免カレサルノ憂ヒアリテ到底首足宜ク之ヲ  
行ヒ難キ者トセリ蓋シ一國物價ノ表準ハ必ス一ナラサル可ラ  
スレテ強ヒテ之ヲ兩立セシメント欲スルハ其實自ラ非常ノ危  
險ヲ踏マンテヲ望ムニ當レリ而シテ之カタメニ弊害ヲ被ムル  
ノ例史乘ニ照ラシテ昭カナリ故ニ余ハ偏ニ文化開達國ノタメ  
ニハ確實不變ノ金貨一立制度ヲ勸ムル者ナリ若シ一旦以上制  
度ヲ基立スルニ於テハ元來銀ノ如キハ野蠻國民ノタメニ通行  
スヘキ者ナルカ故ニ決シテ其副用貨幣タルノ外之カ際ニ其嘴  
ヲ容ル、丁能ハサルヘシ此ニ至テヤ始テ銀ノ効力ハ幣ニ附屬  
物タルニ過キサルヘキヲ以テ最早再ヒ天下萬民ヲシテ從前ニ

類シタル之カ變動ヨリ來ル處ノ弊害ヲ受サレシムルニ及フヘ  
レ  
ワーン氏曰ク余敢テゼ子ラル、ウオーカル氏カ曾テ出ラレタル  
一問題ニ答ヘント欲ス即チ同氏カ演述中方今歐羅巴全洲ニ於  
テ彼英國ト相ヒ并テ其富能ク其國民ヲシテ其要スル丈ケノ金  
ヲハ已レカ手ニ引纏メ及ヒ之ヲ保存セシムルニ足ルヘキ者果  
シテ幾干國アリトスル乎ノ教語アリキ蓋シ同氏カ惟フ處ニ依レ  
ハ歐羅巴ノ諸國多クハ主トシテ金ヲ立ナカラ傍ラ法律上大額  
ヲ拂フニカ乏シキ銀ヲ併行セシムルヲ免レス如斯ニハ其貨幣  
ハ唯名義ノミニ涉リテ其實不換紙幣ニモ劣ルヘク以テ斯ル國  
ハ早晚其貨幣融通ノ不充分ナルヨリ自ラ損害ヲ來ス一必セリ  
トスル者ノ如シ余ハ實ニ瑞典ノ代議者ニシテ自ラ我國ノ富饒  
ハ遙カニ英國ニ及ハサルヲ知レリ然レ議論ノ決着スル處ハ



必シモ國ノ貧富ニ関ハル者ニ非ス唯其要旨トスル処ハ試ニ一  
國ヲ掲テ曾テ其國ノ貧弱ナルニ関ハラス尚ホ其國需要ニ足ル  
ヘキ金ヲハ保存シ得ルノ術アルヤ否ノ一点ニシテ此術ヲ得ル  
ニハ必シモ其國ノ富強ナルヲ俟タサルヘシ若シ其國貨幣制度  
ノ宜シキヲ得信用ヲ脩ルノ善法ヲ有シ且ツ外國通商ノ適宜ヲ  
知ルコトアラハ縱ニ其國ハ貧弱ナルモ金ニセヨ或ハ銀ニセヨ曾  
テ其國ヲシテ正貨通用ノ國タラシメシカタメ入用丈ケノ分ヲ  
保有スルニ難カラサルヘシ之ニ反シ若シ其國貨幣ノ制度其宜  
シキヲ得ス銀行ノ制具備セス及ヒ輸入ノ高其分ヲ踰ユルキハ  
縱ニ其國富強ナルニセヨ又其要スル処ハ金ニモセヨ銀ニモセ  
ヨ能ク之ヲ有ツコト能ハサルヘシ現ニ我瑞典ノ如キ昨五十年カ  
間未タ曾テ紙幣ヲ發兑スルノ要アルニ遇ハス又一千八百七十  
三年ニ於テ從來ノ一立銀貨制度ヲ廢シテ更ラニ一立金貨制度

ヲ以テ之ニ代ラシメタレシ曾テ我國ノ康安上ニ變動ヲ起シタ  
ルコトナカリキ即チ一千八百七十三年五月三十日發兑ノ我國貨  
幣條例ニ依リ縱ニ分数以下ノ貨幣ト虽モ毫シモ制限ナク我大  
藏省ニ於テ通貨トシテ之ヲ受納スルノ制アルカ故ニ法律上全  
ク充分ノ通貨力ヲ備フル者ニ等シク又我國立銀行及ヒ其支店  
ニ於テ何時ナリモ金ヲ以テ之ヲ交換セリ故ニ我國小貨幣ハ毫  
シモ金ニ異ナル所ナキナリ又ウオノカル氏カ所謂ル貨幣融通  
ノ不充分ナル云々ニ付テハ其真ニ由ルベキ處一ニ鑛屬貨幣ニ  
アラスシテ大ニ紙幣為替手形及ヒ銀行ノ帳合上如何ニ関スベ  
キ者ニシテ此等ノ景況ヨリシテ一國貨幣融通上ニ響應スル處  
ノ大ナルコト實ニ甚シトス固ヨリ此等ノ如キ紙幣類ハ多少其國  
ニ於テ正貨ノ存在スルコトヲ認ル者ナレモ其多少如何ニ至テハ  
一ニ公衆平和ヲ維持スルノ保護力如何ニ依ル者ナリト云ハサ



ル可ラス凡ソ一國ニ於テ其信用上ニ関スル貨幣即チ紙幣等ヲ  
融通セシニハ必ス其礎盤トシテ豫メ多少ノ正貨ヲ準備セサル  
者ナキハ勿論ナリ故ニ彼ゼ子ラル、ウオーカール氏カ頻リニ喋々  
サレタル貧弱國ノタメニハ一立金貨ノ制度ハ不適當ナルヘシ  
ノ一事ハ未タ其慥カナルヲ保シ難ク又其アルヘキヲ信シ難シ  
蓋シ同氏カ述フル処ノ弊害ハ之ヲ避ント欲シテ到底能ハサル  
者ニ非ルヘシ然ルニ之ニ反シ他方ニ於テ銀貨ヲシテ其貨幣タ  
ルヲ罷メシメタル一事ヨリ生来シタル貨幣相場ノ轉動及ヒ如  
斯クシテ突然尋常一般ノ賣買品ニ異ナル処ナキ有様ニ陥ラシ  
メタル銀ノ相場高低ヨリ釀成スル処ノ損害ハ之ヲ免レント欲  
シテ能ハサル者ナリ是レ即チ那威及ヒ瑞典政府ヲシテ其英國  
ト通商ノ盛ナルヨリ終ニ彼國貨幣ノ制度ヲ學ハシメ之ト同一  
者ヲ脩ムルニ至ラシメタル原因ナリ

ホルトシ氏曰ク曾テ瑞西ノ代議者ハ遠ク歴史上ノ成跡ヲ擧テ  
以テ其議論ノ規矩トナシ竟ニ苟ヲ一立金貨制度ノ贊成ニ結ハ  
レタリ余今此点ニ付テ喋々ヲ費ヤスニ先ニ第一盛ニニ論者  
間ニ紛議ヲ起シタル彼日耳曼現在ノ銀額カ今日ノ貨幣市場ニ  
響應スル処如何ノ論ニ由テ些レク思ヒ付タル事アルヲ以テ今  
暫ク茲ニ謂フ処アラント欲ス現ニ議長セイ氏及ヒ英吉利斯代  
議者ハ莫大ノ効力ヲ以テ右銀額ニ附シ加之ナラス若シ右銀額  
ノ世ニアラン限り若クハ右銀貨ノ悉ク流通社間ニ出尽サル限  
リハ貨幣市場ノ局面ハ實ニ穩カナラスレテ曾テ一定ノ色ナカ  
ルヘシト主張セラレタリ然ルニ他方ニ於テフエルヘルゾツグ  
氏ハ之ヲ辨駁シ寧ロ廣大ナル点ヨリ其議論ヲ立敢テ全世界中  
ニ出産シ及ヒ消費サル、処ノ銀ヲ將テ計算ノ基本トナシ近来  
ニ至テ驚クヘキ銀價ノ揺動ヲ生シタル原因ハ一ニ年々地中ヨ



リ出ル處ノ銀高ノ多少ト及ヒ印度通商用ノタメ要スル處ノ多  
少トニ関セルヲ論究サレタリ余モ亦フエルヘルゾツグ氏カ  
法ニ倣ヒ敢テ全世界ヲ採テ議論ノ憑依トナシ以テ數言ヲ以下  
ノ一点ニ費サント欲ス即チ今若シ彼羅甸同盟諸國ノ政事家カ  
苟モ一立金貨ノ説ニ從ヒ其通用銀貨ヲ處スル曾テ日耳曼ニ於  
ケルカ如クシテ終ニ其所有銀ヲ賣却スルノ處置アルニ至ラハ  
其効果シテ如何カアルヘキヤ是レ曾テフエルヘルゾツグ氏カ  
畢竟物情ノ之ニ及ハンヲ望メリト謂ハレタル点ニ非スヤ若  
シ果シテ斯ル舉アルニ遇ヘハ彼五「フランク」銀貨ノ賣却サルヘ  
キ「」必定ニシテ右稱號ノ銀貨ハ凡テ羅甸貨幣同盟聯邦間ニ在  
ル處ノ數ハ曾テ幾千萬個ナルヲ知ラス又佛蘭西一國內ニ於テ  
モ同貨幣ノ高ニ拾五億「フランク」ニ下ラスト云ヘリ故ニ斯ル大  
類ノ銀貨忽チ貨幣タルノ効力ヲ失ヒ尋常一般ノ賣買品ト成ル

モフエルゾツグ氏ハ尚ホ貨幣市場ノ變動ハ其印度通商ノタメ  
需用スル高如何ニ関スル「」大ニシテ歐羅巴ニ於テ該鑛物ヲ給  
付スル如何ニ関スル「」小ナリト云ハント欲スルカ蓋シ以上説  
ク處ノ彼羅甸同盟諸邦カ一時ノ舉動ニヨリテ生スル處ノ者ハ  
固ヨリ其權衡上ニ於ケル曾テ日耳曼國ノタメニ生シタル處ト  
同日ノ論ニ非ルヤ知ルヘキナリ是レ即チ全世界ヲ採テ議論ノ  
憑依ト為スニ際シ不同ニ措ク「」能ハサルノ議題ニシテ若シ一  
タヒ一立金貨ノ説羅甸同盟諸國ノ政事家ヲ同伏セシムルニ及  
ハ、必ス到來スヘキ處ノ困難ニシテ苟モ後來ニ至リ銀ノ有様  
如何ニ関シ利害ヲ慮ルノ國ニ取テハ須臾モ忽セニ為ス可テサ  
ル者ナリ故ニ此一点ハ當ニ余ノミナラス凡テ彼兩鑛屬ヲ以テ  
同シク通用貨幣トシテ俟行セシメン「」ヲ希フ處ノ論者カ絶エ  
ス憂フル處タリ然レモ以上唯余カ偶然ノ暗告ニシテ余ハ今移



テ曾テフエレヘルグツグカ述ヘラレタル歴史上ノ事実ノ真  
偽ヲ論究シ隨テ同氏カ此ヨリ引証サレタル處ノ議決非ヲ説  
明セント欲ス即チ同瑞西代議者カ述ヘラレシ處ニ依レハ從來  
兩立貨幣ノ制度タル其佛蘭西ニ於ケル其合衆國ニ於ケル又其  
英吉利斯ニ於ケル曾テ之ヲ採用シタル毎ニ好結果ヲ致シタル  
ノ例ナク甚レキニ至テ之カタメ非常ノ困難ヲ醸シタリ且ツ其  
實一時一立他時他立ノ有様ニテ真ニ所謂ル兩立貨幣ナル者ノ  
行ハレタルヲナシト云フニ當ラスヤ固ヨリ其言ノ過キタルヤ  
明カナリト虽モ今暫ク之ヲ咎メスレテ余ハ却テ時宜ニ依リ一  
國級ニ或ハ兩貨幣間ノ割合相場ヲ維持セシトテ欲スト虽モ偶  
々他ノ諸國ニ於テ之カ變動ヲ促カスノ擧アルカタメ終ニ斯ル  
一時一立他時他立ノ姿ニ陥ラントスルノ情態ヲ免レサルノ勢  
アルヘキヲ認許スヘシ然レモ之ヲ以テ所謂ル一時一立他時他

立ノ完然ナル姿ト称ス可ラス固ヨリフエルヘルグツグ氏カ云  
ハルノ如キノ例アリタルヲナキナリ蓋シ兩立貨幣ノ制度ヲ遵  
奉スルノ國ニ於テ若シ或ハ實際一時一立ノ如キ有様ヲ示シタ  
ルトアルニモセヨ必ス隱カニ他ノ一貨幣ノ自ラ之ト併立スル  
ヲ見サルヲナカルヘキナリ然レモ唯其需用及ヒ支給ノ權衡上  
ヨリ自ラ一貨幣ヲシテ世ニ顯ハレシメ其光他ノ一貨幣ノ顯像  
ヲ壓遠スルニ至ルヲアリテ是レ又自然ノ理ト云フ可シ又斯ル  
一時一立他時他立ニ類似シタル事情ヨリ果シテ忌ムヘキ結果  
ノ起リタルカ如キ例アリトセハ今真ニ右結果ハ兩立貨幣制度  
ノ直接ノ結果ナリシヤ或ハ又偶然之ニ及ヒタルヤノ疑問ヲ糺  
タサハル可ラス故ニ右疑問ノ眼目ハ必シモ右結果ハ眞實其時  
ニ行ハレタル兩立貨幣制度ノ直果ナルニ相違ナキヤ否ニアラ  
シヨリ寧ロ當時他ノ制度ノ此ニ代テ行ハレタル者アリシナラ

大蔵省



ハ決シテ斯ル幣害ヲ来シタルトナレノ実證アルヤ否ニアルヘ  
レ如何ナレハ若シ能ク之ニ代ルヘキ者ナク又両立貨幣制度ハ  
当時不得已之ヲ用フヘキノ要アリシトセハ今之カ足点ヲ論ス  
ルモ更ニ其功ナカルヘキカ故ナリ然ルニフエルヘルゾツグ氏  
ハ一立金貨制度ヲ以テ両立貨幣制度ニ比シ互ニ其利害ヲ論シ  
幣害必ス其第二者ニアルヘキヲ論スルニ当リ即チ英米佛三ヶ  
國ニ於テ各時出現シタル貨幣上ノ困難ヲ説キ来リ当時其國ニ  
ハ両立貨幣制度ノ行ハレ居タルヲ以テ必ス之カ結果ナリト論  
及シタルカ故ニ同氏ニ於テ又当時彼諸國他ノ制度ヲ扨ンテ之  
ニ代フルヘキノ自由ヲ有シ居タリ又若シ之ヲ代用シタリシナ  
ラハ必ス斯ル弊害ヲ免レ居タルヘシノ兩條ヲ証定スルノ義務  
アリ然レモ同氏カ空論中ニハ曾テ斯ル証據ヲ擧タルヲ聞カサ  
リキ此外余ハフエルヘルゾツグ氏カ英吉利斯國貨幣政畧ノ履

歴上ニ付キ程々云ハント欲スル者アリ曾テフエルヘルゾツグ  
氏ハ金ハ英國ニ於テ其實際一千七百十七年以降全國唯一貨幣  
タルノ專權ヲ握リ居タル者ニシテ後チ一千八百十六年ノ法律  
ハ既ニ一百年以前ヨリ自然ノ勢ニ依テ成リタル者ヲハ公ケニ  
之ヲ批准シタルニ過キサリト云ハレタリ是レ即チ俗間ニ  
於テ齊シク行ハルヘクノ説ニシテ人皆ナ之ヲ容ルヘト虽モ余  
曾テ自ラ英國貨幣沿革ノ事ニ渉レル教書類ヲ閲シテ以テ得タ  
ル処アリ之ニ依レハ大ニ衆人ノ説ニ相違シ即チ彼國ニ於テ初  
テ銀貨鑄造ヲ禁止シタルハ實ニ一千七百九十八年ノ事ニシテ  
一千八百十六年ニアラス而メ右禁止ノ擧アルニ過フマテハ法  
律上依然トシテ一ト十五、二一ノ割合ヲ脩メ兩立貨幣制度ハ全  
ク英國ニ成存シタリ即チ右禁止條例ハジョルジ王第三世即位  
ノ第三十八年第七十五号ニシテ當時唯反リニ之ヲ施コシタル

大蔵省



者ナレ其翼年第七十五節ヲ以テ確乎永久ノ者ト為シタルナ  
リ如斯ク英國ニ於テ實際初メテ一立金貨制度ヲ設ニヨテ欲レ  
隨テ之ヲ實設シタルハ彼一千八百十六年ニ非スレテ其一千  
七百九十八年ナリシニ相違ナシ然リ而シテ今其効驗ノ果シテ  
如何カアリシヤヲ探ルニ一千七百九十八年ヨリ一千八百二十  
一年ニ至ルマテ英國ニ於テ正貨ノ循環融通ハ全ク凝滯ヲ生シ  
其實當時英國ノ以テ貨幣本位ト為ス所ハ獨リ交換ス可ラサル  
且ツ一般ニ價ノ下落シタル為替手形ノ外ナカリキ然ラハ則若  
シ此時マテ從前ノ兩立貨幣制度ヲ遵奉シ來ツタルナラハ果シ  
テ同シク斯ル慘情ノ起ルコアリシトナスヤ是レ即チ余輩カ目  
前ノ議問ニシテ若シ敢テ英國ノ例ヲ引キ以テ銀貨廢止ノ舉ヲ  
贊成セント欲セハ兎角金ノタメニ其決ヲ舉サル可ラス然ルニ  
其實跡ニ就テ之ヲ糺サハ當時萬國多ク銀ヲ以テ貨幣トシ英國

ト交易ヲ通シタル諸國ニ於テモ其金ヲ所持シタルヨリハ一層  
銀ヲ所持スルノ大ナルヲ見且ツ此等諸國ニ在テハ帝ニ金ノ割  
合相場ハ其英國ニアランヨリモ高貴ニシテ加フルニ當時歐羅  
巴大陸ニ於テ戦争アリシヨリ特ニ金ヲ需ルノ大ナルヲ見又之  
カメメ當時英國ヲシテ彼貨幣上ノ厄災ニ陥ラシメタルハ必ス  
彼一千七百九十八年一立貨幣條例ノ効ニ出ル處大ナルヲ信ス  
ルニ至ルヘシ又フエルヘルゾグ氏カ合衆國ニ於テ固ト遵奉  
シタル貨幣法例ニ付テ云ハレタル所ヲ將テ之ヲ論究セハ甚々  
多分ノ時間ヲ費ヤスヘキカ故ニ余ハ暫ク之ヲ停メシ然レ氏同氏  
曾テアレキサンドル、ハミルトン氏カ名ヲ掲ラレタルヲ以テ余  
ハ些シク同政事家カ兩立貨幣制度ニ付テ吐露サレタル意見ヲ  
以テ諸君ニ告ント欲スルナリ蓋シハミルトン氏ハ兩貨幣ノ一  
ヲレテ彼ヲニ尋常賣買物貨ト同様ナル位置ニ陥ラレタルコトア



ラハ之カタメ大ニ流通機關ヲ損フヘク凡テ流通ノ充満ナルヨ  
リ起ル處ノ利益ト其渴乏ナルヨリ生スル處ノ損害トヲ較フレ  
ハ断然兩貨幣ヲシテ併行セシムルニ利アラント唱ヘラレタ  
ルナリ然ルニ憾ラクハ余即今同政事家カ其造幣年報書中ニ於  
テ同主意ヲ述ラレタル真本ノ語字ヲ將テ直チニ之ヲ會議ニ附  
スル能ハス尚ホ其一篇ヲ探求シテ之ニ應スヘキナリ(第四回會  
議第四號憑書)惟フニハミルトン氏カ談論ヲ唱ヘラレタルノ日  
ニ当リ尚ホ未タ所謂一立貨幣將タ兩立貨幣ノ議論ハ世ニ行  
ハレス隨テ兩貨幣ノ一ヲシテ國際ノ義務ヲ償済スルノ効力ヲ  
失ハシムヘキヲ唱タル者ナク又此時未タ英國ニ於テモ銀ヲ  
拆ケルノ舉起ラサリシナリ其故ハ初テ英國ニ於テ右ノ舉アリ  
シハ其後一千七百九十八年ノ一ニシテ曩キニ日耳曼國ニ於テ  
銀貨廢止ノ活手段アルニ遇ヒ終ニ其功ヲ遂メタル者ナリ要ス

ルニハミルトン氏カ企ラレタル方法ハ必シモ絶ヘス合衆國中  
ニ金銀其割合等シキ兩立貨幣制度ヲ永久ニ保存セシムルニ足  
ルヘキヲ保シ難シト虽モ其主意タル到底金及ヒ銀ヲシテ適法  
ノ國貨及ヒ國際使用ノ貨幣トシテ妨ナカラシムルヘキノ点ニ  
アリテ即チ同氏現ニ兩貨幣ニ許スニ同等ノ鑄造自由ヲ以テス  
ヘキヲ主張サレタリキ故ニ之カ真意ヲ探レハ全ク彼一千八  
百六十七年會議赴向ト相ヒ正反スル者ナルヲ知り得ヘシ  
如斯ク説キ来テホルトン氏ハ更ニ會議ノ面々ニ問フテ曰ク此  
マテ余輩ハ大ニ其方向ヲ誤リ矣リニ傍統ノ議論ニ喋マレタリ  
寧ロ此ヨリ翻テ正統ノ論旨即チ亜米利加合衆國ヨリ以テ當會  
議ニ附シタル議論ニ取掛ラハ其功益多カルヘシト信ス諸君以  
テ如何トナヌヤ然リ而シテ今其議案ノ主旨ヲ約言スレバ今後  
久シク貨幣上ノ鬭争ヲ國際ニ関キ互ニ下落ノ勢アル貨幣(銀)

大蔵省



羈絆ヲ免レ其餘殃ヲ相ヒ譲ラントテ謀企スルト又萬國共同ノ  
定約ヲ以テ國際商業ノ為メ其貨幣上古今未曾有ノ一定平度ヲ  
與フルト其益當會議中ニ其代議者ヲ汎遣サレタル諸國ノタメ  
何レニ在ル乎ノ一点ナリ而レテ抑モ當會議ヲ募集シタル本来  
ノ主意ハ即チ此一点ヲ議定センカタメニテ若シ諸國ノ代議者  
ヨリ之ニ付テ其意見ヲ陳述スルコトナクシテ空シク相ヒ離散ス  
ル片ハ凡テ當會議ノ主意ハ画餅ニ属シ余輩カ曾テ議負諸君ノ  
博學多識ナルニ付テ望ミ居タル處ノ成果モ亦浮泡トナリ竟ニ  
當會議誌ノ最末ニ至テ乎字ヲ下サハルヲ得サルノ遺憾ヲ免レ  
サルヲ奈ンセン

バラリス氏曰ク余モ亦當會議負ノ諸君カ曾テ合衆國代議者カ  
云ハレタル會議本案カ真意ノアル處ヲ誤視サルハコトアルヲ見  
テ大ニ之ヲ遺憾トセリ即チ議負ノ面々ニ於テ同議案ヲ拒ムニ

支ラルハ大ニ其當ヲ得サル者ニテ余ハ充分ノ時間ヲ合衆國  
代議者ニ與ヘ真ニ本議案カ主意ノアル處且ツ其利益ノ係ル處  
ヲ述ヘシムコソ真ニ至當ノコトナルヘシト信スルナリ蓋シ議負  
ノ面々カ以テ速カニ當議案ヲ拒ムニ足ルノ原因ナリトレテ枚  
擧サレタル教項ノ事實ハ真ニ以テ然リト為スハキヤ否ヤ余ヲ  
以テ之ヲ見レハ決シテ如此キヲ以テ直チニ當議案ヲ却下ス  
ルニ足ルヘキノ理由ナリト為ス能ハス今試ニ我伊太利ノ一例  
ヲ擧テ其足ラサルヲ示サン即チ役前ダント及ヒガイコーノ二  
省ハ昔時經濟家間ニ貴重視サレタル所ノ一立銀貨制度ヲ遵奉  
シ来タルコト久クシテ漸ク當一千八百年代ニ及テ初テ兩立貨幣  
ノ制度ヲ創メ當時種々論者間ニ紛議ヲ起コレタルニ関ラス今  
日ニ至ルマテ其形ヲ存スルヲ見ルナリ固ヨリ貨幣制度ノ疑問  
ヲ決スルニハ意ヲ其習慣及ヒ仕来リニ注カサル可ラスト虽モ



之ノミ帝ニ依ルヘキ者ニ非ス却テ一國固有ノ利益ヲ擲テ寧ロ  
意ヲ高尚廣大ナル点ニ注キ一般ニ人間公衆利益ノアル處ニ着  
眼スルヲ能ハサル乎余輩既ニ之ヲ述タル如ク何トカ妙手段ヲ  
施コレテ萬國互ニ相ヒ譲ル處アリテ其共同利益ヲ保護センカタ  
メ普通貨幣鑄造ノ議ニ付キ相ヒ同スルヲアルヲ得サル乎今  
日ノ如キ人間開化ノ進達スルニ隨テ各國互ニ相ヒ懸隔スルヲ  
ナク僅カニ四十八時間ヲ出スレテ更ニ関符若クハ旅行通券ヲ  
用ヒス歐羅巴全洲ヲ經歷スルヲ得ルニ至リタリ然ラハ今到ル  
處其貨幣ヲ異ニシ兩替上混雜ナル計算ヲ要シ多分ノ損耗ヲ被  
ムルヲアルニ於テハ大ニ旅客ノ妨害トモナルハク隨テ大ニ今  
日開化ノ瑕瑾ナリト云フヘシ若シ果シテ各國風習ノ異ナルヲ  
以テ歐羅巴全洲舉テ同一ノ貨幣ヲ通行スルニ差碍アリトセハ  
或ハ一種特別ノ金貨並ニ銀貨ヲ鑄造シテ一ニ各國固有ノ風俗

ニ協ヒ側ラ其固有貨幣ニ伴フテ國際普通ノ貨幣タルヲ得サレ  
ムルノ方法ナレトスル乎蓋シ此議題ハ彼合衆國政府ヨリ以テ  
當會議ニ附セラレタル者ト相ヒ關係スルヲ甚々近クシテ當議  
會ニ於テ之ヲ評議スルハ最モ至當ノ事ナリト思ハル固ヨリ之  
ヲ評議スルニ當テハ豫メ用意スル處且ツ究鑿スル處ナカル可  
ラサルヲ以テ余ハ當議會ニ勸ムルニ先ツ一旦之ヲ評議スルヲ  
ニ決定シタル上再ヒ委員ヲ擇ンテ之カ議案ヲ作ラシメ又豫メ  
至當ノ材料ヲ求メシムヘキヲ以テス諸君類クハ頭ヲ回ラシテ  
曾テ彼羅甸同盟諸邦間ニ現出シタル成跡如何ヲ思想シ以テ萬  
國一致シテ國際ノ共同貨幣ヲ定ルニ至ラハ其実功益如何計リ  
ナルヘキヤヲ測慮セラレヨ即チ曾テ一千八百六十五年ニ於テ  
取結ハレタル盟約ノ源由ハ何レノ處ニアリシノ即チ第一右盟  
約ニ加入シタル諸國ノ貨幣制度間ニ順序ヲ救ヘ其國疆内ニ於



テ相ヒ互ニ其貨幣ノ流通循環ヲ保センカタメニシテ第二如利  
弗尔尼亞及ヒ豪洲金山ノ癸見以降常ニ其平定相場ヲ踰ヘタル  
銀ノ自ラ他國ニ流入センコトヲ防ンカタメナリキ而シテ此ヨリ  
先キ八百三十五位銀ヲ以テ巨額ノ小貨幣ヲ鑄製シ隨テ其本位  
ヲ賤シタルニ依リ該貨幣ノ自ラ他國ニ輸出スルノ勢アルヲ防  
キ加フルニ自國政府ノタメニモ尚ホ百毎ニ六若クハ七分ノ利  
潤ヲ得テ其曾テ流通間ヨリ引去タルカタメノ費用ヲ償フタ  
ルハ獨リ右同盟ノ功ニ出タルニ非スマ然レ同時尚ホ彼五「ラ  
ン」銀貨ニ付スルニ從前ノ如ク九百位ヲ以テシタルハ其既ニ  
國際ニ得タル処ノ通用貨幣タル効力ヲ維持セシメンカタメナ  
リキ嗚呼幸ナル哉右盟約ノタメニ銀ハ久シク其流通貨幣タル  
ノ實用ヲ示シタリキ今又何ナリ凡然ルヘキ方法ヲ用ヒテ縱ヒ  
全世界中ニ非サルモ其至当ナル界域内ニ銀貨ノ通用ヲ保存ス

ヘキ策案ヲ得ルコト能ハサル乎蓋シ曾テ彼羅甸同盟諸邦ノタメ  
ニ為シ能フタル事ハ又再ヒ餘他衆多國ノタメニ之ヲ復行シ能  
ハサル者ト為ス乎以上余カ以テ當會議ノ評議ニ附セシト欲ス  
ル処ノ數疑問ニシテ古今ノ成跡上ヨリ之ヲ見レハ到底之ヲ解  
クコトノ難カラサルヲ信ス又縱ヒ之ヲ評議シテ竟ニ得ル處ナキ  
ニモセヨ必ス之ヲ試ミテ曾テ無用ノ事ト為ス可キニ非ラス余  
カ論局ヲ結フニ當リ余カ偏ニ望ム處ハ即チ合衆國諸代議者ニ  
於テ此マテ妄リニ當會議員ノ面々カ執着シタル處ノ空理論條  
ヲ離レテ断然其實行ニ施コサント欲スル處ノ思想ヲハ單簡ニ  
脩正シ以テ歐羅巴及ヒ其自國間ノ普通貨幣ヲ興サンコトニ努力  
サレタキ者是レナリ而シテ右脩正ノ事ハ余カ曩キニ動議セシ  
處ノ彼特別委員ヲシテ同シク之ヲ司ラシメテ可ナラン如斯ク  
スレハ必ス實地上其功益アルヘキ決議ノ之ヨリ来ランコト更ニ

裁  
省



疑ヲ措ク可ラサルナリ

議長セイ氏曰ク唯今バラリス氏カ企テラレタル一事ハ素ト唯  
本議案ノ副議題ニ過キサルヲ以テ今斯ル評議ニ時間ヲ費ヤシ  
テ以テ本議案ノ決議ヲ引延スルハ大ニ不当ナルト思ハル但  
シ當會議ニ於テ目前議定スヘキ一事ハ即チ合衆國代議者カ陳  
述サレタル議案ニシテ專ラ之ヲ議定シ了ルマテハ會議其正統  
ナル方向ヲ改ルト能ハサルヘシ

以上議長ノ竟見アルヲ以テ衆皆ナ合衆國ヨリ提起サレタル議  
案ノ決ヲ取ルニ至ルマテハ其正統ナル方向ヲ違ヘサルヘキ  
ニ決議シタリ

フエルヘルゾグ氏曰ク余取テホルトン氏カ議論ニ答ヘンカ  
タメ暫ク議堂ヲ犯サントヲ請フ固ヨリ余ハ決シテ同合衆國代  
議者カ何レノ日ヲ以テ英國ニ於ケル合衆國ニ於ケル銀ハ其本

位貨幣タルノ効カヲ失ヒタルヤ云々ニ就テ辨駁シ當議會ノ妨  
ヲナスヲ好マス右ハ全ク彼レ余レ私間ノ答返ニ附スヘシ然レ  
氏同氏曾テ余カ偏ニ古今兩立貨幣制度ノ諸國ニ行ハレテ其成  
跡上ノ利害如何ヲ論究スルノミニテ毫モ新々ニ合衆國ヨリ提  
起シタル新様制度即チ國際兩立貨幣制度ニ論及スル處ナキヲ  
咎メラレタル一事ニ付テハ余些シク謂ハント欲スル處アリ即  
チ曾テウオールカル氏ハ古今兩立貨幣制度ノ害ヲ説カレタルノ  
ミニテ些シモ普通兩立貨幣制幣ノ利ヲ述ヘラレタル處ナキヲ  
以テ終ニ論シテ之ニ及フヘキ機會ナカリシナリ又現ニ合衆國  
政府カ眼目トナス處ノ兩貨幣間確定シタル相場割合ヲ立ル  
ノ成否如何ニ関シテハ余全ク之ヲ容ルヘ能ハス試ニ見ヨ今當  
議會ヨリ取テ英國ニ就テ永久兩貨幣間即チ彼國「サグレ」金貨  
ト「ウペイ」銀貨ノ間ニ確定シタル割合相場ヲ立ニトヲ請求ス



レハ彼國政府必ス何トカ云ハンヤ唯之ニ同意セサルヘキノミ  
ナリ又當會議ヨリ阿蘭陀國ヲ誘フテ彼國金貨「フロリン」及セ銀  
貨「フロリン」ノ間ニ右同様ノ割合相場ヲ立ントテ勸ムルハ彼國  
政府果シテ何トカ云ハンカ必ス全ク之ヲ拒ムニ他辞ナカルヘ  
シ又支那ニ向テ之ト同様ノ事ヲ言ヒ入レルトアラハ彼國必ス  
是非ノ返答ヲモ為サハルヘシ之ニ依テ余輩ハ如何ナル感覺ヲ  
起スヘキヤ他ナレ唯永久商業上需用ノ多寡ニ依テ變動ヲ起ス  
ノ憂ナクシテ金銀兩貨幣間ニ一定ノ相場ヲ立ルノ難キヲ知ル  
ノミニ非スヤ今若シ縱セ如此キ政術上ノ艱難ナキ者トシテ仮  
リニ各國齊シク同意スルトアリト定ムルモ又別ニ實際上ノ艱  
難アリテ之ヲ妨クルヘシト信ス即チ銀ハ曾ニ貨幣トシテ用井  
ラル、ノミナラス或ハ製造ノタメ或ハ時計ヲ作ルカタメ或ハ  
飾器ノタメ用井ラル、ト殊ニ多ク就中ク東洋諸國ニ至テ最モ

其盛ニナルヲ見即チ印度ノ如キ婦人皆チ身體ヲ飾ルニ銀ヲ以  
テセリ如此クシテ使用サル、處ノ銀ハ時々ノ形勢及セ風俗  
由テ其量ヲ異ニスヘキ者ナルカ故ニ又自ラ該品ノ相場ヲ變更  
スルニ足ルヘキカアルト明カナリ然ラハ則チ今合衆國政府カ  
主張フル處ニ依レハ銀貨ニ附與スルニ自由鑄造ヲ以テスベキ  
カ故ニ之ガタメ賣買品タルノ銀ハ何時ナリトモ其形ヲ貨幣ニ  
變スルトテ得ヘク然リ而シテ以上賣買銀價ノ變動ヨリ又隨テ銀  
貨幣カ價ノ變更スルニ至ルヘキハ是レ自然ノ理ナリ之ニ依テ  
是ヲ觀レハ今金ニ對向シテ永久銀貨ノ價ヲ平定セント欲スル  
ハ到底行ハレ難キトナリ以テ之ヲ左右スルト能ハサル者ナリ  
況ンヤ國際盟約ノ如キニ於テヲヤ蓋シ恐クハ萬國政府悉ク其  
カヲ俟シ其意ヲ同シフシテ之ニ當ルモ決シテ時々ノ勢ト事物  
ノカトニ克ツト能ハサルヘシ



ホルトン氏之ヲ詰テ曰ク瑞士ノ博學ナル代議者ハ當會議ニ附  
セラレタル問題ニ答フルニ會ニ西三國ノ之ヲ拒ムヘキト必セ  
ルカ故ニ到底其行ハレ艱キヲ知ルニ足ルヘキ旨ヲ以テサレタ  
リ余決シテ之ノミヲ以テ敢テ同議案ヲ擯却スルニ足ルベキ者  
ニ非スト為セリ蓋シ目前當會議ニ於テ決定スヘキ一事ハ各國  
々際斯ル同盟ヲ興スハ各國ノタメニ利益アリトスルヤ否ニア  
ルカ故ニ今理論上ヨリ之ヲ推スハ會ニ西三國ノ之ヲ拒ムヘ  
キト必セリトノミヲ以テ足レリト為サス必ス又之ヲ拒ムノ所  
以テ説カサル可ラス即テ語ヲ換ヘテ之ヲ謂フキハ縱ヒ斯ル國  
際同盟ヲ興スモ毫モ得ル處ナカルヘキ理由ヲ解明セサル可ラ  
ス又瑞士代議者カ解述サレタル所謂經濟上ノ艱難ニ涉テハ  
同氏カ云ハル、程ノ如キニ非ルヘシト信セラル縱ヒ亞細亞東  
洋ノ人種ハ如何計ニ銀ヲ費用スルニモセヨ又其舊來ノ風習ハ

如何計固キニモセヨ又其時々ノ流行ハ如何計ノ變更ヲ起スニ  
モセヨ今文明諸國カ同心協力シテ以テ深ク其基ヲ條理上ニ建  
タル處ノ貨幣制度ヲ左右スルニ力足ルヘキ變動ヲ貨幣社間上  
ニ起スヘキ者ト認ムル能ハサルナリ試ニ見ヨ曾テ一千八百七  
十三年ノ頃マテハ縱ヒ時々銀ノ需用及ヒ支給上ニ變動ヲ生シ  
タルモ之カタメ銀ノ價ハ寧ロ久シク動搖サル、トナカリキ蓋  
シ如此ク銀價平定ヲ保存シ得タルハ全ク佛蘭西國兩立貨幣制  
度ノ宜シク兩貨幣ヲシテ其平衡ヲ得サシムルノ効力アリシニ  
由リテナリ然ラハ今斯ル制度ニ類スル者ヲ創メ一層其立ツ處  
ヲ巨大堅固ナラシメ即チ兩貨幣ニ許スニ制限ナキ鑄造自由ヲ  
以テシ萬國齊シク兩貨幣間一様ノ割合ヲ遵奉セシメハ必ス前  
ニ舉タル佛蘭西兩立貨幣制度ニ一層優ル處ノ平衡ヲ保スルヲ  
得ヘシ又今回會議中曾テワーン氏カ暗告サレタル難評モ其本



来ノ疑問ヲ解スルニ足ラサルヲ又曾テ昨回會議中那威ノ代議者カ陳述サレタル者ト一般ナリ要スルニ彼ワーン氏並ニゴロツチ氏カ解述サレタル如ク瑞典及ヒ那威兩國ニ於テ一時一貨ヲ用ヒ他時他貨ヲ用ヒタルヨリ出現シタル成績如何ハ實際ノ疑問即チ若シ其時ニ當テ阿蘭陀國及ヒ彼羅甸同盟諸邦カ其銀貨ニ代ニカタメ隣國ヨリ金ヲ取入ント欲スルノ舉アルカ若シハ彼兩國(那威及ヒ瑞典ヲ指スナリ)ノ事情ヨリシテ彼英吉利斯銀行ヨリ殊ニ割合高キ増割ヲ以テ其準備金ヲ出サハル可ラサルノ場合ニ立至リシテハ右兩國ノ景勢ハ果シテ如何ナル爰更ヲ描出シタルヘキヤヲ決スルヲ能ハサル者ナリ今余ハ余カ論局ヲ結フニ當リ尚ホ前回會議ノ際ミイス氏カ述ヘラレタルニケ條ニ付テ更ニ議負諸君カ注意サレントヲ望ム者アリ余ハ敢テ余カ其實際ニアルヘキ処ヲ切論シタル我合衆國ト餘他諸

國トノ間ニ行ハルノ貨幣上關係ノ真正ナル性質如何且ツ其貴重ナルヲ如何ニ就テハ彼阿蘭陀代議者(ミイス氏ヲ指スナリ)カ見ル処果シテ如何ナルヘキヤヲ知ラント欲ス固ヨリ今回我合衆國政府ヨリ他國ニ先ツテ當會議ヲ募集セントヲ發意シタルハ決シテ自國ノ私利ヲ營ンカタメ專マニ他國ノ協力ヲ借ラント欲スルニアラス偏ニ歐羅巴諸國政府ノ意ヲ人間公衆一大利益ノアル処ニ注カシメシカタメノ企ニテ之カタメ得失ノ有無多少ハ合衆國政府ト虽凡毫モ他國政府ニ異ナル處ナキナリ蓋シ既ニ合衆國ハ歐羅巴市場ヨリ多分ノ貴重鑛屬ヲ取込ミ今後尚ホ更ニ取込ント欲スルノ意アルト夙ニ世ニ知ラレタルヘシ然ラハ其取込ント欲スル処ノ鑛屬ハ果シテ金ナルヘキ乎將タ銀ナルヘキ乎惟フニ歐羅巴ニ取テハ其金ヲ取込ニヨリハ寧ロ其銀ヲ取込ハコソ今日彼洲内ニ於テ銀價ヲ張ラシメ竟ニ其今



日ニ失フ処ノ金銀相場間ノ權衡ヲ恢復スヘキヲ以テ其利必ス  
大ナル可シト虽氏今彼國際盟約ノ成ルニ遇ハサレハ今後尚ホ  
久シク兩貨幣間ノ不順ヲ醫スルヲ能ハサルヘシ(註ニ曰ク今日  
歐羅巴ノ人情ハ成丈ケ其銀ヲ他國ニ出サンヲ欲スルニアリ  
テ即チ銀價ノ騰貴スルニ從テ其利益ヲ増スヘキナリ之ニ及シ  
現ニ実況ノアル処益ス金ヲ失フニ從テ其利益ヲ失フナリ蓋シ  
兩立貨幣制度ヲ拒ムハ其実金銀貨幣間ノ不順ヲ培養スルニ當  
リテ必ス歐羅巴ノタメニ損アツテ益ナキナリ)  
ミイリス氏ハホルトン氏カ言ニ答ヘンカタメ更ニ明告スルニ同  
氏ハ曾テ其國政府ヨリ今回ノ議會ニ於テ之カ名ニ依テ事ヲ為  
スヘキノ權カヲ附與サレタルヲナキ旨ヲ以テシタリ又彼合衆  
國政府ヨリ企テラレタル議案ノ後來ニ至テ實地如何ナル成跡  
ヲ現出スヘキヤノ一事ニ付テハ同氏カ思想スル處ニ依レハ若

レ彼合衆國カ發意シタル萬國齊シク兩立貨幣制度ヲ遵奉スヘ  
レノ説ヲ容ルハ者世ニ出来リ漸々勢ヲ得テ竟ニ數千里ヲ踰ヘ  
テ印度マテニモ波及スルヲアラハ此時ニ至テ我阿蘭陀政府ハ  
其亞細亞諸殖民地地方ヲシテ同政度ニ從ハシムルノ途ニ於テ再  
ニ猶豫スルヲナキハ必定ナリ又同氏カ曾テ用ヒタル處ノ同意  
者ナル語字ニ涉テハ其実兩國自ラ同体ノ兩立貨幣制度ヲ併行  
スルノ舉アルヲ謂フ者ニシテ曾テ兩國互ニ盟約ヲ結テ之ニ  
及ヒタル者ヲ指スニ非サルナリト云ハレタリ

カウンント、ラスコニー氏ハ曾テ瑞士代議者(フエルヘルゾツク氏  
ヲ指スナリ)カ辨解サレタル論ノ理ニ於テ果シテ其當ヲ得タル  
ヤ否ヲ定メ難キ旨ヲ告ケ從テ同氏ニ於テハ寧ロ議論ヲ實地上  
ニ基カシメンヲ欲スルノ旨ヲ述テ曰ク曩キニフエルヘルゾ  
ツグ氏ハ彼ニ貨幣間ニ於テ到底割合相場ヲ立ルノ難キヲ陳



述サレタリ然ルニ余ハ敢テ同氏ニ質スルニ曾テ實際斯ル割合  
相場ノ成立シ来タルノ例ナキヤ否ノ疑問ヲ以テスヘシ蓋シ彼  
羅甸同盟ヲ結立スルノ諸國內及ヒ諸國カ際ニ於テ曾テ同盟約  
ノ効力ニ依テ斯ル割合相場ノ存立シタルヲ見サリシヤ固ヨリ  
余カ常ニ主張スル処ハ右割合相場ヲシテ弥ヨ其實効アラシメ  
シニハ必シモ天下普ク之ヲ遵奉セサル可ラスト云フニ非ス余  
ヲ以テ今日ノ形勢上斯ル要アルヲ知ラス又之ヲ為シテ果レテ  
便宜タルヘキヲ知ラサルナリ然レ余カ信スル處ニ依レハ現今  
幸ニ彼羅甸同盟諸國カ間ニ行ハルハ処ノ條理ヲ將テ廣ク之  
ヲ衆多國ノ間ニ及ホサハ右制度ノ基礎ハ益々堅クシテ其定  
ル處ノ割合相場ハ弥ヨ動カサルニ至ルヘシト信ス固ヨリ合衆  
國政府カ主張スル處ハ必シモ天下擧テ兩立貨幣制度ヲ遵奉ス  
ヘシト云フニ非サルヘシ而シテ余モ亦之ヲ主張セサルナリ惟

フニ彼政府カ欲スル處ハ天下一般ニ非ス或ル教箇國ノ間ニ盟  
約ヲ結ヒ以テ之ニ適シタル割合相場ヲ立ルノ方案ヲ得ルニ止  
マレリ是レ實ニ至当ナル思想ニシテ偏ニ憾ラクハ會議ノ面々  
多クハ或ハ他ノ方点ヨリ之ヲ判シ未タ其方策ヲ論究セサル前  
ニ強テ右議案ヲ排却セント欲スルノ色アリ察スルニ會議ノ歸  
着スル處ハ只今ノ分ニテハ彼ニ種鑛屬貨幣ヲ併行スルヲ可ト  
為スニアラン然レ今若シ右兩貨幣間ノ割合相場ヲ定立セサル  
片ハ斯ル決議ニ就テ毫シモ得ル處ナカル可シ其故ハ右兩貨幣  
ハ到底其間ニ定常ノ割合相場ナクシテ其併行ヲ保シ難キ者ナ  
レハナリ要スルニ今回ヲ議案ハ實ニ貴重ナル者ニシテ寧ろ條  
理ニ依テ之ヲ論究センヨリハ實地ニ就テ之ヲ研究セサル可ラ  
ス蓋シ該議案ノ係ル處ハ各國其為スルヲ異ニシ其利益ヲ同ノ  
セスレテ徒ラニ私利ヲ求メ相ヒ互ニ分離索居センカ將タ共ニ



齊シク名義正シキ盟約ヲ結ヒ同心協力シテ天下ノ公益ヲ計ル  
カ或ハ少クモ或ル數個ノ強大國相ヒ一致シテ敢テ天下ニ代テ  
人間公衆ノ便益ヲ計ル乎ニアルナリ固ヨリ曩キ一論者カ之  
ヲ唱ヘラレタル如ク當會議ニ其代議者ヲ派遣サレタル各國ノ  
中或ハ種々ノ原因ヨリシテ其會計上ニ重大ノ艱難ヲ負ヒ之カ  
タメ縦ヒ當會議ニ於テ同國ノ意見ヲ知ル如何ハ毫シモ實地上  
ニ關係ヲ有セサル者アルヘキハ勿論ナレモ今若シ其最モ強大  
ナル二三ヶ國譬ヘハ英吉利斯及ヒ佛蘭西ノ如キ者ヲシテ彼亞  
米利加合衆國政府カ提起シタル議案ヲ容レ以テ之ト盟約ヲ結  
ブトアラシメハ漸々全世界ヲ誘導シテ竟ニ悉ク其同盟中ニ入  
ラシムルニ至ルヘキハ亦言フ俟タサルヘシ如斯クスレハ必ス  
兩立貨幣制度ヲシテ能ク其兩立貨幣間ニ動カサル處ノ割合相  
場ヲ保存スルニ足ルヘキ充分廣大ナル基礎ヲ得サシメ隨テ貨

幣流通ノ路ヲ自由ナラシメ又之ガタタ方今紙幣ノ壓御ヲ受ル  
處ノ諸國ヲシテ宜シク其羈絆ヲ免レシメ以テ帝ニ其國ノミナ  
ラス廣ク萬國ノ幸福ヲ來タスニ至ラシムヘシ以上即チ余カ一  
伊太利人タルノ持論ニシテ深ク其採用サレントテ望ム者ナリ  
然レモ憾ラクハ余カ説終ニ銀貨廢止若クハ現今ノ如キ銀貨ノ  
價殆ント地ニ墮ントスルノ有様ニ依テ妨ケラレシカメ天下  
公衆ノ利益ヲ全フスルト能ハサルヲ見ルトアルモ計リ難シ而  
シテ之カタメニ出來スヘキ慘情ノ如キハ能ク余カ咄辨ノ之ヲ  
尽シ得ル處ニ非ルナリ

ゴスチン氏曰ク先刻フエルヘルゾツグ氏ハ曾テ羅匈貨幣同盟  
諸國ニ於テ銀貨鑄造ノ高ヲ制限シタルノ一事ヨリ此シモ銀貨  
ノ下落ヲ促シタルトナキ旨ヲ證定センカタメ教項ノ事實ヲ擧  
ラレタリ然レモ余ヲ以テ之ヲ見レハ右ノ如キ事實ハ必シモ之



ヲ證定スルニ足ルヘキ者ナラス尤モ同瑞西代議者カ云ハレタ  
ル如ク銀貨鑄造ノ自由ナルカ故ニ且ツ其價ノ平定相場ヲ踰ル  
カ故ニ必スシモ多量ノ銀貨ヲ鑄出スルニ決シタルトナシ然レ  
氏是レ其一ヲ謂フテ其二ヲ謂ハサル者ナリ如何トナレハ元來  
鑄造制限ノ事タル其効永久銀カ享有シ來タル處ノ自由鑄造ノ  
徳ヲ剝奪スル者ナルカ故以後何時タリトモ以前ノ如ク其欲ス  
ル處ニ任セ其形ヲ貨幣ニ變スルノ術ヲ失ヒ隨テ自ラ幾分カ其  
價ヲ減殺スルニ至ラサルヲ得サルノ理ナリ譬ヘハ人アリ若干  
ノ地銀ヲ櫃内ニ藏メ何時タリ氏之ヲ貨幣ニ鑄造シ得ルトヲ知  
リ且ツ如斯クシテ直チニ之ヲ使用シ得ルトヲ知ルキハ則チ右  
地銀ノ價ハ之ヲ種々思慮ヲ廻ラシ久レク製造ニ時間ヲ費ヤシ  
タル上尚ホ好買手ノ出テ來ルヲ待メサレハ其用ヲ為シ難キヲ  
知ルノ時ニ比スレハ固ヨリ同等ノ位置ニ居ラサルヘキト必セ

リ蓋シ貨幣トナルノ効カラ具ヘタル鑛屬ハ自ラ運融ノ力交易  
ノ便及ヒ利子ヲ產出スルノ徳ヲ有セリ之ニ及シ貨幣タルトヲ  
得サルノ鑛屬ハ既ニ以上ノ如キ便利ナキカ故ニ自ラ其價ノ低  
カラサルヲ得サルノ理ナリ之ニ依テ是ヲ觀レハ到底彼羅甸貨  
幣同盟諸國ニ於テ銀貨鑄造上ニ制限ヲ置キタルノ一事ハ既ニ  
他ノ一層嚴烈直接ナル原因ヨリ醸シ來タル銀價ノ下落ヲハ幾  
分カ促シタル處アルヤ知ルヘシ又彼兩貨幣ノ相場間ニ國際  
上ノ一定割合ヲ立ルトノ難易ニ涉テハ余ニ於テ若シ曾テホル  
トシ氏カ云ハレタル處ヲ誤解スルトナシトセハ即チ同氏カ云  
ハル、處ハ却テ條理ニ基テ之ヲ論究セントヲ欲スル者ニシテ  
曾テ實地上ノ難易如何ヲ顧ミサル者ノ如シ蓋シホルトシ氏カ  
當會議ニ就テ切望サル、處ハ方今斯ル割合相場ヲ立ルトノ到  
底行ハルヘキヤ否ヲ問ハス妾リニ之ヲ設テ必ス利益ノ大ナラ



シテヲ認容サレタキ旨ノミナルカ如シ如斯ク同氏ハ其論ヲレ  
テ理論上ノ想像ニ基カシムルカ故ニ余ニ於テ敢テ精細確密ナ  
ル議論ヲ擧テ之ヲ迎フルノ要ナカルヘシ然リ而シテ今若シ同  
氏ニ於テ更ニ其論体ヲ改メ帝ニ空理ノミナラス尚ホ實地上ノ  
難易如何ニ論究スルコトアラハ余モ亦余カ答辨ノ体裁ヲ改メ全  
クフエルヘルゾツグ氏カ云ハルハ如ク断然今日ノ分ニテハ斯  
ル割合相場ノ立テ難キコトヲ言ハント欲ス而シテ余ヲシテ斯ル  
決議ニ到着セシムル者ハ果シテ經濟上及ヒ勢力上ノ通義ノ然  
ラシムルアリト虽今一々茲ニ之ヲ論述スルノ要ナカルヘシト  
信ス

議長セイ氏曰ク前數回會議ヨリ已ニ今回會議ニ至リ議論モ大  
抵目下ノ点マテニ達シタルハ綴ヒ全ク之ヲ決定スルコトナキモ  
或ハ畢竟當會議ノ決着スル処ハ何レニアルヘキヲ豫言スルハ

七九

大ニ至當ニシテ且ツ便宜ナリト信ス現ニ議員ノ諸氏モ残ラス  
臨席サレ各其云ハント欲スル処ヲ云フノ機會ヲ得ラレタル上  
議案ノ大畧ハ先ツ之ヲ論シ尽シタルカ如シ其上數多ノ議員ハ  
何レノ日其自國ニ帰向スルヲ得ルカヲ知ラント欲スルノ切情  
アルヲ見ルカ故ニ豫テ今後尚ホ兩三會ヲ開カント欲シタル者  
ヲ將テ悉ク之ヲ今回ニ論シ尽スノ難易ヲ即座ニ決定シテ可ナ  
ラン

ホルトン氏曰ク余輩合衆國政府ノ諸代議者ハ決シテ豫メ會議  
ノ畢ルヘキ制限ヲ定ム可ラサルコトヲ主張スルノ権カアル者ト  
信セリ蓋シ余輩合衆國代議者ハ帝ニ其自國政府ヨリ提起シタ  
ル議案ノミナラス併セテ偶マ會議ノ際ニ動議サレタル者ヲモ  
併セテ悉ク當會議ニ於テ論究スルハ歐羅巴諸國ノタメ且ツ我  
合衆國ノタメ甚々有益ナルコトト信スルナリ既ニ一立金貨制度



ニ固着シテ曾テ動カスト為セル那威國代議者ブロッツナ氏カ必  
ス以上述ルル処ノ枝統議案ヲモ残ラス之ヲ論シ尽シタキ旨ヲ告  
ラレタルヲアリ余モ亦深ク之ヲ欲スルナリ焉ソ餘他諸國ノ代  
議者カ余輩ト其欲スル処ヲ異ニスル者アラシヤゴスチン氏曰  
ク若シ當會議ヲ延期シテ苟モ實地ニ利益スル処アルノ望アラ  
ハ或ハ稍々之カタメニ光陰ヲ費ヤスモ可ナランカ然レモ現ニ  
斯ル望ナキヲ知ラレタル上ハ何カタメニ無用ノ疑問ニ執念  
シ無益ノ論辨ヲ費ヤシ以テ貴重ナル時間ヲ消滅センカ若シ果  
シテ偶マ會議中ニ起ルル疑ノ疑問凡テ貨幣ノ事ニ関係アル者ヲ  
取テ悉ク之ヲ論究セント欲セハ當會議ハ今後數週間ヲ經數月  
間ヲ閱スルモ決シテ果ルヲナク隨分高尚ニシテ続マレタル演  
說モ聞クヲ得ヘシト虽モ元來余輩カ此處ニ來テ會議ヲ閱ク  
ノ主意ニ違フヘシ即チ現ニ合衆國政府ハ兩貨幣間ノ關係ト及

ト自由鑄造ノ一ニ涉レル特別ナル議案ヲ提起シテ本會議ヲ促  
カシタル者ニ非スヤ若シ既ニ各國代議者ノ多數ハ其自國政府  
ヨリ約束ヲ受テ現ニ右議案ヲ容ル、一能ハサルノ一事明瞭ナ  
ル上ハ縱ニ會議ヲ延期スルヲアルモ畢竟實地ニ得ヘキ者ナキ  
ハ亦明瞭ナリ固ヨリ徒ラニ空理ニ就テ論究セント欲セハ尚ホ  
論スヘキ者多シト虽モ是レ空シク光陰ヲ費ヤスニ過キサルヘ  
レ  
當下議長セイ氏言ヲ改テ曰ク既ニ各國ノ代議者各當會議案ノ  
根本ニ付テ其意見ヲ言ヒ了リ概テ子議論ヲ尽シタルカ如クナル  
ニ由リ今各其意見ノ綱領ヲ採萃シ其國政府ノ何レノ制度ニ固  
着スルヤヲ問ハス其自家ノ倚ル處ヲ明白ニセハ之ヲ纂聚シテ  
或ハ能ク合衆國政府ノ意ニ應セサルモ計リ難シト虽モ又能ク  
衆員ノ談議案ヲ見ル、一如何シノ公意ヲ示スニ足ルヘシ故ニ余



ハ今ヨリ更ニ此事ニ着手シテ可ナラント信ス是レ偏ニ當會議  
唯一ノ結果ニシテ余ヲ以テ之ヲ見レハ之ヲ捨テ決シテ他ニ取  
ルヘキ者ナシト思ハル故ニ又當會議ヲ延期スルニ足ルヘキ理  
由ナキヲ知ルニ足ラン

フエントン氏曰ク願クハ諸君ノ仁恕ヲ得テ余敢テ本會延期ノ  
一議ニ付テ自由ニ發言センコトヲ請フ所以ノ者ハ他ナシ即テ今  
回合衆國政府ヨリ以テ當會議ノ評議ニ附シタル議案ノ緊要貴  
重ナルコトハ到底如何計リノ議論ヲ之カタメニ費ヤストモ決シ  
テ惜ム可ラスト云テ可ナラン惟フニ古今遙カニ之ニ劣タル議  
案ヲ討論センカタメ一團々議會上下議院若クハ國際議會ノ許  
スニ數ヶ月ノ多キヲ以テシタルノ例アリ然ルニ當議案ノ如キ  
ハ不幸ニシテ充公其價ニ報ユル丈ケノ評議ヲ得ルニ至ルマテ  
ハ尚ホ遠シト云テ可ナリ余輩合衆國代議者ハ遠ク波濤ヲ冒カ

シテ此處ニ來リ敢テ談議案ニ付テ歐羅巴各國代議者カ意見ヲ  
知ラント欲スルノ際漸ク初テ其論端ヲ関カント欲スルノ頃計  
ラスモ會議ノ停止サレントスルヲ見ルニ忍ビス強ヒテ其一旦  
着手シタル議論ヲ其結局ニ至ラシメントコトヲ望メリ若シ又合衆  
國政府ヨリ提起シタル議案ノ到底當會議ノタメニ容ラレサル  
ノ憂アルニ於テハ余ハ敢テ別ニ委員ヲ択ヒ其容ラレ易キ様ニ  
之ヲ改正サレントコトヲ欲ス又談議案ノ外ニ曾テ歐羅巴各國代議  
者カ高尚ナル議論ヲ學ンコトヲ豫望シタル者ナキニ非ス此等ニ  
至テモ若シ幸ニ之ヲ許サルコトアラハ余輩喜テ之ヲ告示スヘ  
シ事情實ニ如斯ナルヲ以テ縱ヒ本來ノ議案ハ次キノ一會ニ於  
テ落着スルニモセヨ尚ホ其後兩三會ノ開設アラントコト切望ス  
議長セイ氏之ニ答ヘテ曰ク凡ソ何レノ會議ニモセヨ各其手順  
ヲ定ムルノ權アルカ故ニ今此理ニ依レハ今當會議ニ於テ強ク



唯今合衆國ノ代議者フエントン氏カ偏ニ望マレタル旨ヲ拒ム  
ノ理由ナカルヘシ故ニ議眞諸君ニ於テ各其便宜ニ從テ次回會  
議ノ期日ヲ豫定サレテ可ナラン

此ニ於テ會議ノ面々相ヒ高議ヲ遂テ就中クグロースベツク氏  
トバテリス氏トノ間ニ頻ニ接論アリタル后弥ヨ当月二十六日  
月曜日ヲ以テ次回會日ト為シテ決シタリ

此日午後第五時三十分ヲ以テ散會セリ

第四回會議憑書類

第一號

奧斯太洪葛利貨幣制度記

一 奧斯太洪葛利ノ貨幣制度ハ一立銀貨ニシテ貨幣ノ起票ハ「フ  
ロリン」ナリ而シテ純銀一磅(五百グラム)ヨリ「フロリン」貨四十  
五個ヲ鑄出スルノ例ナリ

一 「フロリン」ヲ分テ一百「クルウザルトナス」即ケ語ヲ換テ之ヲ謂  
フ「クハ」一百「クルウザルトナス」以テ一「フロリン」トナスナリ

通用貨幣一覽(銀貨)

貨幣稱号	本位量目	銀位	量目公差	金位公差
二「フロリン」	二十四、六九一	零、九〇〇	零、〇〇三	零、〇〇三
一「フロリン」	十二、三四五	零、九〇〇	零、〇〇四	零、〇〇三
四分「フロリン」	五、三四三	零、五二〇	零、〇一〇	零、〇〇五



一 一千八百六十八年以前ニハ三「フロリン」貨及ヒ一ト半「フロリン」貨ヲ鑄造シタリト雖、以後全ク之ヲ罷メタリ

一 以上通貨幣ノ外ニ拾「フロリン」百「フロリン」及ヒ千「フロリン」ノ国立銀行手形アリ又「スタツツ」ノウテント称シテ売「フロリン」五「フロリン」及ヒ五拾「フロリン」ノ大藏省銀券アリテ共ニ内國中舉テ法律上ノ通貨トシテ使用サル

分数小貨幣ノ事

一 銀小貨 銀小貨ニハ二拾「クリウザル」貨及ヒ拾「クリウザル」貨アリテ各純銀一「キログラム」ヨリ七百五拾個及ヒ千五百個ヲ鑄出スルノ割合ナリ而シテ其本位ハ各五百位及ヒ四百位ニシテ共ニ私民間ニ在テハ二「フロリン」以下ノ負債ヲ拂フベキ法律上ノ効力ヲ有セリ

一 銅小貨 銅小貨ニハ四「クリウザル」一「クリウザル」及ヒ半「クリウザル」

ウザル「貨」ノ三種アリテ私民間ノ取引ニハ共ニ五拾「クリウザル」ヲ限リ通貨「ル」ノ効力ヲ有セリ

貿易貨幣ノ事

第一 銀貨

一 貿易銀貨ニハ「レヴァンチント」称シテマリヤ、セラサ女帝ノ肖像ヲ鑄刻シタル弗貨アリテ本位零、八百三十三ト三分一定量二十四、〇六四「グラム」ナリ又其表面ニ一千八百七十年ノ年号アリ

第二 金貨

一 貿易金貨ニハ其量目三、四九〇四「グラム」其金位九百八十六ト九分一其重量公差零、〇〇一二五及ヒ其金位公差零、〇〇一七五ノ「ヂウカツト」貨アリ  
又ハ「フロリン」金貨及ヒ四「フロリン」金貨アリテ其量目金位及



其公差ニ至テハ各佛蘭西ノ二拾フランク及ヒ拾フランク  
貨ニ擬エリ又一千八百七十年以後鑄造サレタル金貨ハ諸官  
省ニ於テ各銀ニテ拾ハフロリンシ拾グリウザル及ヒ四フロリ  
ン五グリウザルニ等シキ價ニテ之ヲ收納スルノ法ナリ而シ  
テ右相場割合ハ即チ一ト拾五半ニ當レリ

一千八百六十五年以前ニハ純金一封度ヨリ各五十個及ヒ百  
個ヲ出スル一クラウン金貨及ヒ半クラウン金貨ヲ鑄造シ  
タリト虫氏以後全ク之ヲ罷メタリ

一ヴヰヤナ及ヒキム子ツ在ノ塊斯太洪葛利造幣局ニ於テ金銀  
貨幣鑄造ノタメ課スル処ノ手数料割合ハ左ノ如シ

- 一「チウカット」債及ヒ「ハフロリン」債ニハ其百分ノ一ヲ課ス
- 一「フロリン」債及ヒ「ニフロリン」債ニハ其百分ノ一ヲ課ス
- 一「四分一フロリン」債ニハ其百分ノ二ト半ヲ課ス

マリヤセラサ弗債ニハ其百分ノ一ト半ヲ課ス



第二号

魯細亞貨幣制度畧記

一貨幣鑄造ノ起票ハ銀貨ル<sub>1</sub>ブルナリ

一ルウアル貨幣ノ量目ハ四<sub>1</sub>ゾロトニツク<sub>1</sub>八十二ト十二分ノ七

ドオリスニシテ其内四<sub>1</sub>ゾロトニツク<sub>1</sub>二十一<sub>1</sub>ドオリスハ純銀

ナリ

一銀目形<sup>形</sup>一封度ハ二十二<sub>1</sub>ルウアル七十五ト九分五<sub>1</sub>ゴベツクニ

当ル割合ナリ

一其銀位ハ八百六十八ト定ム

一其公差ハ三<sub>1</sub>ドオリスナリ

註ニ曰ク一<sub>1</sub>ゾロトニツク<sub>1</sub>ハ九十六<sub>1</sub>ドオリスニ等シク又四、

二六六<sub>1</sub>グラムニ同シ

分数小貨幣ノ事

八九



第一五十五「コベック」貨幣アリテ其公差ハ二ト半「ドオリス」ナリ

第二二十五「コベック」貨幣アリテ其公差ハ二「ドオリス」ナリ

魯細亞鑄造金貨幣

第一 半「イムペリヤル」貨

一價五「ルウブル」十五「コベック」ト定ム

一目方一「ゾロトニツク」五十一ト二百七十五分ノ七十五「ドオリス」ニシテ其内一「ゾロトニツク」三十九「ドオリス」ハ純金ナリ

一金位ハ八十八「ゾロトニツク」純金ヲ以テ雜ヤ物シタル金九十

六「ゾロトニツク」ニ比スルノ割合ナルカ故ニ其實九百十六、六

位ニ当レリ

一其公差ハ同金貨千個ニ付キ一「ゾロトニツク」ノ割合ニシテ即

チ一個ニ付キ四分ノ三「ドオリス」ニ当レリ

一雜ヤ物シタル金目方一封度ハ六十二個ト四十五分ノ二十六

半「イムペリヤル」貨ヲ鑄出スルノ割合ナリ

第二 魯細亞「ヂウカツト」貨

一價三「ルウブル」九「コベック」ト定ム

一金位八十八「ゾロトニツク」

一目方八十八ト一分ノ四「ドオリス」ニシテ其内八「ドオリス」ハ

純金ナリ

第三 阿蘭陀「ヂウカツト」

一價二「ルウブル」九十三ト三分ノ一「コベック」ナリ

一目方七十八、五二八「ドオリス」ニシテ其内七十六、八九二ハ純金

ナリ

一金位ハ純金九十四「ゾロトニツク」ヲ以テ雜ヤ物シタル金九十

六「ゾロトニツク」ニ對スルノ割合ナルカ故ニ其實九百七十九

一位ニ当レリ



一其公差ハ同金貨一個毎ニ四分ノ三「ド」ナリスノ割合ナリ  
註ニ曰ク一千八百六十九年以降ハ右ニ迷ル處ノ阿蘭陀「チ  
ウカット」貨幣ノ鑄造ヲ罷メタリ

銀小貨幣

一銀小貨幣ニハ各二十「ゴ」ベツク十五「ゴ」ベツク十「ゴ」マツク及ヒ  
五「ゴ」ベツクノ四種アリ  
一其銀位ハ其價ノ九十六分ノ四十八即チ正半ナリ  
一右貨幣ハ凡テ私民間ニ於ケル三「ル」ウブルヲ限り之ヲ通貨ト  
為ス 雖モ諸官省ニ於テハ其量額ヲ限ラス悉ク之ヲ受納ス  
ル者トス

銅小貨幣

一五「ゴ」ベツク貨アリテ其目方三「ゾ」ロトニツク八十、六四「ド」オリ  
スナリ

一三「ゴ」ベツク貨アリテ其目方二「ゾ」ロトニツク二十九、一八四「ド」  
オリスナリ

一ニ「ゴ」ベツク貨アリテ其目方一「ゾ」ロトニツク五十一、四五六「ド」  
オリスナリ

一一「ゴ」ベツク貨アリテ其目方七十三、七二八「ド」オリスナリ  
一半「ゴ」ベツク貨アリテ其目方三十六、八六四「ド」オリスナリ

一四分一「ゴ」ベツク貨アリテ其目方十八、四三二「ド」オリスナリ  
一以上數小貨幣ハ私民間ニ於ケル三「ル」ウブルヲ限り之ヲ通貨

ト為スト 且モ諸官省ニ於テハ曾テ制限ナク如何程ナリモ之  
ヲ受納スル者トス

一貨幣鑄造ノ權ハ政府獨リ之ヲ有セリ然レモ誰人ナリモ地金  
ヲ其造幣司ニ携エ之ヲ以テ貨幣ヲ鑄造シ貫フヲ得バシ

註ニ曰ク曾テ一千八百七十六年九月九日癸亥ノ法例ニ依



リ允テ支那通商ノ為メ入用ナル分ヲ除クノ外私民ノ需  
ニ應シ為メニ貨幣ヲ鑄造シ與フルコトヲ得ザルコトナリ  
一貨幣鑄造ノタメニハ別段鑄造料ヲ課スルコトナシ  
一若シ私民ヨリ造幣司エ持參セル金ノ其本位ニ達セザル者ア  
ラハ乃チ純金ヲ以テ之ニ補増スルカ故ニ其補增高ニ準シテ  
之カ價ヲ償ハシム

一アルタイ鑛山ヨリ産出セル砂銀ヲ精製スルニハ雜セ物シタ  
ル銀七封度ニ付十ト七分ノ二「ゴペツク」ヲ課シ子ルケニスク  
鑛山ヨリ出ル者ニハ十一ト十四分ノ五「ゴペツク」及ヒ餘他諸  
銀山ヨリ出ル者ニハ二十二ト七分ノ六「ゴペツク」ヲ課ス

第三号

ドクトル、オ、ゼエ、ブロツチ氏ヨリ指出シタル那威及ヒ瑞典  
國貨幣鑄造制規

一那威瑞典及ヒ丁抹克ノ三ヶ國ハ共ニ盟約ヲ結テ齊シク一立  
金貨ノ制度ヲ遵奉センコトヲ約シ且ツ相ヒ一樣ナル貨幣勘定  
即チ通用金貨ヲ主立シ之ヲ輔ルノ銀銅補助分數小貨幣ヲ以  
テスベキコトヲ定タリ  
一「クラウン」ヲ以テ貨幣ノ起票トナシ分テ一百「オールトナス」  
一金貨ノ本位ハ十分ノ九ト定ム之ヲ譯言スレバ金九分銅一分  
ノ割合ナリ  
一金貨ニ二種アリ一ニ曰ク二拾「クラウン」貨ニ曰ク拾「クラウ  
ン」貨而シテ純金目方一「キログラム」ヨリ二拾「クラウン」貨百ニ  
拾四個若クハ拾「クラウン」貨二百四十八個ヲ鑄出スルノ定則



ナリ

一右ノ如キカ故ニ以上ニ貨幣ノ量目ハ各八、九六〇、五七及ヒ四、  
四八〇、二九「グラムナルベシ即チ

$\frac{1000 \times 10}{124} = 8.96057 \text{ gramme}$       $\frac{1000 \times 10}{248} = 4.48029 \text{ gramme}$

一分數小貨幣ハニ「グラム」一「グラム」五拾、四拾、二拾五若クハ  
拾「オール」小貨ヲ鑄造シテ可ナリ

一左ノ表面ニ出スルハ各屬貨幣ノ總量目、價、本位、純金若クハ純  
銀ノ實量及ヒ其直徑ナリ

鑛屬		貨價	本位	總量目	純金銀高	直徑
金	ニ「グラム」	一〇「グラム」	〇、九	八、九六〇、六	八、〇六四、五二	二、三
	一〇「グラム」	一〇「グラム」	〇、九	四、四八〇、三	四、〇三二、二六	一、八
	ニ「グラム」	ニ「グラム」	〇、八	一五、〇〇〇、〇	一、二〇〇、〇〇〇	三、一
	一「グラム」	一「グラム」	〇、八	七、五〇〇、〇	六、〇〇〇、〇〇〇	二、五

銀		銅	
五〇「オール」	四〇「オール」	五「オール」	二「オール」
二五「オール」	一〇「オール」	二「オール」	一「オール」
炭 一分	錫 四分	銅 九五分	炭 一分
五、〇〇〇、〇	四、〇〇〇、〇	八、〇〇〇、〇	二、〇〇〇、〇
三、〇〇〇、〇	二、四〇〇、〇	〇、五八〇、〇	一、四五〇、〇
二、二	一、七	一、五	二、七

一金貨鑄造ニ於テ其金位公差ハ零、〇、一五ナリ又其量目公  
差ハ二拾「グラム」貨一個ニ付零、〇、一五及ヒ拾「グラム」貨  
一個ニ付零、〇、〇ニノ割合ナリ加フルニ金貨ヲ合セテ其總量  
目拾「キログラム」即チ二拾「グラム」貨千百十六個若クハ拾「ク  
ラウン」貨二千二百三十二個ヲ合スルノ定量ナリ其定量ニ違  
フ「五」グラム以上ナルヲ得ス故ニ別ニ平均公差零、〇、〇五



ニ過ルヲ能ハザルノ制限アルニ同シ  
一凡ソ金貨耗磨シテ其定量二百分ノ一以上ヲ減殺スルハ則チ私民間通用ノ効力ヲ失フ者ナリ然レモ尚ホ其定量百分ノ二ヲ耗減セザル上ハ諸官省ニ於テ之ヲ通用貨視スルノ義務アルノミナラス右合衆各國ノ其契約ヲ有ツ者ハ凡テ既ニ其二百ノ一以上ヲ減量シタル者ト雖モ之ヲ私民間ニ通用シ得ベキ者ト交換スルノ義務アリトモ抑モ那威及ヒ丁抹克國ノ法律ハ特ニ其政府ニ課スルニ凡テ自ラ鑄造シタル金貨幣ハ縱ニ其定量二百分ノ一以上ヲ耗減スルモ之ヲ受給スルノ義務ヲ以テシ又那威國ノ法律ハ其國立銀行ニ課スルニ常ニ其掌裏ニ來ルル處ノ貨幣ヲ衡量シ其定量二百分ノ一ヲ耗減スルモノアルヲ見ルハ則チ之ヲ政府ニ致送スベキノ義務ヲ以テセリ

一凡テ故意ヲ以テ其量目ヲ鑄耗シタル貨幣ハ悉ク通用貨幣タルノ効力ヲ失フ者トス  
一貨幣鑄造ノ本座ハ瑞典ニ在テハ一ニストックホルム那威ニ在テハコグスボルグ及ヒ丁抹克ニ在テハコーペンヘエゲント定テ而シテ貨幣鑄造ノ事ハ凡テ政府之ヲ司リ合衆國際貨幣盟約上其リニ契約ニ依テ此權ヲ左右スルヲ能ハザルヲ示セリ  
一凡テ誰人ニ限ラス其金位性質及ヒ餘他ノ條々能ク制規ニ適フタル金ヲ造幣司ニ携エルハ則チ之ヲ以テ貨幣ヲ鑄造シ貫ヒ受ルヲ得ベシ而シテ鑄造料ハ二拾クラウン貨ニ付其四百分ノ一及ヒ拾クラウン貨ニ付其三百分ノ一ヲ拂フノ外更ニ餘分ヲ拂フヲ要セズ  
一那威國ニ於テハ其固有ノ法律ニ由リ其國立銀行ニ課スルニ



充分其金位ヲ試驗シタル上純金一キログラム毎ニ二千四百  
七拾三グラウンノ割合ニテ其内鑄造トシテ其四百分の一ヲ  
引去リ差引キ純金一キログラムニ付二千四百七拾三グラウ  
ンハ拾オールノ價ニテ何時タリモ此ニ持參スル條金ヲ引取  
ルベキノ義務ヲ以テセリ故ニ實際金貨ヲ鑄造シ貫ヒ受ル者  
ハ獨リ銀行アルノミナリ

一銀若クハ銅ノ分数小貨幣ハ二グラウン及ヒ一グラウン銀貨  
ニ於ケル其高二十グラウンヲ限り以下ノ銀小貨ニ於ケル其  
高五グラウンヲ限り及ヒ凡テ銅貨ハ其高一グラウンヲ限り  
之ヲ通用貨ト見做セリ然モ那威瑞典及ヒ丁抹克三ヶ國トモ  
於其大藏省ヲ有シ此處ニ到レバ縱モ如何計リナリモ小貨幣  
ノ額數正ニ拾グラウンヲ以テ之ヲ分リ得テ餘分ナキ高ハ之  
ヲ金貨ニ引換エルベシ

一銀銅小貨幣ハ唯政府ノタメノミニ之ヲ鑄造スル者ニシテ右  
鑄造額上曾テ制限スル處ナシ縱モ私民ヨリ就テ之ヲ求ムル  
所為メニ之ヲ鑄造スルコトナシ

一其金銀銅ヲ問ハス合衆國貨幣盟約ニ從テ鑄造サル貨幣ハ以  
上掲レタル條々ニ依リ合衆國內ノ通貨タリ



第四號

亞米利加合衆國當今紙幣通行ノ景況附一千七百九十二年ヨリ一千八百七十七年ニ至ル貨幣景況畧記

- 一 曩キニ一千七百八十六年ヲ以テ〔彼一千七百八十九年立憲前合衆國議院ハ一ト十五、二五ノ割合ニテ兩立貨幣ヲ用テ〕設ケリ而シテ其量目三百七十五、六四「ゲレン」ノ純銀貨ヲ以テ價入起票ト定タリ然レモ當時尚ホ造幣司ヲ倉「エ」ナガリキ
- 一 彼立憲ノ擧アルニ於テ再ヒ此制ヲ復行シタリ
- 一 一千七百九十二年四月二日ノ法律ヲ以テ造幣司ヲ設立シ同シク左ノ數條ヲ定タリ
- 一 凡ソ完全ナル定量ヲ具備セル金銀貨幣ハ何處マデモ通貨幣タルノ効力ヲ有スベシ然レモ其量目ニ充タズル者ハ其實量ニ準シタル價ヲ以テ之ヲ通用スベキ



一 百般取引ノ際法律工金一封度ノ價ハ銀十五貫度ニ均シキ

一 誰人タリモ金銀地金ヲ造幣司ニ携工鑄造料等ヲ拂フノ要  
ナクシテ之ヲ貨幣ニ鑄造シ貫ヒ受ルノ權アルベシ

一 貨幣諸勘定ハ弗「ダイム」「セント」及ヒ「ミイル」ノ称号ヲ用ユベ  
キ

一 金位ハ十二分ノ十一ニシテ餘ノ雜セ物、銀位ニ半バズベ  
ク銀位ハ千六百六十四分ノ千四百八十五ニシテ餘分ハ銅  
ヲ以テ之ニ混スベキ

一 純金目方二百七十七「ゲレン」半其價拾弗ノ「イ、グル」貨及ヒ  
之ニ準シタル半「イ、グル」貨及ヒ四分一「イ、グル」貨ヲ鑄造  
スベキ又其價当令通用ノ西班牙ニ均シク其目方純銀三  
百七十一ト四分一「ゲレン」ノ貨及ヒ之ニ準シタル半弗貨

四分一弗貨「ダイム」貨及ヒ半「ダイム」貨ヲ鑄造スベキ

一 同シク「セント」及ヒ半「セント」銅貨ヲ鑄造スベシト虽モ右小

銅貨ハ法律上原債ヲ拂フニ足ルベキ効力ナキ

一 如斯ク價ノ起標ヲ定タルハ當時貨幣流通社會ニ首地ヲ占メ

ル西班牙ノ實量ニ倣フノ意ニ出タル者ナリ

一 如斯キカ故ニ若シ特別ノ法律ナカリセバ彼西班牙ハ恐

弗ノ稱号ヲ以テ永久法律上ノ通貨タリシナ

一 一千七百九十三年二月九日發兌ノ法律ハ大英國佛蘭西及ヒ

西班牙ノ金貨及ヒ西班牙佛蘭西「クラウン」貨及ヒ其小分數貨

幣ニ至當ノ割合相場ヲ定メ悉ク之ヲ許スニ法律上通貨タル

ノ効力ヲ以テシタリ

一 十七「ヤン」ニ「ギ」ト七「ゲレン」ノ量ヲ備エタル西班牙貨

其價百「セント」ト定メ



一 以後尚ホ種々の法令ヲ發シ至當ノ割合相場ヲ立テ齊シク大  
英國佛蘭西葡萄牙西班牙等ノ金貨ニハ元分ノ法律上併  
幣タルノ効力ヲ以テシタリ

一 一千八百二十七年ニ至ルマデ佛蘭西クラウン貨ハ法律上ノ  
通貨ニテ同國五フランク貨ハ一千八百十六年ヨリ一千八百  
二十七年マデノ間日方一オンスニ付百十六セント即チ同貨  
一個十六ペニウ井トニゲレンニ付零シトノ價  
通貨ト定メラレタリ

一 一千八百三十四年六月二十五日發兌ノ法律ハメキシコバル  
ウネリイ中央亜米利加及マブラジルノ弗貨ニ附スルニ法律  
上負債ヲ拂フノ効力ヲ以テシ佛蘭西五フランク貨ニモ同シ  
ク右効力ヲ許シタレド其量目金位ニ付稍々制限ヲ置ク処ア  
キ

九四

一 千八百五十七年二月二十一日發兌ノ法律ニ依リ凡テ従前  
外國金銀貨幣ニ通貨タルノ効力ヲ附与セシ処ノ諸法律ヲ廢  
止更ニ西班牙小分弗貨ハ原價ヨリ低キ相場ニテ之ヲ諸官省ニ  
テ受取リ悉ク造幣司ニ於テ之ヲ鑄解スベキヲ令シタリ

一 一千八百三十四年六月二十八日發兌ノ法律ハ八百九十九二  
二五位目方二百五十八ゲレンノイ、ゲル貨及ヒ其目方之ニ  
準シタル半イ、ゲル及ヒ四分一イ、ゲル貨等ノ事ヲ令シ  
タリ此ニ於テ金銀ノ割合ハ一ト十六〇〇ニト定タリ

一 一千八百三十七年一月十八日發兌ノ法律ヲ以テ金銀貨幣ノ  
金位ヲ上ゲテ九百ト定メタリ而シテ右金位ニテ弗銀貨ハ目  
方四百十二ト半ゲレン及ヒイ、ゲル金貨ハ二百五十八ゲレ  
ンタルベキヲ令セリ此ニ於テ金銀ノ割合ハ一ト五十九ハ  
ト為レリ



一 一千八百五十三年二月二十一日發兌ノ法律ハ凡テ私民ニ於  
 テ其債一弗以下ノ銀貨ヲハ造幣局ニ鑄造シ貫受シテ  
 ヲ剥キ且ツ右小分銀貨ノ目方ハ従前ニ比シテ其百分ノハト  
 半ヲ減少シ又其高五弗以下ニ非レハ以テ法律上負債ヲ拂フ  
 ノ効力ナキコトヲ定メタリ  
 一 然ルニ同時尚ホ銀弗貨ニ許スニ自由鑄造ヲ以テシ且ツ舊例  
 ノ銀位ヲ具タル者ハ充分ノ通貨タル効力ヲ保シメタリ  
 一 且ツ同法律ニ依テ凡テ私民ノ貨幣鑄造ヲ望ム者ハ金銀共ニ  
 二百分一ノ鑄造料ヲ拂フベキヲ令セリ  
 一 一千八百七十三年四月一日ノ法令ニ(一千八百七十三年ヨリ  
 一千八百七十五年マデノ改正例典ニ挿入ス)ヨリ左ノ數項ヲ  
 處分シタリ  
 一 造幣司ノ事務章程ヲ法認シタルコト

九七

一 金銀度量 一ペンスハ九百位二十五グラムノ制ノ權衡ヲ脩  
 メンカクメ小分銀貨ニ混入スベキ純銀ノ割合ヲ増加シタ  
 ルコト但シ九百位四百二十「グレ」ノ貿易銀貨ヲ除クノ外此  
 事凡テ弗銀ニ及ブ處ナカリキ  
 一 私民ニ望ニ應スルノ貨幣鑄造料ヲ減少シテ五分ノ一ト  
 為シタルコト  
 一 金弗貨ヲ以テ價ノ起票トナシ獨リ金貨ニ付スルニ制限ナ  
 キ通貨効力ヲ以テシ凡テ銀貨ハ法律上五弗以上ノ負債ヲ  
 消済スルノ權力ナキ者ト定メタルコト  
 一 一千八百七十六年七月二十二日發兌ノ法律ニ依リ此マデ法  
 律上五弗以下ノ負債ヲ辨濟スルノ効力ヲ備タル貿易弗貨ヲ  
 シテ同後右効力ナカラシメタリ  
 一 一千八百七十五年一月發兌ノ法律ニ依リ凡テ私民ノタメ金



其鑄造料ヲ減シ價ノ一該貨幣ニ混入シタルモノノ價ノミヲ課  
スベキトヲ定メタリ

一アリソン氏カ議案ニ基キ一千八百七十八年二月二十八日發  
兌ノ法律ニ依テ處分セシ事項左ノ如シ

一政府ノタメ九百位四百十二ト半「ダレン」銀貨ノ鑄造高ハ

一ヶ月ニ付最小ニシテ二百萬弗最大ニシテ四百萬弗ヲ限

ルベキト又特別ニ契約ヲ以テ之ヲ定メル旨條ヲ除クノ

外凡テ右貨幣ハ充公ノ通用力ヲ備フベキト

一國際貨幣會議ヲ募集スルノ方法如何ヲ定シタルト

一若シ貯備正銀貨アルノ節ハ大藏省ニ於テ十弗二十弗五十

弗等ノ稱号ヲ以テ右正銀額ニ應シ貯備銀券ヲ發兌スルノ

権力ヲ得サシメタルト

一千八百六十三年三月三日發兌ノ法律ハ若シ貯備正金貨

九元

若クハ地金アルノ節ハ大藏省ニ於テ十弗二十弗五十弗ヲ

ノ稱号ヲ以テ右正金額ニ應シ貯備金券ヲ發兌スルノ権力ヲ

得サシメタリ

一凡テ貯備金銀券ハ大藏省ニテ之ヲ受納スル者ナリ

一千八百一十五年六月十四日發兌ノ法令ハ一千八百一十九

年一月一日以後ニ至リ當時流通ノ通用官券ハ五十弗以上ヲ

一纏ハトナシ大藏卿悉皆正金ヲ以テ之ト引換ルベキトヲ布

告シタリ

一右通用官券ハ凡テ関稅及「公債証書利子辨済」ノタメニ用井

ル能ハス

亞米利加合衆國紙幣及「手形流通畧記

一毎年十二月三十日ニ當リ亞米利加合衆國議院ノ開設アルトテ諸

官省ヨリノ報告書ハ此處ニ集リ來ルノ例ヲ「モ当年ハ未ク



此期ニ至ラザルヲ以テ茲ニ當年ノ実況ヲ揭ルル爲メハズ  
 一今曾テ貨幣事務長ノックス氏カ指シ、報告書依リ

一千八百七十七年十一月一日ニ係ル流通紙幣(即チ通用貨幣  
 ニシテ所謂ル「グリーン、バック」ナル者)及チ国立銀行手形ノ数  
 額及チ稱号ヲ掲ルル左ノ如シ

稱 號	国立銀行手形	通用紙幣	合 計
一 弗	三、八〇〇、四五九	二四、八〇六、四五七	二八、六〇六、九一五
二 弗	二、二八二、八八四	二四、六〇〇、五四四	二六、八八三、四二八
五 弗	九三、五〇四、九〇〇	五二、九三二、一四八	一四六、四三七、〇四八
十 弗	九八、三一二、八五〇	六三、一四六、八六一	一六一、四五九、七一
二十 弗	六五、四五四、五〇〇	六〇、八三六、四九五	一二六、二九〇、九九五
五十 弗	二二、二五五、一〇〇	三〇、一〇八、七一五	五二、三六三、八一五
百 弗	二八、八〇〇、〇〇〇	三〇、一七六、六七〇	五八、九七六、六七〇

二百 弗	一、二〇三、五〇〇	二四、七五二、五〇〇	三五、九五六、〇〇〇
千 弗	二五七、〇〇〇	三四、一二三、五〇〇	三四、三八〇、五〇〇
總 計	三一五、八七一、一九〇	三五五、四八三、八九二	六七一、三五五、〇八二

右ニ掲タル数額中一千八百七十七年十月一日ニ當リ国立銀  
 行ノ櫃内ニアリタル者即チ左ノ如シ

綠背手形 (グリーンバック)	六六、九〇〇、〇〇〇
国立銀行手形	一五、六〇〇、〇〇〇
總 計	八二、五〇〇、〇〇〇

合衆國大藏卿ゼイムス、ギルフラン氏カ報告書ニ依レバ一  
 千八百七十七年九月三十日ニ當リ合衆國大藏省庫内ニアリ  
 タル者即チ左ノ如シ

綠背手形	八二、五〇〇、〇〇〇
国立銀行手形	一四、一〇九、〇四一



総計

九六、九三二、一六一

一千八百七十六年四月二十日ニ當ルニ拾五セント及ヒ拾「セント」小手形ノ通用貨幣ノ効力ナキト雖モ諸官省ニ於テ綠背手形ト交換シ得ベク又租税ノ種属ニ依リ之ヲ以テ此ニ宛テ得ベキ者流通間ニマリタル者即チ左ノ如シ

総計

四一、五〇八、六三七

其内一千八百七十七年十月三十一日マデニ流通間ヨリ引去タル者即チ左ノ如シ

総高

二三、一五六、一六二

差引

一八、三五二、五七五

一千八百七十五年一月十四日ヨリ一千八百七十七年十月二七日マデニ流通間ヨリ引去タル者

九八

二七、五〇九、一〇八

○ドクトル、リンドルマン氏カ書中ヨリ抜萃シタル貨幣鑄造高畧記

年	金貨	通用銀貨	補助銀貨	小貨幣
一千七百九十三年ヨリ	二、八二五、八九〇	五六、二七五、七七九		六五、八五九、一五八
一千八百三十四年ヨリ	二、二四、九六五、七三〇	四二、九三八、二九四、〇〇〇		七、八七、八八五、八一
一千八百五十三年ヨリ	五、四四、八六四、九二一	五、五三八、九四八、〇〇〇	五七、四四三、七九二	九、九七九、三六一、一六
一千八百七十三年ヨリ	二、〇一、五〇三、一五四		四二、〇九四、八五三、三三〇	一、四五八、八六五、〇〇〇

一千八百五十三年以前ハ流通間ニアル處ノ銀貨其過半ハ皆十半弗貨ナリキ

一千八百七十三年ヨリ一千八百七十七年マデノ間ニ鑄造シタル貿易弗貨額數ハ二千四百三十九、三百五十弗ナリ

キ



一 合衆國造幣ニ長、シゲルマン氏が概算ニ依リ、バ合衆國  
ノ貴重鑛屬高貨幣并ニ地金ハ左ノ如シ

一千八百七十六年六月三十日分

金	一五、一五〇、〇〇〇
銀	三〇、〇〇〇、〇〇〇

合計 一八一、五〇〇、〇〇〇

一千八百七十七年六月三十日分

金	一九二、五〇〇、〇〇〇
銀	五〇、〇〇〇、〇〇〇

合計 二四二、五〇〇、〇〇〇

エス、ダアナア、ホルトン記

第五號

一千七百九十二年合衆國大蔵卿アレキサンドル、ハミル

トン氏カ指出サレタル報告書抜萃(一千八百七十八年龍

動出版フランシイス、エウオールカル氏カ著述ノ貨幣論第

二百六十九「ペイヂ」ニ出ツ

一 要スルニ今兩貨幣ノ一ヲシテ獨リ價ノ起票タルベキ権力ヲ  
得サシムルハ甚タ悪シキコナリ其故ハ若シ抑止スレバ他ノ  
一貨幣ハ全ク其通用貨幣タルノ効力ヲ失フテ尋常百般ノ物  
賃ト同様ノ位置ニ陥ルベク而シテ若シ強ヒテ之ヲ拒ント  
欲セバ必ス前ノ事行ハレ難シ又今一貨幣ヲシテ通用貨幣ト  
ルノ効力ヲ失ハシムルノ舉アレバ是レ即チ流通貨幣ノ額數  
ヲ減サスルニシテ固ヨリ流通ニハ不利トシテ利益ト流通之  
キノ弊害ハ必ス候々ズシテ明カナルベシ







